

# HP OpenView Operations for Windows

インストールガイド

バージョン : 7.5

Windows® Operating System



**Manufacturing Part Number: B7491-99049**

**2005 年 4 月**

© Copyright 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## ご注意

### 保証について

Hewlett-Packard 社は、この文書に関して市場性および特殊目的への適合性の暗黙の保証を含む一切の保証を行わないものとします。Hewlett-Packard 社は、この文書内の欠陥に対して、およびこの文書の提供、実行、または使用に関連する直接損害、間接損害、実損害、偶発損害、および結果損害に対して責任を負わないものとします。

ご使用の Hewlett-Packard 製品に適用される個別の保証条項の複写は、お近くの営業所で入手できます。

### 法律上の権利の制限について

合衆国政府による使用、複製、および開示に関しては、国防総省機関については DFARS 252.227-7013 の「技術データおよびコンピュータ ソフトウェアにおける権利」条項の (c)(1)(ii) 項で定める制限事項がそれぞれ適用されます。

Hewlett-Packard Company  
United States of America

その他の機関に対しては、FAR 52.227-19(c)(1) および (c)(2) で定める制限事項がそれぞれ適用されます。

### 著作権について

© Copyright 1983-2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

当社の事前の書面による承諾なく、本書のコピー、改変、または別の言語への翻訳を行うことは禁じられています。この情報は予告なしに変更されることがあります。

### 商標について

OpenView® および VantagePoint® は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の商標です。

Adobe™ および Acrobat™ は Adobe Systems Incorporated の商標です。

Microsoft® および Windows NT® および Windows 2000® および Windows® および MS Windows® は Microsoft Corporation の米国内での登録商標です。

Pentium® は Intel Corporation の米国内での登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

その他の製品名は各社の商標またはサービス マークです。

## サポート

次の HP OpenView Web サイトを参照してください。

**<http://www.managementsoftware.hp.com/>**

この Web サイトでは、HP OpenView で提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

また、サポートの Web サイトに直接アクセスいただくこともできます。

**<http://support.openview.hp.com/>**

HP OpenView オンライン ソフトウェア サポートは、お客様自身が問題を解決するための機能を提供します。ビジネスの管理に必要な、インタラクティブなテクニカル サポート ツールに迅速かつ効率的にアクセスする方法が用意されています。サポート サイトを利用されるお客様には、次のような利点があります。

- 目的に合った知識ドキュメントを検索できます。
- サポート ケースを提出し、進捗状況を追跡できます。
- サポート契約の管理を行えます。
- HP サポート契約を検索できます。
- 利用できるサービスに関する情報を検索できます。
- ソフトウェアを利用する他のお客様と対話できます。
- ソフトウェア トレーニングを調べ、登録できます。

サポートのほとんどの領域は、HP Passport ユーザーとしてのご登録と、ログインを必要とします。また、多くのサポートはサポート契約を必要とします。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトを参照してください。

**[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)**

HP Passport ID の登録は、次の Web サイトで行ってください。

**<https://passport.hp.com/hpp2/newuser.do>**

# サポート終了に関するお知らせ

## OVO 7.5 でのサポート終了

次のプラットフォームは、OVO 7.5 ではサポートされません。次のドキュメントに記載されているサポート マトリクスも合わせてご覧ください。

[http://support.openview.hp.com/tech\\_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf](http://support.openview.hp.com/tech_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf)

### 管理ノード / エージェント プラットフォーム

- Debian Linux 2.x
- Novell Netware 4.1x
- HP-UX 10.20

### Web コンソール プラットフォーム

- Microsoft Internet Explorer 4.0 および 5.0
- Netscape 4.7

### 統合ソリューション

- Reporter 3.01、3.02、および 3.5
- NNM 6.2 および 6.41
- PD 1.1
- OVIS 4.0、4.5、および 5.0

## OVO 7.5 後のサポート終了

HP OpenView Operations for Windows の 7.5 後の主要リリースでは、次の管理ノード プラットフォームがサポートされなくなる予定です。

HP では、お客様のご意見をお待ちしております。次回の主要リリースでも、ここに示す管理ノード プラットフォームのサポートを希望される場合は、HP の担当営業またはサポート担当者までご連絡ください。

### 管理サーバー プラットフォーム

次の管理サーバー プラットフォームのサポートは終了する予定です。

- Microsoft Windows 2000 Server/Advanced Server/Datacenter Server Edition

## **管理ノード プラットフォーム**

次のエージェント プラットフォームのサポートは終了する予定です。

- Microsoft Windows NT 4.0 Workstation/Server/Enterprise Edition
- HP-UX 11.22
- Tru64 UNIX 4.x、5.0A、5.1
- AIX 4.3.1、4.3.2、および 4.3.3
- OpenVMS 7.3.1
- SuSE Linux 6.x、7.x、および 8.0
- RedHat Linux 6.x、7.x、8.0、および 9.0
- Mandrake Linux 9.2
- Turbo Linux 6.x および 7.0

## **Web コンソール プラットフォーム**

次の Web コンソール プラットフォームのサポートは終了する予定です。

- Microsoft Internet Explorer 5.5



# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>HP OpenView Operations for Windows</b> .....	11
	このマニュアルについて .....	11
	OVO for Windows について .....	12
	Smart Plug-in for Windows Operating System .....	13
	Smart Plug-in for UNIX Operating System .....	13
	Smart Plug-in for Web Server .....	14
	OVO に含まれる製品 .....	14
	OVO for Windows の CD .....	14
	メディアキット .....	15
	インストール計画用チェックリスト .....	17
	エージェントのインストール .....	19
	再インストール計画用チェックリスト .....	19
<b>第 2 章</b>	<b>要件</b> .....	21
	ハードウェア要件 .....	21
	リモート コンソール .....	21
	管理サーバーとコンソール .....	22
	エージェント .....	22
	ソフトウェア要件 .....	23
	管理コンソール / サーバー結合システム (Windows 2000 および 2003 のみ) .....	23
	リモート管理コンソール .....	23
	OVO Web コンソール .....	24
	インストールの前に .....	25
	アップグレードを行う場合 .....	25
	Windows サービスの要件 .....	26

OVO と Internet Information Services (IIS) .....	26
Windows エージェントに必要なサービス .....	27
基本サービス.....	27
インストールとアンインストール.....	28
ポリシー タイプに必要な追加のサービス .....	29
アクションやツールの起動に必要な追加のサービス .....	29
ネットワーク要件とプロトコル .....	30
Windows 2000/2003 完全修飾ドメイン名 (FQDN) .....	30
ネットワーク プロトコル.....	31
データベースの要件 .....	31
Microsoft SQL Server 2000 と Microsoft Desktop Engine のサポート .....	31
OpenView Performance Agent.....	32
エージェントの手動インストール .....	32
サポートされない設定 .....	33
セキュリティ要件 .....	34
管理サーバーのインストール .....	34
リモート コンソールのインストール .....	34
管理ノードの追加 .....	35
他のドメインおよびドメイン全体からの管理ノードの追加 .....	36
管理ノードで使用されるアカウント .....	37
LocalSystem アカウント .....	37
デフォルトの LocalSystem アカウントの利点.....	38
HP ITO Account と opc_op アカウント .....	38
HP ITO Account.....	39
opc_op アカウント .....	40
UNIX システムの root エージェント アカウント .....	41
ファイアウォール環境での OVO の使用.....	42
Windows に組み込まれているファイアウォールの設定 .....	42
OVO 管理サーバー.....	42
OVO リモート コンソール .....	44
Windows ファイアウォールが組み込まれたシステムでのコンソールの 使用.....	44
コンソールから Windows ファイアウォールが組み込まれた管理サーバー システムへの接続.....	46
OVO Web コンソール.....	48



<b>第 3 章</b>	<b>リモート データベースのインストール</b> .....	49
	ローカル データベース.....	49
	リモート データベース.....	50
	OVO リモート データベース設定ツール.....	51
<b>第 4 章</b>	<b>OVO の標準インストール</b> .....	63
	管理サーバーおよびコンソールのインストール.....	64
	リモート コンソールのインストール.....	65
	ターミナル サービスによる OVO のインストール.....	65
	インストールの前に.....	66
	ライセンス情報.....	66
	OVO のインストール.....	67
	ライセンス情報の入力.....	82
	標準版ライセンスの請求.....	84
	インストールの結果.....	85
	インストール ログ ファイル.....	85
	高度なセキュア Windows 環境への OVO のインストールと実行.....	86
	高度なセキュリティ設定と OVO への影響.....	86
	制限グループ設定を適用した OVO の実装.....	87
	要件.....	87
<b>第 5 章</b>	<b>OVO のクラスタ インストール</b> .....	89
	クラスタ セットアップの概要.....	90
	管理サーバーとコンソールのインストール.....	93
	インストールの前に.....	93
	ライセンス情報.....	94
	クラスタの要件.....	95
	サポートされない構成.....	96
	OVO のインストール準備.....	97
	OVO のインストール.....	100
	最初のクラスタ ノードへの OVO のインストール.....	100
	残りのクラスタ ノードへの OVO のインストール.....	118
	インストールの結果.....	123
	インストール ログ ファイル.....	123
	OVO クラスタ インストールの検証.....	124

	SPI またはアドオン製品のインストール .....	126
<b>第 6 章</b>	<b>OVO のアンインストールと再インストール</b> .....	<b>127</b>
	Windows 管理ノードからのポリシーとパッケージのアンインストール .....	127
	OVO のアンインストール .....	128
	アンインストールの前提条件 .....	128
	OVO のアンインストール手順 .....	130
	リモート データベースの削除 .....	134
	OVO for Windows の再インストール .....	135
	管理サーバーの再インストール .....	135
	データベース .....	136
	インストール先ディレクトリ .....	138
	リモート コンソールの再インストール .....	138
<b>第 7 章</b>	<b>インストール後の作業</b> .....	<b>139</b>
	OVO の操作方法 .....	140
	コンソールの概要 .....	141
	Microsoft Management Console (MMC) とそのメニュー .....	142
	Web コンソール インタフェース .....	142
	OVO メニュー .....	142
	詳細ペイン .....	142
	コンソール ツリー .....	143
	設定可能な項目 .....	144
<b>索引</b>	.....	<b>163</b>

# HP OpenView Operations for Windows

## このマニュアルについて

このガイドは、Windows に習熟した管理者を対象としています。説明する内容は、次のとおりです。

- 第1章は、このガイドの対象範囲について説明します。次の内容が含まれます。
  - OVO for Windows とコア SPI の概要
  - OVO に含まれる製品のリスト
  - インストール計画用チェックリスト
- 第2章「要件」で説明する内容は、次のとおりです。
  - OVO の管理サーバーと管理コンソールのインストールに必要な、ソフトウェアおよびハードウェアの要件
  - OVO を正しく実装するために必要なセキュリティとアカウントに関する情報
  - OVO のファイアウォール設定
- 第3章「リモート データベースのインストール」は、リモート データベースのインストール手順を示します。
- 第4章「OVO の標準インストール」と第5章「OVO のクラスタ インストール」は、クラスタ化されていない環境と、クラスタ化されている環境に OVO をインストールする手順を示します。

- 第6章「OVO のアンインストールと再インストール」は、OVO のアンインストールと再インストールについて説明します。
- 第7章「インストール後の作業」は、OVO の使用について簡単に説明します。
- 付録「ドキュメント」は、使用可能なドキュメント、ファイル名、および場所を示します。

▶ この付録に一覧表示される「ドキュメント」は、有益な情報源として利用できます。十分に目を通してください。

▶ 従来の『OVO for Windows インストール ガイド バージョン 7.21』に記載されていた情報の一部は、次の場所に転載されています。

- 「セキュリティグループおよびアカウント」- オンラインヘルプの「環境の管理」→「OVO セキュリティ」→「HP-OVE-User アカウントおよび HP-OVE-Group アカウント」
- 「NTFS のアクセス要件」- オンラインヘルプの「環境の管理」→「OVO セキュリティ」→「NTFS パーティションのアクセス要件」
- 「ツールの設定」- オンラインヘルプの「環境の管理」→「ツールの設定」
- OVO 7.5 がサポートするエージェント、管理サーバー、コンソールプラットフォームについては、以下に記載されているサポートマトリクスを参照してください。

[http://support.openview.hp.com/tech\\_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf](http://support.openview.hp.com/tech_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf)

## OVO for Windows について

HP OpenView Operations for Windows (OVO) は分散型のクライアント / サーバーソフトウェアソリューションです。サービス主導型のイベントを提供し、ビジネスクリティカルなエンタープライズシステム、アプリケーション、およびサービスのパフォーマンスを管理します。

OVO はさまざまな機種が分散している e-ビジネス インフラストラクチャを管理できます。Windows と UNIX の幅広いシステム、および電子商取引、Web サーバー、アプリケーションサーバー、会議システム、電子メール、データベース、ERP ソフトウェアなどの各種アプリケーションをサポートします。

OVO には、コンソールおよびサーバー機能があり、管理ノードにインストールされたエージェントを使用してパフォーマンスおよびイベントを一元的に監視します。アドオンおよび SPI を使用するには、事前に管理サーバーに OVO をインストールしておく必要があります。

OVO の基本機能として含まれるコンポーネント (3 つのコア SPI、NDAOM、NNMA) は、単独で購入またはインストールする必要はありません。

メディアに含まれ、このドキュメントで説明する、その他すべての製品については、追加のライセンスを購入する必要があります。

## Smart Plug-in for Windows Operating System

Smart Plug-in for Windows Operating System (Windows OS SPI) により、Windows ノードの運用とパフォーマンスを管理する事前設定ポリシーおよびツールが提供されます。この機能は OVO 製品の一部として提供され、Windows アプリケーション (MS BackOffice アプリケーション、MS Web Server、ウイルス対策アプリケーション、VERITAS Backup、Citrix MetaFrame、Dell OpenManage、HP Systems Insight Manager、Active Directory の基本監視機能など) を管理するためのポリシーなど、システムと基本的なアプリケーションの管理が含まれています。管理ポリシーは、必要に応じて容易にカスタマイズできます。

Windows OS SPI は、OVO や関連製品とシームレスに統合されています。この統合により、ポリシー、ツール、および強力なサービス自動検出機能が提供されます。

## Smart Plug-in for UNIX Operating System

Smart Plug-in for UNIX Operating System (UNIX OSSPI) は OVO と完全に統合されており、UNIX システムの分散環境の管理を可能にします。

UNIX OSSPI は、UNIX オペレーティングシステムと、関連するソフトウェアおよびハードウェアの可用性を監視し、機能を管理します。UNIX OSSPI が主に提供する機能は、UNIX ベースの IT インフラストラクチャで使用される主要要素を迅速に制御するための、事前に定義されたポリシー、ツール、ユーザー ロールと、強力なサービス自動検出機能です。

## Smart Plug-in for Web Server

HP OpenView Web Server SPI は、Web サーバーの監視と管理に使用されます。Web サーバーのプロセス、ログ ファイル、パフォーマンスを監視するための、事前に設定されたポリシーと、管理のためのツールが提供されます。この SPI が現時点でサポートする Web サーバーは、次のとおりです。

- Apache Software Foundation (ASF) の Apache と HP Apache
- iPlanet
- SunONE

## OVO に含まれる製品

### OVO for Windows の CD

HP OpenView Operations 7.5 for Windows 製品には、スタートアップ CD とスタンドアロン エージェント CD の 2 枚の CD が含まれます。

- サーバーに OVO コンソール、サーバー、またはリモート コンソールをインストールするときは、スタートアップ CD を使用します。OVO スタートアップ CD にはコア SPI が含まれています。また、OVO が OV Network Node Manager など他の製品と統合されている場合に、その製品を使用して OVO の機能を拡張するためのモジュールも格納されています。このモジュールには、Network Node Manager Adapter と Network Diagnosis Add-On Module があります。
- OVO コンソールおよびサーバーのインストール後に、管理対象のノードに CD から OVO エージェントを手動でインストールするときは、スタンドアロン エージェント CD を使用します。

スタートアップ CD には、OVO のインストール ガイドとアップグレード ガイド、OVO リリース ノート、コア SPI リリース ノート、Reporter 3.6 ReadMe、およびホワイトペーパーも格納されています。すべてのリリース ノート ドキュメントは、CD の \Documentation\Releasenotes ディレクトリに保存されています。ホワイトペーパーは \Documentation\Whitepapers ディレクトリに保存されています。次のようなホワイトペーパーがあります。

- OVOWFirewall\_.pdf
- OVOW\_6.x\_Upgrade.pdf
- OVOW\_NodeName\_Change.zip
- OVOW\_HA-with\_SQL\_Log\_Shipping.zip
- Backup / Restore.pdf

▶ OVO 7.5 インストール用メディアのファイルをファイル システムにコピーする場合は、適用される制約に注意してください。初期バージョンの OVO とは異なり、製品 CD のすべてを 1 つのフォルダにコピーすることはできません。基本部分の CD と SPI の CD は、別々のフォルダに保存してください。

▶ パスに英語以外の文字が含まれる場合、英語以外のシステムに英語バージョンの OVO for Windows 7.5 をインストールすることはできません。

## メディア キット

HP OV メディア キットには、HP OV Operations for Windows CD のほかに SPI (Smart Plug-in) が含まれており、「アドオン」製品が含まれる場合もあります。SPI とアドオン製品は、HP OV Operations for Windows での使用がテストされているため、そのままの状態ですべてのソリューションの構築に使用できます。メディア キットに含まれるソフトウェアは次のとおりです。

- HP OpenView Operations 7.5 for Windows ( スタートアップ CD、スタンドアロン エージェント CD)
- OpenView Operations 7.5 for Windows 用の HP OpenView 新規および更新版 SPI (Volume 1 CD、Volume 2 CD)
- HP OpenView Reporter 3.6
- HP OpenView Performance Manager 5.0 for Windows
- HP OpenView Network Node Manager 7.5 for Windows(r) 2000, Windows(r) XP, Windows Server™ 2003 ( 現在は NNM に組み込まれている Problem Diagnosis を含みます)

- HP OpenView Performance Agent (プラットフォームごとのバージョンについては、各 CD を参照)
- HP OpenView Internet Services 6.0

▶ OVO for Windows Limited Edition には、アドオン製品は含まれません。また、Limited Edition には、ローカライズされたバージョンが用意されていない場合があります。

▶ OVO と統合された SPI (Smart Plug-in) は、そのままの状態で使用できるモジュールであり、エンタープライズオペレータが、Microsoft Exchange、データベース、Microsoft Active Directory などから構成される複雑なビジネスアプリケーションおよび IT インフラストラクチャを監視し、管理できるよう支援します。

SPI は、OV Operations 7.5 for Windows コンソールおよび管理サーバーのインストール後にインストールします。SPI の詳細については、OpenView Operations 7.5 for Windows の新規および更新版 SPI の Volume 1 CD に収録されているドキュメントを参照してください。

▶ メディアキットの内容は、OVO 7.5 以降へのバージョンアップ前に変更される可能性があります。より新しいバージョンの製品が収録され、評価用の製品が追加または削除される可能性があります。また、HP OpenView Operations for Windows Limited Edition とは、パッケージの内容が異なる場合があります。

製品のドキュメントについては、付録 A、「ドキュメント」を参照してください。



# インストール計画用チェックリスト

OVO のインストールを計画する際には、次のチェックリストを使用して、コンソール、サーバー、または両方のインストールを開始する前に重要な情報を確認してください。

## タスク 1: OVO コンソール/サーバーをインストールする場所

- これまでに OVO をインストールしたことがないサーバー  
この場合は、このチェックリストの残りの項目を確認し、第 2 章「要件」に進み、OVO の初めてのインストールについて詳細な情報を参照してください。
- 以前にインストールした OVO を削除したシステム  
この場合は、チェックリストの残りの項目と、その後の「再インストール計画用チェックリスト」を確認してください。
- OVO がすでにインストールされており、OVO のアップグレードを検討しているシステム  
この場合は、OVOW スタートアップ CD のドキュメント ディレクトリに格納されている『HP OV Operations 7.5 for Windows アップグレード ガイド』を参照してください。このアップグレード ガイドは、クラスタ化されていない OVO サーバーから MS Cluster で稼動する OVO サーバーにデータを移行するための、アップグレード 手順および並列移行手順についても説明しています。
- Microsoft Cluster 上の OVO 仮想サーバー  
この場合は、このチェックリストの残りの項目を飛ばして、第 5 章「OVO のクラスタ インストール」に進みます。このチェックリストは、Microsoft Cluster への OVO のインストールには適用されません。

## タスク 2: 管理対象ノードへのソフトウェア (OVO エージェントおよびパッケージ) のインストールに適用される企業ポリシー

Windows ノードの管理と、ノードへの OVO エージェントのインストールを OVO サーバーに自動的に実行させるか、または OVO エージェントおよびパッケージを手動でインストールするか。

どちらの種類インストールを選択するかについては、34 ページの「セキュリティ要件」を参照してください。

このセクションは、インストール時にどのようなアカウントが作成され、それが OVO でどのように使用されるか、また、Windows ノードの管理とエージェントのインストールを自動的に行う OVO サーバーの機能が、インストールの種類によってどのように制限されるかについて説明します。

### タスク 3: セキュリティ ルールを適用するために、企業が Microsoft Security テンプレートを使用しており、OVO のインストールを予定しているサーバーにそれがインストールされている

この場合は、インストールを開始する前に、86 ページの「高度なセキュア Windows 環境への OVO のインストールと実行」および 34 ページの「セキュリティ要件」を参照してください。

### タスク 4: サーバーに完全修飾ドメイン名 (FQDN) が設定されている

サーバーが FQDN を使用するように設定され、この FQDN が DNS ネームスペース全体で該当サーバーを一意に識別できることを確認してください。

### タスク 5: どのようなデータベース構成の利用を検討しているか

(再インストールの場合は、このセクションを飛ばしてください)

- 新規データベース (MSDE) をローカルにインストールするデフォルト設定を使用する  
この場合は、次のチェックリスト項目に進んでください。インストール時にデフォルト設定を使用する場合は、特別な手順は必要ありません。
- リモート システム (OVO をインストールするサーバー以外のサーバー) のデータベース (Microsoft SQL Server 2000 Standard Edition または Enterprise Edition) を使用する
- Microsoft SQL Server 2000 Standard Edition または Enterprise Edition によってインストールされたデータベースに接続する
  - データベースをローカルにインストールした場合は、特別な操作は必要ありません。
  - データベースをリモート システム (OVO をインストールするシステム以外のシステム) にインストールした場合は、OVO のインストールを開始する前に 51 ページの「OVO リモート データベース設定ツール」を参照してください。OVO をインストールする前にリモート データベースを設定する必要があります。この要件は、Microsoft SQL Server 2000 Standard Edition または Enterprise Edition を使用する場合に適用されます。

## エージェントのインストール

エージェントのインストールは、OVO Windows サーバーによる管理の対象とする Windows ノードを選択すると、自動的に行われます。35 ページの「[管理ノードの追加](#)」を参照してください。

UNIX および Linux システム用のエージェントは、手動でインストールする必要があります。サポートされるシステムについては、[http://support.openview.hp.com/tech\\_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf](http://support.openview.hp.com/tech_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf) を参照してください。



必要に応じて、Windows ノードにエージェントを手動でインストールすることもできます。エージェントの手動インストールは、OV Operations for Windows のエージェント CD または管理サーバーから行います。

エージェントの手動インストールについては、オンライン ヘルプの「[環境の管理](#)」→「[ポリシーの管理と配布](#)」→「[配布関連のタスク](#)」の「[Windows コンピュータへのエージェントのインストール](#)」または「[UNIX コンピュータへのエージェントのインストール](#)」を参照してください。

## 再インストール計画用チェックリスト

このリストは、以前にインストールされていた OVO をアンインストールしたサーバーに OVO を再インストールする場合にのみ使用してください。

### タスク 1: HP ITO アカウントが存在し、今後もそれを使用する

デフォルトでは、OVO 7.5 は実行する Windows エージェントをローカル システム アカウントにインストールします。ただし、HP ITO アカウントが存在する場合は、インストーラはその HP ITO アカウントの使用を継続します ( エージェントがそれを使用する場合 )。ローカル システム アカウントを使用する場合は、エージェントを手動で切り替える必要があります。詳細については、37 ページの「[管理ノードで使用されるアカウント](#)」を参照してください。

### タスク 2: HP-OVE-Group アカウントが存在する

既存の Domain HP-OVE-Group アカウントを再利用する場合は、インストール時に既存のグループ アカウントを指定します。

### タスク 3: HP-OVE-User アカウントが存在する

既存の HP-OVE-User アカウントを再利用する場合は、再インストール時にこのアカウントを使用するためのパスワードを入力する必要があります。

**タスク 4: どのようなデータベース構成の利用を検討しているか (再インストール時のみ)**

— 既存の OVO データベース サーバーが存在するが、新しいデータベース サーバー (MSDE または SQL2000) を作成する

この場合は、インストールを開始する前に、古いデータベース ファイルを削除します。ローカル MSDE (リモート SQL 2000 ではない) のインストールでは、古いデータベース ファイルは %OvDataDir%\Databases ディレクトリに格納されています。このフォルダ内のすべてのファイルを削除することで、古い Openview データベースと Reporter データベースを削除できます。

— OVO 7.2x によってインストールされた既存の OVO データベース サーバーを使用する

- 既存のデータベースが MSDE であれば、OVO 7.5 のインストーラは MSDE を再インストールし、既存のデータベース ファイルを再利用します。また、データベース スキーマを新しい OVO 7.5 の構造に更新します。
- 既存のデータベース OVOPS が SQL2000 サーバーである場合、OVO 7.5 インストーラは、このデータベースに再接続できます。OVO が SQL Server 内の OVOPS インスタンスに再接続するには、このインスタンスに対する管理権限と、「sa」ユーザー パスワードが必要です。データベース スキーマは、インストール時に新しい OVO 7.5 の構造に更新されます。

注意：既存のデータベースを使用する場合は、操作を行う前にバックアップしておくことをお勧めします。OVO スタートアップ CD の \Documentation\Whitepapers ディレクトリに格納されている Backup/Restore.pdf ファイルを参照してください。

— MSDE 内の既存の OVO データベース サーバーを SQL2000 にアップグレードする

この場合は、OVO のインストールが完了した後で、SQL 管理者がアップグレードを行う必要があります。MSDE から SQL2000 へのアップグレードについては、SQL2000 のドキュメントを参照してください。OVO は、MSDE データベースから SQL2000 へのアップグレードを行いません。

# 要件

## ハードウェア要件

ここでは、OVO の最小ハードウェア要件を示します。

### リモート コンソール

OVO リモート コンソール システムは、180 MB 以上の空きディスク容量を必要とします。ただし、サードパーティ製の追加 SPI や、統合するその他の OVO アプリケーションによって、それ以上のディスク容量が必要になる場合もあります。

- 500 MHz の Intel Pentium ( または互換 ) プロセッサを搭載した PC、1 GHz 以上を推奨。
- ネットワーク上の共有データからインストールする場合を除き、CD-ROM または DVD-ROM ドライブ。
- 256 MB の物理メモリと 512 MB 以上の仮想メモリ ( ページファイル )。
- インストールに必要な 180 MB の空きハードディスク容量、1 GB 以上を推奨。
- 最小要件は 1024 x 768 の解像度を持ち、256 色以上を表示できる 17 インチ モニタ。1280 x 1024 の解像度を持ち、256 色以上を表示できる 19 インチ モニタを推奨。

## 管理サーバーとコンソール

- 1.4 GHz 以上の Intel Pentium 4 (または互換) プロセッサ (32ビット モードをサポートする AMD Opteron および Athlon 64 CPU)。2 GHz 以上またはデュアル CPU システムを推奨。
- 512 MB の物理メモリと 512 MB 以上の仮想メモリ (ページファイル)。1 GB 以上の物理メモリを推奨。
- 10 GB 以上のハードディスク ドライブ空き容量、インストールに 1.2 GB を使用 (選択する製品オプションによって異なります)。管理サーバーは、NTFS ボリュームへのインストールのみをサポートします。
- イベント データベースとパフォーマンス データベース用に、高性能ハードドライブの 4 GB 以上の空き容量を推奨。
- ネットワーク上の共有データからインストールする場合を除き、CD-ROM または DVD-ROM ドライブ。
- 最小要件は 1024 x 768 の解像度を持ち、256 色以上を表示できる 17 インチ モニタ。1280 x 1024 の解像度を持ち (コンソールシステムとして使用する場合)、256 色以上を表示できる 19 インチ モニタを推奨。
- マルチプロセッサ システムはサポートされます。
- Microsoft Cluster はサポートされます。
- Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.62.7400.0001 以降。

## エージェント

▶ OVO 7.5 がサポートするエージェント、管理サーバー、コンソールのプラットフォームについては、  
**[http://support.openview.hp.com/tech\\_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf](http://support.openview.hp.com/tech_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf)**  
に記載されているサポート マトリクスを参照してください。

また、各プラットフォームの前提条件については、オンライン ヘルプの「Windows コンピュータへのエージェントの手動インストール」または「UNIX コンピュータへのエージェントのインストール」(「環境の管理」→「ポリシーの管理と配布」→「配布関連のタスク」) を参照してください。

## ソフトウェア要件

### 管理コンソール / サーバー結合システム (Windows 2000 および 2003 のみ)

- Windows 2000 Server Edition または Advanced Server Edition の SP3 以降、または Windows 2003 Standard Edition、Enterprise Edition、または Data Center Edition。
- ドキュメントの表示には、Adobe Acrobat Reader 5.0 以降が必要です。インストール CD からインストールするか、または Web サイト [www.adobe.com](http://www.adobe.com) からダウンロードしてください。
- Internet Explorer 6.0 以降。
- Internet Information Services (IIS) 5.0 または 6.0。最小要件については、本章の 26 ページを参照してください。
- OVO を稼働させ、DNS 検出を使用する場合は、DNS サーバーを設定する必要があります。DNS サーバーは「ゾーン転送を許可するサーバー」として設定してください。DNS と AD (Active Directory サービス) のドメイン名が異なる場合は、AD ドメイン名と一致するように、DNS サーバーの設定で「新しいゾーン」を作成する必要があります。また、OVO で検索できるように、セカンダリ DNS サーバーをネーム サーバーのリストに追加することもできます。データがドメインに伝達され、OVO の検出によって正しく表示されるまで、数時間かかる場合があります。これらのゾーンを正しく設定する方法については、DNS サーバーのマニュアルを参照してください。

### リモート管理コンソール

OVO は、Windows 2000、XP、2003 でリモート コンソールをサポートします。

- Adobe Acrobat Reader 5.0 以降が必要です。インストール CD からインストールするか、または Web サイト [www.adobe.com](http://www.adobe.com) からダウンロードしてください。

- Internet Explorer 5.5 または 6.0 以降。



リモート OVO コンソールは、OVO サーバー システムとリモート コンソール システムが同一 Windows ドメインに存在するか、同等の 2 方向のドメインの信頼性が確保されている場合にのみサポートされます。OVO サーバーのインストールは、ドメイン、またはローカル HP-OVE-User/HP-OVE-Group を使用できます。

## OVO Web コンソール

OVO は、次のプラットフォームでサポートされる Web コンソールを提供します。

- Windows 2000 SP2 以降で実行されている Internet Explorer 5.5
- Windows 2000 SP2 以降で実行されている Internet Explorer 6.0
- Windows Server 2003 で実行されている Internet Explorer 6.0
- Windows XP で実行されている Internet Explorer 6.0
- Windows 2000 SP2 以降で実行されている Netscape 6.1
- RedHat Linux 7.x で実行されている Netscape 6.1



OVO 7.5 がサポートするエージェント、管理サーバー、コンソールのプラットフォームについては、  
**[http://support.openview.hp.com/tech\\_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf](http://support.openview.hp.com/tech_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf)**  
に記載されているサポート マトリクスを参照してください。



## インストールの前に

インストールするコンポーネントの一部は、前提条件として、インストール前にいくつかの手順の実行を必要とします。次に、前提条件について説明します。HP OpenView Express、HP OpenView VantagePoint for Windows、または HP OpenView Operations for Windows の従来バージョンからアップグレードする場合は、インストールを開始する前に、次のアップグレード情報をお読みください。

### アップグレードを行う場合

HP OpenView VantagePoint for Windows 6.0、HP OpenView Express、または HP OpenView for Windows からアップグレードする場合、HP OpenView Operations for Windows のインストール前にいくつかの手順を実行する必要があります。現在インストールされている製品によっては、データおよび作成したカスタム ポリシーを保存しなければならない場合があります。この処理を簡単に実行するためのツールが用意されている場合もあります。

HP OpenView for Windows 7.0 から 7.5 へのアップグレードでは、レポート コンポーネント データベースのバックアップと復元の手順について、OVO スタートアップ CD の \Documentation\Whitepapers ディレクトリに格納されている Backup/Restore.pdf ファイルを参照してください。また、オンライン ヘルプの「環境の管理」→「データベースの保守」→「データベースのバックアップ」の「レポート コンポーネント データベースのバックアップ」、および「データベースの復元」の「レポート コンポーネント データベースの復元」を参照してください。

HP OpenView for Windows 7.0、7.10、または 7.21 から 7.5 へのアップグレードの詳細については、アップグレード ガイド 7.5 を参照してください。



現在使用している製品をアンインストールする場合は、そのバージョンに適用されるアップグレード ガイドを事前にお読みください。『HP OpenView Operations for Windows アップグレード ガイド バージョン 7.5』を参照してください。アンインストールを行うと、管理サーバーのデータは削除され、復元できなくなる場合があります。

## Windows サービスの要件

### OVO と Internet Information Services (IIS)

管理サーバーのインストール時に、OVO は IIS に接続し、それを設定します。まず、サイトに必要であると考えられるすべてのセキュリティパッチが IIS に含まれていることを確認してください。

▶ 利用できる IIS のパッチについては、IIS のドキュメント、および関連する Microsoft の Web サイトを参照してください。

OVO は Internet Information Services (IIS) バージョン 5.0 または 6.0 をサポートします。また、これを実行するために特定のコンポーネントを必要とします。ウイルスからの攻撃を最小にするため、次に示す必要な基本 Web ページサービスのみをインストールすることをお勧めします。

- 共通ファイル (IIS のすべてのインストールで必要です)
- WWW (World Wide Web) サーバー
- Web コンソールをサポートするために ASP (Active Server Page) を管理サーバーで有効化
- Internet Information Services Manager (WWW サーバーを選択すると必ずインストールされます)

その他の IIS コンポーネントはすべてオプションです。

▶ IIS のデフォルトポートを変更する場合には、OVO オンラインヘルプの「レポート」から「デフォルトポートを変更する場合の OVO の設定」を参照してください。また、「環境の管理」→「デフォルトのポート番号の変更」も参照してください。

▶ OVO 7.5 のインストール後に OS をアップグレードする (Windows 2000 から Windows 2003) 場合は、OVO Web コンソールと Graphing Component IIS の拡張が再度有効となるように、IIS の設定を調整する必要があります。

- 1 **[マイコンピュータ]** → **[管理]** を選択します。
- 2 **[コンピュータの管理]** で **[サービスとアプリケーション]** の表示を展開します。
- 3 **[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ]** を選択し、**[Web サービス拡張]** の表示を展開します。
- 4 次の 2 つの Web サービス拡張の設定が「許可」になっていることを確認します。
  - Active Server Pages
  - OV Operations performance graphs

▶ OVO for Windows とともに Microsoft ツール URLScan がインストールされている場合、OVO のグラフ表示機能は機能しません。問題を解決するには、urlscan.ini ファイルで次の設定を変更します。

- UseAllowExtensions=0 を UseAllowExtensions=1 に変更します。
- AllowExtensions セクションに次の行を追加します。
  - .exe
  - .xml
  - .jar
  - .class
- IIS を再起動して、変更を適用します。

デフォルトでは、URLScan 2.0 の urlscan.ini ファイルは C:\WINNT40\system32\inet\urlscan ディレクトリにダウンロードされます。

このユーティリティに関する Microsoft の TechNet リンクは次のとおりです。  
<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/tools/urlscan.msp>

## Windows エージェントに必要なサービス

Windows NT 4.0、2000、XP、および Windows Server 2003 エージェントの要件には、基本サービス、インストールに必要なサービス、特定のポリシータイプに必要なサービス、およびツールの起動に必要なサービスが含まれます。必要なサービスはプラットフォームによって若干異なります。

▶ ポリシータイプには、「Windows 管理インタフェース」と「サービス検出」が含まれます。SNMP と WMI はオプションです。しかし、すべての WinOSSSPI ポリシーが依存しているため、Windows NT 4.0 では WMI の使用が推奨されます。Windows のオンラインヘルプで「WMI により、システム監視用の基盤が提供されます」を参照してください。

### 基本サービス

次の基本サービスが必要です。これらのサービスを停止することはできません。

- Event Log (Windows 2000/2003、Windows NT 4.0、Windows XP)
- Plug & Play (Windows 2000/2003、Windows XP)
- RPC Service (Windows 2000/2003、Windows NT 4.0、Windows XP)

- Security Accounts Manager (Windows 2000/2003、Windows XP)

## インストールとアンインストール

OVO をアンインストールする場合は、インストール時と同じサービスが必要です。必要なサービスはプラットフォームによって若干異なります。次に、Windows 2000/2003 と Windows XP で必要とされるサービスの一部を例として示します。記載されている目的は、サービスの使用例ですが、サービスの用途はここに記載したもの以外にもあります。



ノードがワークグループのメンバである場合は (つまり、Windows ドメインのメンバではない場合は)、 「Net Logon」 サービスは必要ありません。ワークグループに属するノードでは、「Net Logon」 サービスを開始できません。

**表 1 OVO のインストールに必要なサービス - Windows 2000/2003、XP**

サービス	目的
Net Logon	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認証に必要です。</li> </ul>
Remote Registry	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ノードがすでに管理されているかどうか調べます。</li> </ul>
Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理共有による OVO エージェントの自動インストールを有効にします。</li> </ul>
Workstation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Net Logon サービスに必要です。</li> </ul>

**表 2 OVO のインストールに必要なサービス - Windows NT 4.0**

サービス	目的
Net Logon	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認証に必要です。</li> </ul>
NT LM Security Support Provider	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認証に必要です。</li> </ul>
Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理共有による OVO エージェントの自動インストールを有効にします。</li> </ul>
TCP/IP Net BIOS Helper	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Net Logon サービスに必要です。</li> </ul>
Workstation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Net Logon サービスに必要です。</li> </ul>

## ポリシー タイプに必要な追加のサービス

ポリシー タイプに必要な追加のサービスは、次に示すように、Windows 2000/2003、Windows XP、Windows NT 4.0 で共通です。

**表 3**      **ポリシー タイプが必要とするサービス - Windows 2000、2003、XP、NT 4.0**

ポリシー タイプ	サービス
WMI	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Management Instrumentation</li> </ul>
Service Auto Discovery	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Management Instrumentation</li> </ul>
SNMP	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNMP Trap Service</li> </ul>
Measurement Threshold <ul style="list-style-type: none"> <li>ソース タイプ : MIB</li> <li>ソース タイプ : WMI</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNMP Service</li> <li>Windows Management Instrumentation</li> </ul>

上記のサービスのほかに、インストルメンテーションのバイナリに応じて、他のサービスが必要となることがあります。これには、OVO と SPI に付属するインストルメンテーションが含まれます。

## アクションやツールの起動に必要な追加のサービス

アクションやツールの起動のために、インストール後に必要となる追加のサービスは、次に示すように、Windows 2000/2003、Windows XP、Windows NT 4.0 で共通しています。

**表 4**      **アクションとツールの起動に必要とされるサービス - Windows 2000、2003、XP、NT 4.0**

サービス	目的
Net Logon	<ul style="list-style-type: none"> <li>認証に必要です。</li> </ul>
NT LM Security Support Provider	<ul style="list-style-type: none"> <li>認証に必要です。</li> </ul>

## ネットワーク要件とプロトコル

### Windows 2000/2003 完全修飾ドメイン名 (FQDN)

OVO サーバー ソフトウェアをインストールする前に、FQDN (完全修飾ドメイン名) が正しく設定されていることを確認してください。インストールされているすべての OVO エージェントは、OVO サーバーとの通信に FQDN を使用します。システムと OVO サーバーの FQDN を後から変更することもできますが、現在管理されているすべてのシステムの更新が必要となるため、DNS サーバーが同じ方法でこの FQDN を解決するように、事前に FQDN を最終的な値に設定しておくことを強くお勧めします。

Active Directory と統合型 DNS サーバー Windows 2000/2003 での通常の AD ドメインの設定では、システムの FQDN の一部として AD ドメイン識別子を含めます。

- 1 OVO をインストールする前に、Windows サーバーが最終的なドメインにあり、ドメイン サフィックスが正しく設定され、DNS に正しく登録されていることを確認します。サーバーのプロパティを調べ、nslookup ユーティリティを使用して DNS を調べます。
- 2 OVO では、DNS サーバーが適切な PTR レコードを供給する (IP から FQDN への逆ルックアップ) 必要があります。PTR レコードは、一貫している必要があります。この場合も、nslookup ユーティリティを使用して、IP アドレスが正しい FQDN に解決されることを確認します。
- 3 すべてのエージェントが、OVO サーバーの FQDN ドメイン名を同じように解決する必要があります。これは、Windows 環境が提供する AD 統合型 DNS とは異なる DNS サーバーを使用する UNIX システムを管理する場合に特に重要です。

### プライマリ DNS サフィックスの確認と設定

ドメイン サフィックス (FQDN) を使用する DNS システムに管理サーバーをインストールする場合、次の手順に従ってプライマリ DNS サフィックスを確認および設定します。

- 1 Windows 2000/2003 のデスクトップで **[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
- 2 Windows 2000 システムでは **[ネットワーク ID]** タブを選択し、Windows 2003 システムでは **[コンピュータ名]** タブを選択します。
- 3 この画面には、**[フル コンピュータ名]** というフィールドがあります。これは Windows システムの FQDN で、OVO の FQDN としてこれが使用されます。
- 4 **[フル コンピュータ名]** フィールドに適切な値が表示されない場合は、このダイアログで値を変更します。または、組み込み型の AD/DNS 設定を使用する場合は、NIC (ネットワーク インタフェース カード) の設定で TCP/IP の設定を変更します。DNS サフィックスの変更を実装する方法については、Windows 2000/2003 のドキュメントを参照してください。

## ネットワーク プロトコル

OVO では、次のネットワーク プロトコルが使用されます。

- OVO は TCP、UDP、または両方を使用します。
- DCE RPC は、管理サーバーと UNIX 管理ノードとの接続に使用されます。
- MS RPC は、管理サーバーと Windows 管理ノードの通信に使用されます。
- DCOM は、サーバーとコンソールの通信に使用されます。DCE は、Windows 管理ノードとの通信に使用されます。Windows エージェントのリモート インストールには、DCOM がそのまま使用されます。
- HTTP は、管理サーバーとエージェントの通信用コンポーネントで使用されます。
- Novell NetWare 6 は、IP (Internet Protocol) ネットワーク パケットと従来の IPX (Internetwork Packet Exchange) パケットの両方を処理します。OVO Smart Plug-in for Windows Operating System は、IPX プロトコルを必要とします。詳細は、NetWare 製品に付属するマニュアル『Novell NetWare 6 概要とインストール』を参照してください。



OVO 管理サーバーが、Windows NT4 ドメインのメンバ コンピュータにインストールされている場合、このコンピュータの詳細な TCP/IP 設定で WINS サーバーを設定する必要があります。

## データベースの要件

### Microsoft SQL Server 2000 と Microsoft Desktop Engine のサポート

OVO インストーラ プログラムは、OVO 管理情報を格納するためのデフォルトのデータベースとして Microsoft SQL Server 2000 Desktop Engine (MSDE 2000) をインストールします。OVO の以前のインストールで MSDE を使用している場合など、すでにデータベースが存在する場合は、OVO MSDE データベースを再利用することもできます。OVO は、次のデータベースをサポートします。

- OVOPS というインスタンス名を持つ、完全な MS-SQL Server 2000
- Microsoft SQL Server 2000 Enterprise Edition

- MS SQL Server 2000 Standard Edition



リモート MS SQL Server 2000 データベースを使用して OVO 7.5 をインストールするには、MDAC バージョン 2.62.7400.0001 以降が必要です。

## OpenView Performance Agent

OpenView Operations Agent と OpenView Performance Agent は、同一の管理ノードに共存できます。このシステムに OpenView Performance Agent ( 従来の HP OpenView MeasureWare Agent) をインストールする予定がある場合は、領域を確保せずにディレクトリパスにインストールしてください。システムに OpenView Performance Agent がすでに存在する場合は不要です。

## エージェントの手動インストール

次のプラットフォームには、OVO エージェントを手動でインストールできます。

- Windows:
  - Windows 2000
  - Windows NT 4.0
  - Windows XP
  - Windows Server 2003
- UNIX
  - HP-UX
  - Linux (RedHat、Suse、Debian、または Turbolinux)
  - Solaris
  - HP Tru64
  - AIX



エージェントの手動インストールについては、オンライン ヘルプの「環境の管理」→「ポリシーの管理と配布」→「配布関連のタスク」のトピック「Windows コンピュータへのエージェントの手動インストール」および「UNIX コンピュータへのエージェントのインストール」を参照してください。



OVO 7.5 がサポートするエージェント、管理サーバー、コンソールのプラットフォームについては、  
[http://support.openview.hp.com/tech\\_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf](http://support.openview.hp.com/tech_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf)  
に記載されているサポート マトリクスを参照してください。

## サポートされない設定

HP OpenView Operations for Windows (OVO) は、次のような設定をサポートしていません。

- 管理サーバーおよびコンソールに OVO を自動的にリモート インストールする。
- OVO をネットワークドライブにインストールする。
- 暗号化されたファイルシステム。
- 固定 IP アドレスを使用せずに、DHCP を使用して管理サーバーを設定する (DHCP は管理ノードではサポートされます)。
- Windows NT に管理サーバーまたはコンソールをインストールする。

OVO 管理サーバーとリモート コンソールは、ドメイン コントローラではサポートされません。

## セキュリティ要件

セキュリティは、管理サーバーのインストール、管理ノードの追加、および OVO をコンソール、管理サーバー、または管理ノードから使用するなど、管理者やオペレータが実行する OVO タスクの多くに関わります。次に、これらのタスクがどのようにセキュリティに関係するかについて説明します。

### 管理サーバーのインストール

管理サーバーをインストールするには、ローカルまたはドメインの Administrators グループのメンバである必要があります。OVO でセキュリティのために使用するアカウントのドメイン、グループ、ユーザー、およびユーザー パスワードの入力が求められます。インストール手順については、64 ページの「[管理サーバーおよびコンソールのインストール](#)」を参照してください。OVO のインストールによって新しいドメイン アカウントが作成される場合は、ローカル管理者ではなく、ドメイン管理者としてログオンする必要があります。

インストール時に、Windows はインストールを実行しているユーザーの SID (セキュリティ識別子) をルックアップしようとします。これは、管理サーバーのコンピュータ アカウントが Active Directory 内のオブジェクトを参照できる場合のみ機能します。デフォルトでは、この権限は有効化されています。コンピュータのアカウントから権限を取り除くことでセキュリティを強化している場合は、管理サーバーのインストール時にこの権限を再度有効化してください。

### リモート コンソールのインストール

リモート コンソールをインストールするには、ローカルの Administrators グループのメンバである必要があります。インストール手順については、64 ページの「[管理サーバーおよびコンソールのインストール](#)」を参照してください。

リモート コンソールを使用するには、コンソールを実行する Windows ユーザーは、HP-OVE-ADMINS または HP-OVE-OPERATORS グループのメンバであるか、コンソールが接続する OVO 管理サーバーに関連するドメイン管理者である必要があります。

## 管理ノードの追加

管理ノードを追加するには、管理サーバーの Windows 管理者であるか、または管理サーバーの HP-OVE-ADMINS グループのメンバである必要があります。コンソールから Windows ノードにエージェント ソフトウェアをインストールする場合、コンソールにログインするユーザーは、追加する管理ノードのローカル Administrators グループのメンバでもある必要があります。35 ページの表 5 は、管理ノードのインストール時に選択できる 3 つのオプションを示しています。

表 5 管理ノードの追加時に選択できるオプション

設定	結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>ドメイン インストール：管理ノードが同一ドメイン内にあるか、ドメインとの信頼関係が設定されている。</li> <li>上記に該当し、かつ現在のユーザー (OVO 管理者) が、追加するノードの管理者権限を持っている。</li> </ul>	<p>HP-OVE-Group グループを、管理対象ノードのローカル Administrators グループに自動的に追加できます。</p> <p>Windows エージェントを自動的にインストールできます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ドメイン インストール：管理ノードが同一ドメインになく、信頼関係も設定されていない。または、</li> <li>インストールを行うユーザー (OVO 管理者) に管理者権限がない。</li> </ul>	<p>ノードを追加できます。</p> <p>エージェントのインストールは、常に手動で行う必要があります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル インストール：</li> </ul>	<p>ノードを追加できます。エージェントのインストールは、常に手動で行う必要があります。</p>

管理ノードとして追加するシステムは、起動され、稼働中である必要があります。OVO は、Windows NT/2000/XP または Windows Server 2003 の管理ノードとして追加するノード (または Windows NT/2000/XP/2003 タイプに更新するノード) のセキュリティを、次のように設定します。

- 1 ログインしているユーザーの設定に基づいて、ユーティリティがいくつかのセキュリティ設定を試行し、結果を報告します。具体的には、HP-OVE-GROUP アカウントが、管理ノードのローカル Windows Administrators グループの一部であるかどうかを調べます。グループに含まれない場合、OVO はそのアカウントをグループに追加します。また、このグループに「バッチ ジョブとして ログオン」と「サービスとして ログオン」の権限があることを確認します。

- 2 セキュリティの設定に失敗した場合(たとえばノードが稼働していない場合)には、それを知らせるメッセージが表示され、そのノードに対するセキュリティの設定は中止されます。この場合は、問題を解決し、ノード設定ツール **[ ツール ]** → **[OpenView ツール]** → **[Windows ノード セキュリティの設定]** を使用して、設定が失敗したノードのセキュリティを手動で設定する必要があります。HP-OVE-GROUP アカウントが既にそのノードの管理者アカウントになっていて、正しい権限を付与されている場合には、失敗は無視できます。

- ▶ Windows NT プライマリ ドメイン コントローラ (PDC) または Windows 2000 ドメイン コントローラ (DC) を管理ノードとして追加すると、ツールおよびスケジュール済みコマンドをパスワードなしで実行できるように定義できます。したがって、この環境でツールを設定するすべての管理者は、そのドメインの任意のユーザー (ドメイン管理者を含む) として、パスワードなしで実行できるようにツールを設定することができます。

このセキュリティ上の問題は、SetMgmtServer ツールの `/auth /on` スイッチを設定することで回避できます。これにより、サーバーが認証を要求するように設定できます。ツールとスケジュール済みタスクのポリシーは、パスワードを求めるように設定する必要があります。オンラインヘルプ「環境の管理」の「Operations エージェント パッケージの管理サーバーとその他のオプションの設定」を参照してください。

- ▶ Windows ドメイン コントローラ (Win NT PDC および BDC を含む) では、エージェントのインストールに LocalSystem アカウントを使用することをお勧めします。

## 他のドメインおよびドメイン全体からの管理ノードの追加

他のドメインの管理ノードは、次の2つの方法で追加できます。

- エージェントと配布パッケージの自動インストール：この方法を実行するには、管理ノードのドメインに、HP-OVE-USER およびコンソール ユーザーのドメインに対する信頼関係が設定されている必要があります。
- エージェントの手動インストール：この方法では、Windows セキュリティは使用されません。異なるドメインにある複数のノードを、Windows ドメインの信頼関係を設定せずに管理できます。この方法では、Windows エージェントは手動でインストールする必要があります。

## 管理ノードで使用されるアカウント

ここでは、各種 OVO アカウントの違いについて説明します。

- LocalSystem アカウント
- HP ITO Account と opc\_op アカウント
- root

### LocalSystem アカウント

OVO for Windows 7.20 以降、OVO for Windows エージェント パッケージは、デフォルトではローカルシステム アカウントを使用してインストールされます。それまでのバージョンの OVO で使用されていた HP ITO Account と opc\_op アカウントは、Windows ノードでは作成されなくなりました。

OVO for Windows の旧バージョンで、アクション、ツール、スケジュール済みタスクが、HP ITO Account として実行されるように作成されていた場合、これらは LocalSystem アカウントにマップされるため、旧バージョンと同様に実行できます。インストールプログラムが LocalSystem アカウントを強要することはありません。アップグレード時は、すでに設定されているユーザーを維持できます。

さらに、ツールまたはポリシーが LocalSystem アカウントとして実行するように設定される場合も、すべてのエージェントで使用し続けることができます。これは、エージェントが HP ITO Account として実行される場合に、LocalSystem アカウントが HP ITO Account にマップされるためです。

しかし、旧バージョンで、ツールまたはポリシーが opc\_op ユーザーとして実行されるように作成されている場合は、ツールとポリシーは自動的に LocalSystem アカウントにマップされません。手動で opc\_op アカウントを作成するか、または \$AGENT\_USER のような別のユーザーを指定してツールとポリシーを再作成する必要があります。



ツールを opc\_op から \$AGENT\_USER に切り替えることは、ツールを「ゲスト」から管理アカウントに切り替えることです。これにより、ツールを管理操作として実行できるようになります。

この変更で特定のポリシーがどのような影響を受けるか確認するには、各 SPI のドキュメントを参照してください。

## デフォルトの LocalSystem アカウントの利点

次のような利点があるので、デフォルトの LocalSystem アカウントの使用を強くお勧めします。

- 管理ノードに他のアカウントが追加されません (HP ITO Account および opc\_op アカウントは作成されません)。
- HP ITO Account を作成できない場合でも、Active Directory 環境でのエージェントのインストールに関連する問題を回避できます。
- パスワード ポリシーと矛盾しません。
- ローカル アカウントを許可しないドメイン ポリシーと矛盾しません。
- 必要な特権またはユーザー権限を除去するドメイン ポリシーと矛盾しません。
- Smart Plug-in for Exchange Server など、特定の SPI の向上した機能を利用できます。詳細は、各 SPI のドキュメントを参照してください。

### LocalSystem アカウントの制限

LocalSystem アカウントは、OVO for Windows サーバー間のメッセージの同期に使用できません。この場合、管理サーバー システムを実行する双方のエージェントが、HP ITO Account である必要があります。その他のシステムのエージェントは、LocalSystem アカウントを使用して実行できます。オンライン ヘルプの「環境の管理」のトピック「複数の管理サーバーによるスケーラブルなアーキテクチャ」を参照してください。

- ▶ OVO 7.5 サーバー間、または 7.5 サーバーと UNIX サーバーの間のメッセージ転送は、サーバー レベルで実行される新しい転送メカニズムで行われます。このため、メッセージ転送に関するこの制限は適用されません。

## HP ITO Account と opc\_op アカウント

旧バージョンでは、各 Windows ノードに 2 つのローカル ユーザー アカウント (HP ITO Account と opc\_op アカウント) が作成され、ランダムなパスワードが生成されました。OVO for Windows 7.5 を含め、OVO 7.20 以降では、HP ITO Account と opc\_op アカウントはノードに作成されません。その代わりに、LocalSystem アカウントがデフォルトとして使用されます。

- ▶ ユーザーとパスワードの変更に ovchangepassword ツールの使用が必要になる場合もあります。オンライン ヘルプの「環境の管理」のトピック「HP-OVE-User パスワードの更新」を参照してください。

旧バージョンで使用していた HP ITO Account をアップグレードする場合は、このアカウントを旧バージョンと同じ状態で使用できます。アップグレード後も、ノード上のユーザーはそのまま維持されます。次のような状況では、HP ITO Account と opc\_op アカウントの継続使用が必要となります。

- OVO for Windows でサポートされているデフォルトのツールは、\$AGENT\_USER アカウントを使用するように変更されます。旧バージョンからアップデートする場合は、旧バージョンで opc\_op ユーザーとして実行するように作成されたカスタムツールは、\$AGENT\_USER アカウントを使用するように、手動で変更する必要があります。カスタム ツールを変更しない場合は、引き続き古いアカウントを使用してツールを実行する必要があります。

表 6 各オペレーティング アカウントの相違点

	opc_op	HP ITO Account	LocalSystem アカウント
いつ作成したか	Operations エージェントパッケージのインストール時 (OVO 7.10 以前)	Operations エージェントパッケージのインストール時 (OVO 7.10 以前)	Windows オペレーティング システムが作成。常に存在する。
Administrators グループのメンバであるかどうか	メンバではない	メンバである : Operations エージェントのインストール時に追加	メンバである : デフォルト設定
Users グループのメンバであるかどうか	メンバである	メンバである	該当なし
パスワード エージング : 期限があり、変更を必要とする	デフォルトではオフ。オンに変更可能。	デフォルトではオフ。オンに変更可能。ドメイン コントローラではオンに変更不可。	該当外 : システムアカウントはパスワードを持たない
一般的な用途	一般ユーザー アカウントで実行しているツールとプログラム	すべてのエージェント プロセス 管理者権限で実行するツールとプログラム	ほとんどの Windows サービス

## HP ITO Account

HP ITO Account は、OVO for Windows のインストール時に自動的に作成されます。HP ITO Account を使用したアップグレード インストールではこのアカウントをそのまま使用できます。

HP ITO Account ユーザーが作成されると、管理者権限が付与され、このユーザーは自動的に Administrators グループに追加されます。パスワードはコンピュータごとに異なるので、パスワードの変更時に困難を伴う可能性があります。



OVO では、HP ITO Account のパスワード変更は推奨されません。HP ITO Account のパスワードを変更する場合は、ITO エージェントを起動する Windows サービスを手動で設定し直す必要があります。これを行うには、**[コントロール パネル]** → **[管理ツール]** → **[HP ITO Agent]** → **[プロパティ]** → **[ログオン]** を選択し、ここでもパスワードを変更します。この変更を行わない場合、ITO を終了後、またはシステムを再起動後に、ITO エージェントを起動できません。

OVO は、ドメイン コントローラ上の HP ITO Account のパスワード変更をサポートしていません。ドメイン コントローラへのエージェントのインストールでは、パスワードを変更しないことが前提となります。パスワードの変更が必要な場合は、LocalSystem アカウントを使用してエージェントを実行してください。

OVO エージェント ソフトウェアを Windows ドメイン コントローラにインストールすると、このユーザーは自動的にドメイン管理者として設定されます。Windows NT PDC と Windows 2000/2003 DC には、ローカルアカウントはありません。

すべてのドメイン コントローラが同じドメイン ユーザー アカウントとパスワードを共有しているので、ドメイン コントローラで、パスワード エージングはオンにせず、パスワードも変更しないでください。パスワードは、すべての必要エージェントがドメイン コントローラにインストールされた場合にのみ変更できます。ドメイン コントローラに新しいエージェントをインストールするには、まず、ドメイン コントローラに存在するすべてのエージェントを削除し、それらのエージェントを再インストールする必要があります。

## opc\_op アカウント

リリース 7.20 以降、OVO for Windows のインストール時に opc\_op アカウントがデフォルトで提供されることはなくなりました。このアカウントの使用はお勧めできません。(UNIX 管理ノードでは、現在も opc\_op アカウントが作成されます。)

OVO for Windows に含まれるデフォルトのツールとポリシーは、opc\_op アカウントを使用しません。以前から使用している、カスタマイズしたツールやポリシーで opc\_op アカウントが必要な場合、ツールとポリシーを使用し続けるには、次のように設定してください。



- `opc_op` アカウントを必要とするツールまたはポリシーに対してこのアカウントを有効にするために、Microsoft 管理ツールを使用して、`opc_op` ユーザーを手動で作成します。
- ノード上の他のアカウントを使用するように、ツールまたはポリシーのユーザー アカウントを変更します。
- 新しい変数 `$AGENT_USER` を使用します。これにより、ツールまたはポリシーは、エージェントが現在使用しているアカウント (`LocalSystem` アカウントまたは `HP ITO Account`) を使用して実行されます。この場合、ツールまたはポリシーは管理者権限を持ちます。

`opc_op` アカウントは、ドメイン コントローラのドメイン ユーザーであり、その他すべてのシステムのローカル ユーザーです。このアカウントは、`Users` グループのメンバであり、特別な権限は持ちません。

このユーザーを、ツールの有効なユーザーとして使用できます。ただし、ツールを使用するには、ツールがアクセスする NTFS ドライブに対して、`opc_op` アカウントが正しいアクセス権限を持っている必要があります。パスワードはコンピュータごとに異なります。

## UNIX システムの root エージェント アカウント

UNIX システムでは、`root` がエージェント アカウントとして使用されます。インストール時に `opc_op` ユーザー アカウントが作成されるため、ツールの実行にはこのアカウントを使用できます。

## ファイアウォール環境での OVO の使用



ファイアウォール設定に関する最新のホワイトペーパーについては、「Product Manual」Web サイト

[http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc\\_serv](http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv)

を参照してください。ファイアウォールに関するホワイトペーパーには、Windows ICF (インターネット接続ファイアウォール) の設定方法だけでなく、複雑な環境でのエージェントの設定に関する重要な情報も記載されています。説明されている内容は、次のとおりです。

- Windows ノードのためのファイアウォールの設定
- UNIX DCE ノードのためのファイアウォールの設定
- OpenView コンポーネントおよび製品のためのファイアウォールの設定

## Windows に組み込まれているファイアウォールの設定

### OVO 管理サーバー

OVO 管理サーバーは、リモート クライアント用の RPC サーバーとして機能するいくつかのプロセスをホスティングします。これには、コンソールがアクセスする WMI インタフェース (ファイアウォールの設定方法については、後述の「OVO リモート コンソール」を参照) と、メッセージや、エージェント システムまたは別の管理サーバー システムから転送されるメッセージ操作を受信する OVO メッセージレシーバコンポーネントが含まれます。WF (Windows ファイアウォール) をオンにすると、デフォルトでは、これらの RPC サーバーにはリモート システムからアクセスできなくなります。このため、WF を完全にオフにするか (この方法はお勧めできません、設定方法については後述します)、または RPC サーバーがアクセス可能になるように OVOW 管理サーバーと WF を設定する必要があります。

### 管理サーバー上のファイアウォールの設定

管理サーバーの RPC サーバーにリモート アクセスできるようにファイアウォールを設定する手順は、次のとおりです。

- 1 ファイアウォール側で特定のポートを開くことができるように、OVO 管理サーバーがメッセージレシーバ RPC サーバー用に固定ポートを使用するように設定します。RPC サーバーのポートを設定するには、OVO 管理サーバー システムのレジストリに次の項目を追加します。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hewlett-Packard\
OvEnterprise\Management Server\MsgActSrv]
"COMM_PORT_RANGE"="12001" (Value Type: String/REG_SZ)
```

12001 以外のポートも使用できます。

- 2 OvEpMessageActionServer サービスを開始し直して、OVO 管理サーバーシステムの RPC サーバーを再起動します。
- 3 ファイアウォール側の設定では、設定したポートと、RPC エンドポイントマップポートを開きます。
  - a **[コントロール パネル]** から **[ネットワーク接続]** を選択します。
  - b **[ローカル エリア接続]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
  - c **[詳細設定]** タブを選択し、**[設定]** をクリックします。
  - d **[Windows ファイアウォール]** ダイアログの **[例外]** タブを選択します。
  - e **[ポートの追加]** ボタンを使用して、TCP ポート 135 と UDP ポート 135 を例外リストに追加します (「TCP 135」や「UDP 135」などの名前を付けます)。
  - f **[ポートの追加]** ボタンを使用して、ステップ 1 で TCP ポートとして設定したポート (この例ではポート 12001) を例外リストに追加します (「OVOW message receiver」などの名前を付けます)。



これらの例外をより安全にするには、**[スコープの変更]** ボタンをクリックし、**[ユーザーのネットワーク (サブネット) のみ]** を選択します (RPC クライアントがエージェントと同様に同一サブネットに存在する場合)。これにより、開いたポートに他のシステムからアクセスできなくなります。

### 管理サーバーでの ICMP エコー要求の有効化

各エージェントは、指定された間隔で ICMP エコー要求を管理サーバーに送信します。この機能は、エージェントの状態監視の一部で、管理サーバーシステムの負荷の削減に役立ちます。一定時間が経過しても管理サーバーがエージェントから ICMP エコー要求を受信しない場合、管理サーバー自体がエージェントの状態チェックを開始する必要があります。

Windows ファイアウォールは、デフォルトですべての ICMP エコー要求を遮断するため、この場合、サーバーはすべてのエージェントの状態チェックを行わなければなりません。次のように WF を設定することで、ICMP エコー要求を受信できるようになります。

- 1 **[コントロールパネル]** から **[ネットワーク接続]** を選択します。
- 2 **[ローカルエリア接続]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
- 3 **[詳細設定]** タブを選択し、**[設定]** をクリックします。
- 4 **[Windows ファイアウォール]** ダイアログの **[詳細設定]** タブを選択します。
- 5 **[ICMP]** セクションの **[設定]** タブをクリックします。
- 6 **[エコー要求の着信を可能にする]** ボックスにチェックマークを付けます。

## OVO リモート コンソール

OVO リモート コンソールは、OVO 管理サーバーとの間で双方向の DCOM 通信を使用します。この通信の一部として、OVO 管理サーバーから OVO コンソールへの非同期コールバックが含まれます。ファイアウォールソフトウェアは、これを着信通信と見なします。通常、デスクトップファイアウォールプログラム (パーソナルファイアウォールと同義です) は、外部からシステムに向けて発せられたすべての通信を遮断します。このため、OVO リモート コンソールの使用を許可するように、デスクトップファイアウォールアプリケーションを設定する必要があります。

## Windows ファイアウォールが組み込まれたシステムでのコンソールの使用

Microsoft は、Windows XP に組み込み型のファイアウォール、ICF (インターネット接続ファイアウォール) を導入しました。XP SP2 および Windows 2003 Server SP1 以降、このファイアウォールは WF (Windows ファイアウォール) と呼ばれています。Windows XP SP2 では、ファイアウォールはデフォルトで有効化されますが、Windows 2003 Server SP1 では無効化されています。

次の説明は、Windows XP SP2 および Windows 2003 Server SP1 に組み込まれている Windows ファイアウォールを対象としています。このファイアウォールは、着信通信用に開く必要があるポートと、通信を受信できるプログラムのリストを示します。

その他のパーソナルファイアウォールの実装では、信頼するゾーンの定義など、異なる手順で設定を行える可能性があります。

## ファイアウォールの設定

まず、Windows ファイアウォールを完全にオフにするか (この方法はお勧めできません)、OVO コンソールとの通信を許可するように設定するかを決定します。



Windows ファイアウォールには、いくつかの設定オプションが用意されています。Windows ファイアウォールの設定には、**【ネットワーク接続】**、**【コントロールパネル】**、コマンドラインユーティリティ Netsh、およびグローバルポリシーオブジェクトを使用できます。WF の設定は、GPO コンテナコンピュータの構成 \管理用テンプレート\ネットワーク\ネットワーク接続\Windows ファイアウォール に格納されます。ここでは、**【ネットワーク接続】** による設定についてだけ説明します。

### ファイアウォールの完全な無効化 (お勧めできません)

- 1 **【コントロールパネル】** から **【ネットワーク接続】** を選択します。
- 2 **【ローカルエリア接続】** を右クリックし、**【プロパティ】** を選択します。
- 3 **【詳細設定】** タブを選択し、**【設定】** をクリックします。**【オフ】** を選択して、Windows ファイアウォールを完全に無効にします (お勧めできません)。

### OVO コンソールとの通信を許可するためのファイアウォールの設定

コンソール システムでファイアウォールのデフォルト設定を変更し、管理サーバー側の WMI が DCOM 経由でリモート コンソール コンポーネントと通信できるようにする手順は、次のとおりです。

- 1 **【コントロールパネル】** から **【ネットワーク接続】** を選択します。
- 2 **【ローカル エリア接続】** を右クリックし、**【プロパティ】** を選択します。
- 3 **【詳細設定】** タブを選択し、**【設定】** をクリックします。
- 4 **【Windows ファイアウォール】** ダイアログの **【例外】** タブを選択します。
- 5 **【ポートの追加】** ボタンを使用して、TCP ポート 135 と UDP ポート 135 を例外リストに追加します (「TCP 135」や「UDP 135」などの名前を付けます)。
- 6 **【プログラムの追加】** ボタンを使用して、次のプログラムを例外リストに追加します。

```
\Windows\System32\mmc.exe
```

```
\Windows\System32\wbem\unsecapp.exe
```

```
\Program Files\HP OpenView\bin\ovunsecapp.exe
```

```
\Program Files\HP OpenView\bin\OvServiceTypeEditor.exe
```

\Program Files\HP OpenView\bin\OvServiceEditor.exe

\Program Files\HP OpenView\bin\OvPmdPolicyEditorFrame.exe



これらの例外をより安全にするには、**[スコープの変更]** ボタンをクリックし、**[ユーザーのネットワーク (サブネット) のみ]** を選択します (管理サーバーが同一サブネットに存在する場合)。さらに、一層の安全を確保するには、**[カスタムの一覧]** に管理サーバーのアドレスを指定します。これにより、開いたポートに他のシステムからアクセスできなくなります。FAT32 ファイル システムへの管理サーバーのインストールもサポートされなくなります。

### リモート アクセスの変更

さらに、匿名アカウントがリモート アクセス権限を持てるように、次の方法でコンピュータ全体のアクセス設定を変更する必要があります。

- 1 **[スタート]**、**[ファイル名を指定して実行]** を順にクリックし、**dcomcnfg** と入力します。
- 2 **[コンポーネント サービス]** → **[コンピュータ]** → **[マイ コンピュータ]** に移動します。
- 3 **[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
- 4 **[COM セキュリティ]** タブを選択します。
- 5 **[アクセス許可]** セクションの **[既定値の編集]** ボタンをクリックします。
- 6 Anonymous Logon アカウントの **[リモート アクセス]** 権限を有効にします (デフォルトでは、Anonymous Logon はローカル アクセス権限が設定されています)。

## コンソールから Windows ファイアウォールが組み込まれた管理サーバー システムへの接続

OVOW 管理サーバーは、WF (Windows ファイアウォール) が組み込まれた Windows 2003 SP2 システムにインストールできます。このような設定では、WF によって通信が遮断されるため、リモート コンソールは管理サーバーに接続できません。

コンソールが管理サーバーに接続できるようにするには、管理サーバー システム側でファイアウォールの設定を変更する必要があります。

## ファイアウォールの例外プログラムの設定

管理サーバー システムでファイアウォールのデフォルト設定を変更し、コンソールが PMAD および OvSecurity コンポーネントにアクセスできるようにする手順は、次のとおりです。

- 1 **[コントロール パネル]** から **[ネットワーク接続]** を選択します。
- 2 **[ローカル エリア接続]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
- 3 **[詳細設定]** タブを選択し、**[設定]** をクリックします。
- 4 **[Windows ファイアウォール]** ダイアログの **[例外]** タブを選択します。
- 5 **[プログラムの追加]** ボタンを使用して、次のプログラムを例外リストに追加します。
  - \Program Files\HP OpenView\bin\OvPmad.exe
  - \Program Files\HP OpenView\bin\ovunsecapp.exe



これらの例外をより安全にするには、**[スコープの変更]** ボタンをクリックし、**[ユーザーのネットワーク (サブネット) のみ]** を選択します (コンソール システムが同一サブネットに存在する場合)。さらに、一層の安全を確保するには、**[カスタムの一覧]** にコンソール システムのアドレスを指定します。これにより、開いたポートに他のシステムからアクセスできなくなります。

## プログラムの DCOM リモート アクセス権限のチェック

OvPmad.exe および OvSecurity.exe への DCOM 経由のリモート アクセスを有効にする必要があります。これらの権限は、デフォルト設定によってすでに付与されていますが、実際の環境でも有効に設定されていることを確認してください。

- 1 **[スタート]**、**[ファイル名を指定して実行]** を順にクリックし、dcomcnfg と入力します。
- 2 **[コンポーネント サービス]** → **[コンピュータ]** → **[マイ コンピュータ]** に移動します。
- 3 **[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
- 4 **[既定の COM セキュリティ]** タブを選択します。
- 5 **[アクセス許可]** セクションの **[既定値の編集]** ボタンをクリックします。
- 6 非同期ログオン アカунトの **[リモート アクセス]** 権限を有効にします (デフォルトでは、非同期ログオンにはローカル アクセス権限が設定されています)。

## ファイアウォールでのリモート WMI アカウントの設定

管理サーバー システム側でファイアウォールのデフォルト設定を変更し、コンソールが WMI に接続できるようにします。この設定を **[Windows ファイアウォール]** ダイアログを使用して実行することは好ましくないため、コマンドライン ツールを使用して WMI のアクセスを設定します。

- 1 **[スタート]**、**[ファイル名を指定して実行]** を順にクリックしてコマンド シェルを表示し、**cmd** と入力します。最後に **[OK]** ボタンをクリックします。
- 2 開いているコマンド シェルに、次のコマンドを入力します。

```
netsh firewall set service RemoteAdmin enable
```



このコマンドは、ファイアウォールの設定に大きな穴を開けることになるため、RemoteAdmin アクセスをリモート コンソール システムだけに制限することをお勧めします。その場合は、上記コマンドの代わりに、次のコマンドを使用します。この例では、リモート コンソール システムの IP アドレスは 10.1.2.3 と 10.4.5.6 ですが、実際の IP アドレスに合わせて変更してください。

```
netsh firewall set service RemoteAdmin enable custom  
10.1.2.3,10.4.5.6
```

RemoteAdmin の設定オプションに関する情報を表示するには、**netsh firewall set service help** コマンドを実行します。

## OVO Web コンソール

Web コンソールは、管理サーバーとの通信に HTTP を使用します。これは、HTTP 通信の標準的なブラウザ設定を使用します。このため、ブラウザの設定が正しく、Web サーバーとプロキシサーバーの設定が正しい限り、ファイアウォールの有無に関係なく通信が可能です。



## リモート データベースのインストール

この章では、ローカル データベースとリモート データベースで OVO がサポートする各種データ リポジトリについて説明します。また、リモート データベースのインストール手順についても詳しく説明します。

OVO は、OVOPS という名前の SQL2000 または MSDE のデータベース インスタンスを使用します。このインスタンスには、「openview」と「reporter」というデータベースが含まれます。

### ローカル データベース

OVO は、次のローカル データ リポジトリ構成をサポートします。

- ローカル データベースを持つ単一 ( 非クラスタ ) の Windows サーバーへの OVO の新規インストール
  - MSDE 2000 がインストールされ、新しいデータベース ファイルが作成されます。
  - OVO インストール ダイアログでオプションの MSDE を選択し、新しいデータベース ファイルを作成します。
- 既存のデータベース ファイルを再利用するローカル データベースを持つ単一 ( 非クラスタ ) の Windows サーバーへの OVO のインストール
  - MSDE 2000 がインストールされ、既存のデータベース ファイルを選択するためのプロンプトが表示されます。

- データベース ファイルにデータベース (openview) がすでに含まれている場合は、OVO インストール ダイアログでオプションの MSDE を選択し、既存のデータベース ファイルの再利用を選択します。
- ローカル SQL 2000 データベースを持つ単一 (非クラスタ) の Windows サーバーへの OVO の新規インストール
  - このインストールでは、SQL 2000 の既存の OVOPS インスタンス、古い OVO データベース スキーマ (7.21)、またはその両方に再接続できます。
  - スキーマは 7.5 にアップグレードされます。OVO のインストール時にオプションの SQL 2000 を選択してください。



MSDE から SQL 2000 へのアップグレード : MSDE を使用する OVO インストールは、SQL 2000 のインストール CD を使用して SQL 2000 にアップグレードできます。

## リモート データベース

OVO は、次のリモート データ リポジトリ構成をサポートします。

- 新たに作成された OVOPS インスタンスを持つ、SQL 2000 が稼動するリモート Windows システム : リモート データベース ツールが、OVOPS インスタンスに「openview」および「reporter」データベースを作成します。このオプションを使用する方法は、次のとおりです。
  - SQL 2000 をインストールします。インストール時に、新しい OVOPS インスタンスを作成します。
  - OVO のインストールを開始する前に、リモート データベース ツール (OVO スタートアップ CD の Remote\_DB\_Setup フォルダにあります) を使用してデータベースを作成します。
  - OVO のインストール時にオプションの SQL 2000 を選択します。
- リモート データベース ツールは OVOPS インスタンスを作成しません。この設定は、SQL 2000 のインストールで行います。インスタンス名は OVOPS にする必要があります。これ以外のインスタンス名はサポートされません。
- 既存の OVOPS インスタンスと既存の OVO データベース スキーマ (7.21) を持つ、SQL 2000 が稼動するリモート Windows システム。スキーマは、OVO のインストール時に自動的にアップグレードされます。リモート データベース ツールを実行する必要はありません。
  - MS Cluster への OVO のインストールでは、リモート データベース オプション以外は使用できません。MSDE のインストールは不可能です。詳細は、第 5 章、「OVO のクラスタ インストール」を参照してください。

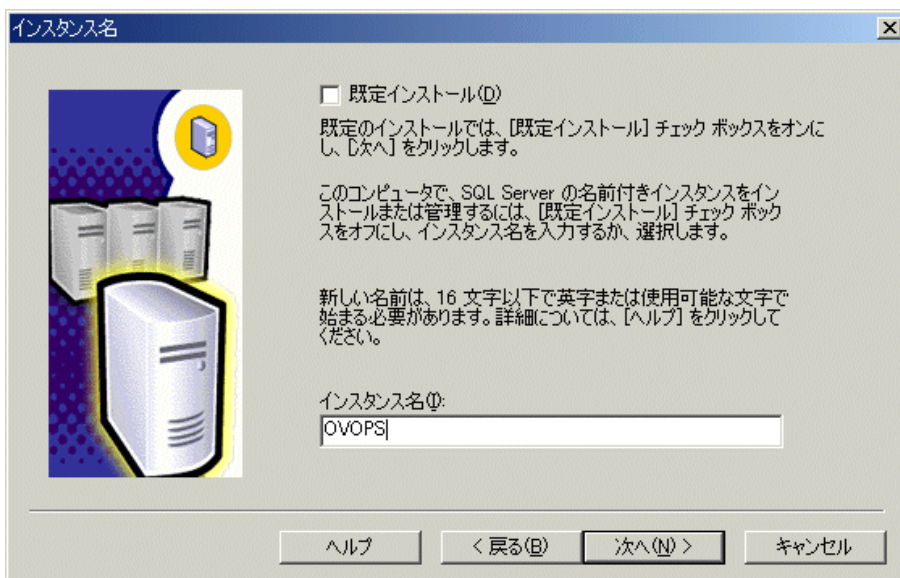
## OVO リモート データベース設定ツール

リリース 7.5 では、OVO はウィザードによる MS SQL 2000 データベースの設定をサポートしています。

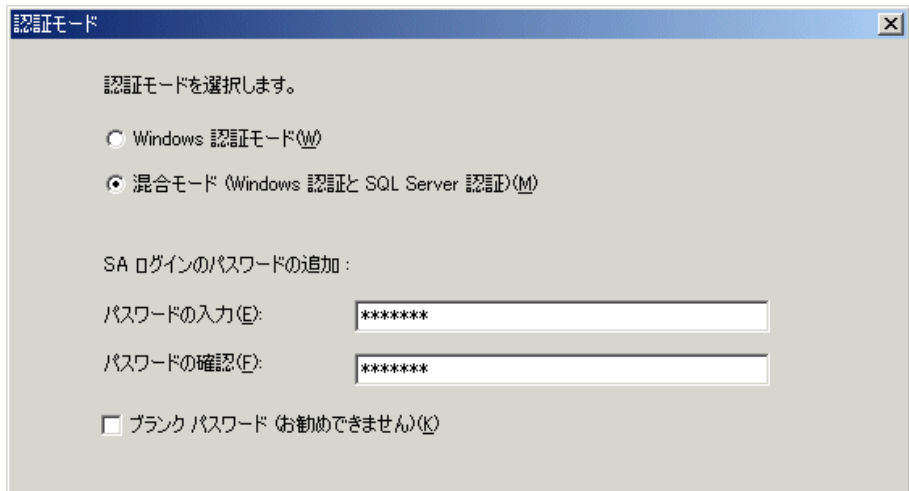
リモート データベース設定ツールを実行する前に、リモート システムに MS SQL 2000 (Standard または Enterprise Edition) をインストールする必要があります。OVO では、データベース インスタンスの名前を「OVOPS」にし、SQL Server の認証を混合モードにする必要があります。

MS SQL 2000 Standard または Enterprise Edition のインストール CD を挿入します。次に示す手順は SQL の設定の一部です。すべての画面を示しているわけではありません。

- 1 **[ インスタンス名 ]** 画面で、OVOPS インスタンスを作成します。**[ 次へ ]** をクリックします。インスタンス名は OVOPS とする必要があります。OVO 7.5 でこの名前を変更することはできません。

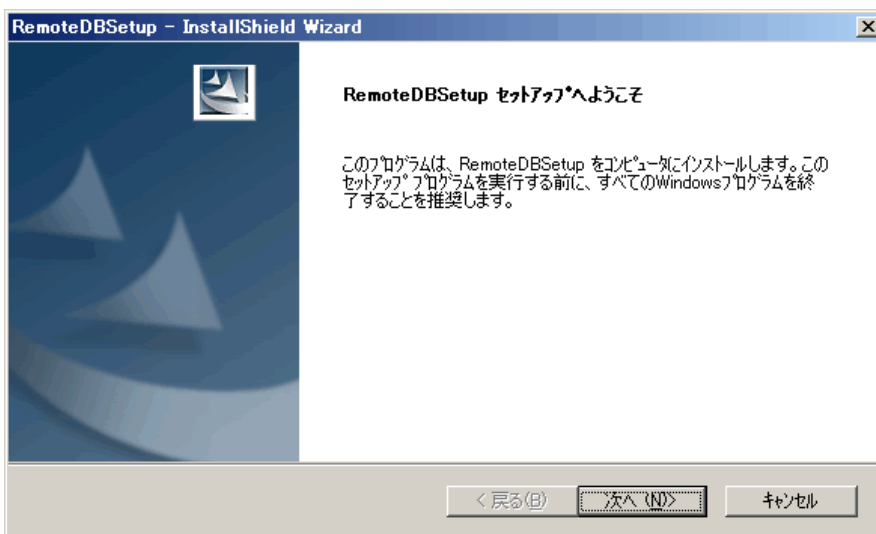
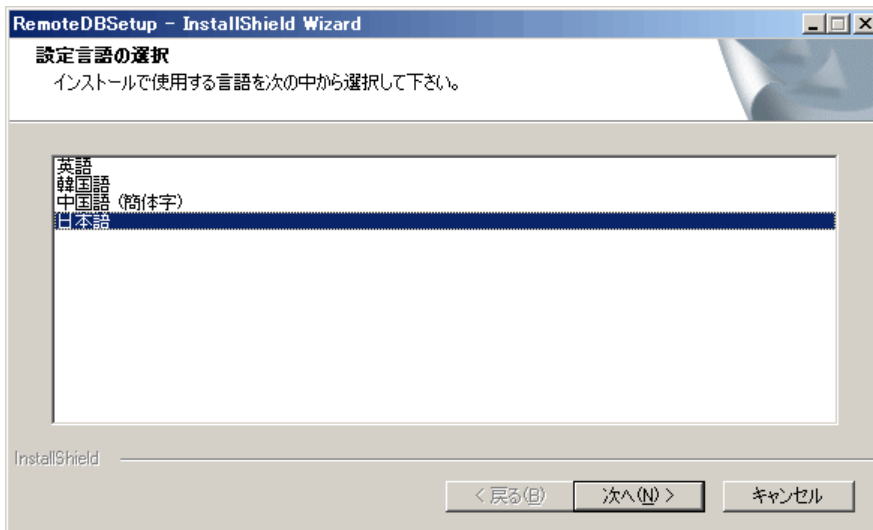


- 2 **【 認証モード 】** 画面で **【 混合モード 】** を選択し、OVO のインストール時に必要となる「sa」パスワードを設定します。このパスワードを忘れないようにしてください。



- 3 HP OpenView Operations 7.5 for Windows のスタートアップ CD を挿入し、**【 次へ 】** をクリックします。

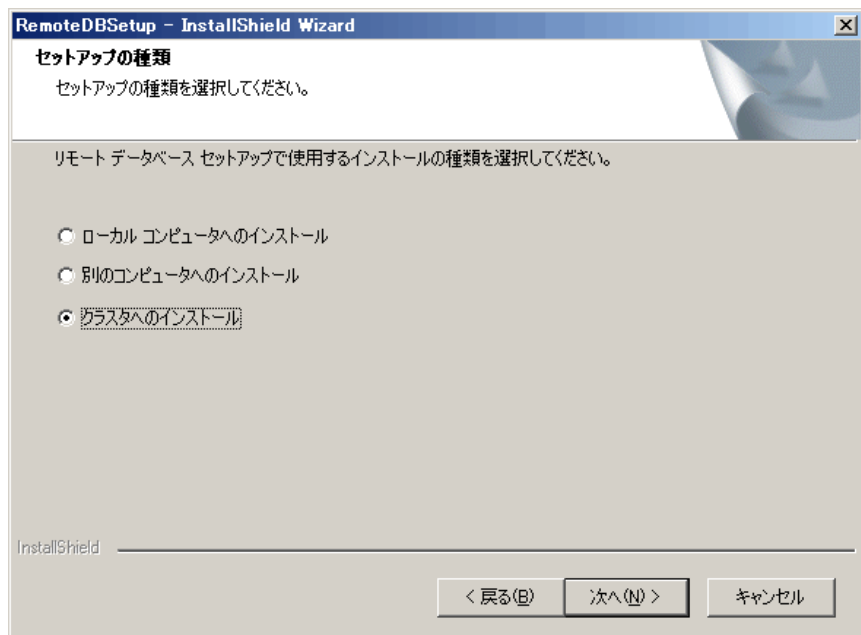
- 4 SQL Server 2000 の OVOPS インスタンスを作成したら、OVO インストール CD の Remote\_DB\_Setup フォルダに格納されているリモート データベース設定ツールを実行します。



- 5 **[ セットアップの種類 ]** 画面で、実行するインストールの種類を選択し、**[ 次へ ]** をクリックします。3つのオプションから選択できます。

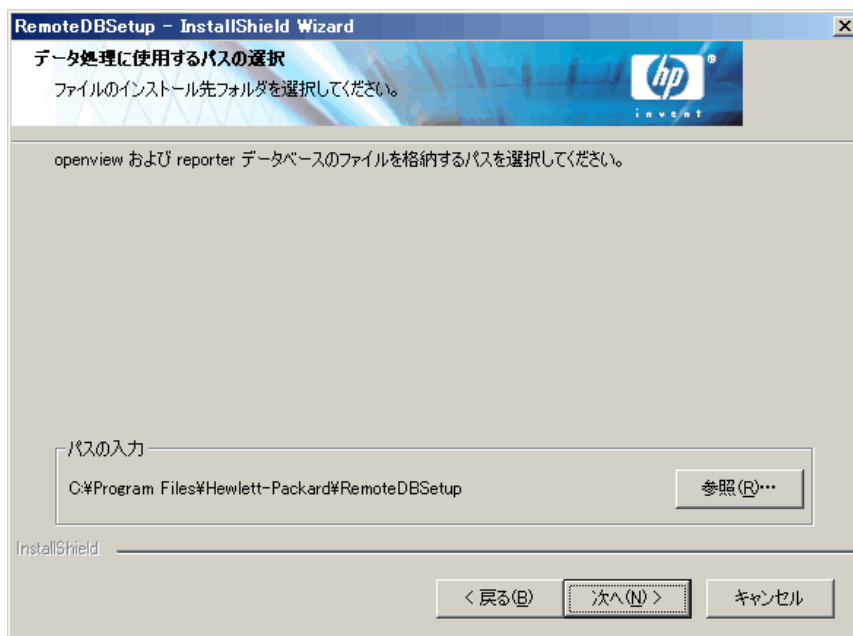
▶ ツールは、SQL Server 2000 インスタンスをホスティングしているシステムから、またはリモート ノード (たとえば、OVO サーバーとして指定されているシステム) から実行できます。SQL サーバーに対してこのツールをリモートに実行し、SQL Server ホストに存在しないフォルダを定義した場合、そのフォルダの作成に必要な権限がツールに付与されていない可能性があります。

- [ ローカル コンピュータへのインストール ] - 現在設定を実行しているコンピュータにデータベースをインストールします。
- [ 別のコンピュータへのインストール ] - 現在設定を実行しているコンピュータ以外のコンピュータにデータベースをインストールします。
- [ クラスタへのインストール ] - クラスタ化された SQL サーバーにデータベースをインストールします。

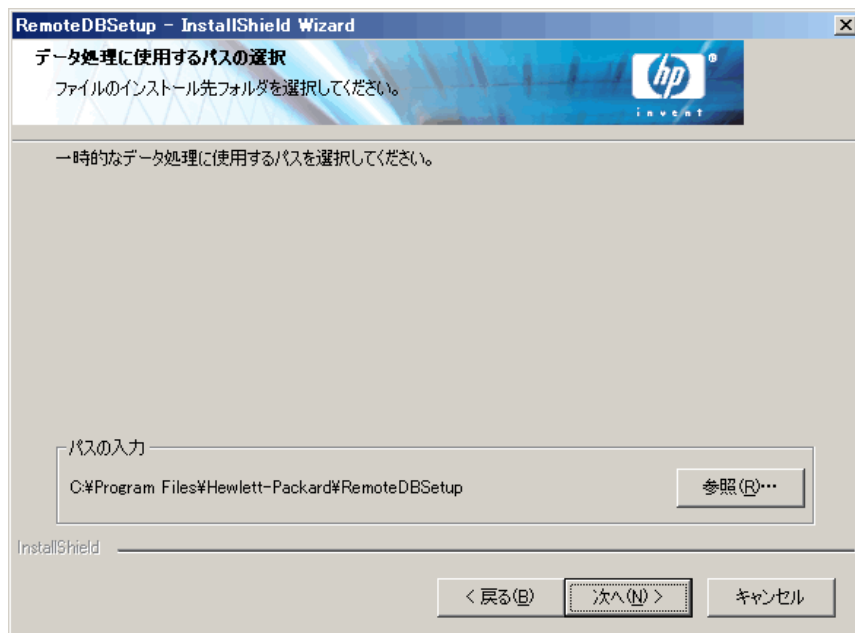


- 6 **[ データ処理に使用するパスの選択 ]** ダイアログが表示されます。

- a ローカル コンピュータにインストールする場合は、データベース ファイルのインストール先を指定し、**[次へ]** をクリックします。



- b 別のコンピュータ、またはクラスタへのインストールを選択した場合は、一時的なデータ処理に使用する場所を選択し、**[次へ]**をクリックします。





## 7 [データベース情報] 画面を次のように設定します。

- a データベース サーバーの名前と、OVOPS インスタンスの作成時に指定した「sa」パスワードを入力します。

RemoteDBSetup - InstallShield Wizard

データベース情報  
リモートデータベースの作成

データベースとログインを作成するための情報を入力してください。

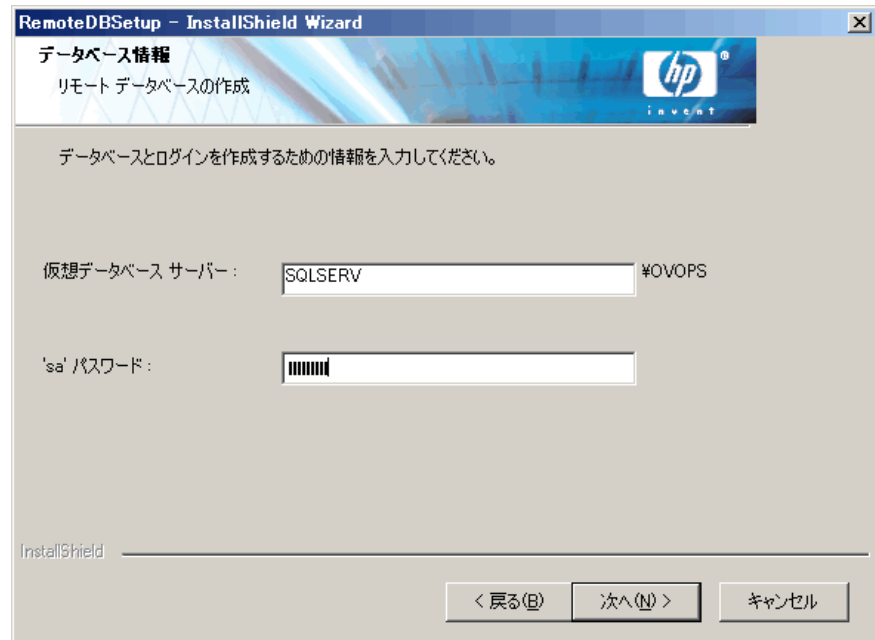
データベース サーバー: SQLSERV #OVOPS

'sa' パスワード: \*\*\*\*\*

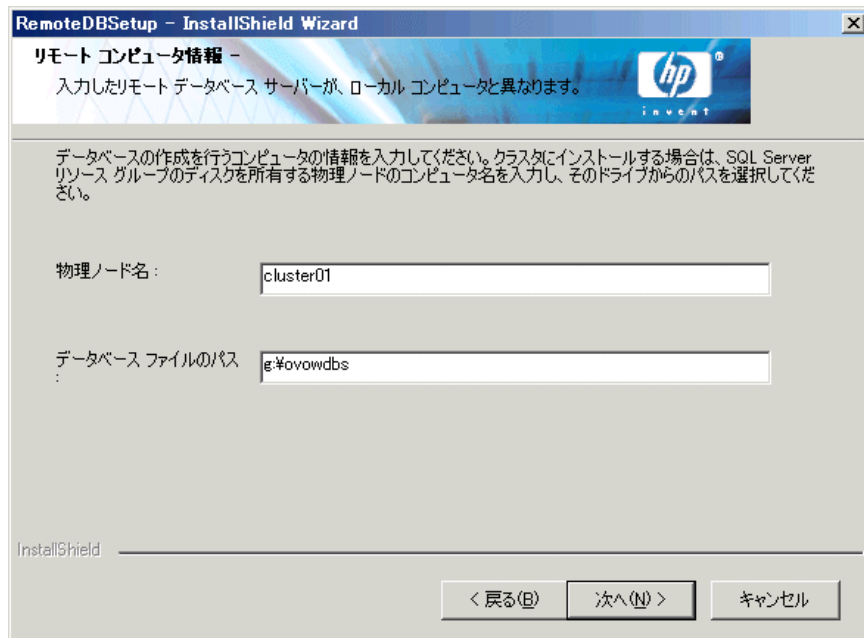
InstallShield

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

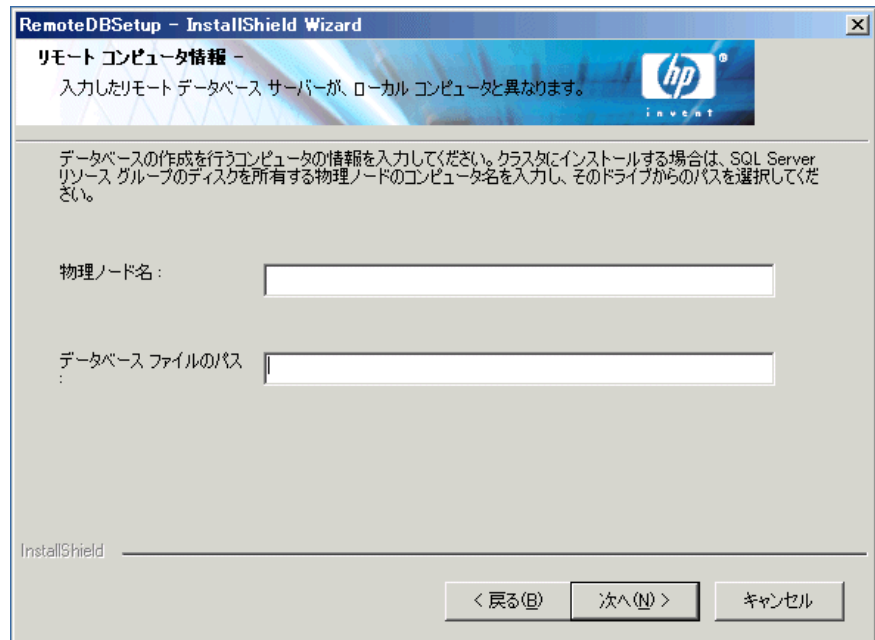
- b クラスタ化された SQL Server へのインストールでは、仮想データベースサーバーの名前とパスワードを入力します。



- 8 **[ リモート コンピュータ情報 ]** ダイアログは、別のコンピュータまたはクラスタへのインストールを選択した場合にのみ表示されます。
- a クラスタへのインストールでは、現在設定を実行しているコンピュータの物理ノード名と、データベース ファイルのインストール先の完全パスを指定します。



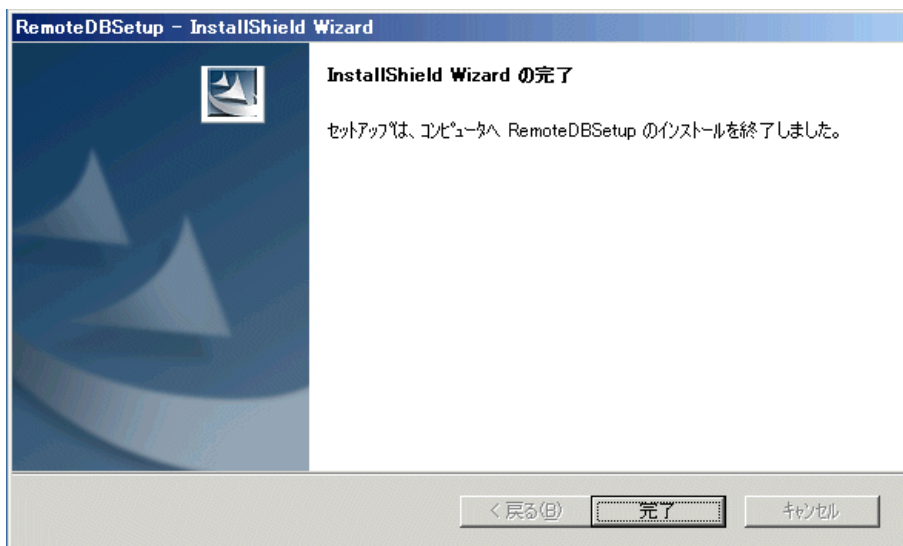
- b 別のコンピュータへのインストールでは、コンピュータの名前に、データベース サーバーの名前として指定した値が表示されます。データベース ファイルのインストール先の完全パスのみ入力する必要があります。



- 9 **[インストール準備の完了]** 画面で **[インストール]** をクリックします。インストールが開始されます。



- 10 インストールが完了すると、**[InstallShield ウィザードの完了 ]** 画面が表示されます。**[完了]** をクリックしてインストールを終了します。



## OVO の標準インストール

OVO の標準インストールは、クラスタ化されていない通常の Windows サーバーで行います。この章で説明する内容は次のとおりです。

- 管理サーバーおよびコンソールへの OVO のインストール
- 高度なセキュア環境への OVO のインストール

このセクションは、Windows に習熟した管理者で、Windows のセキュリティに関する概念および用語を理解している読者を対象としています。

OVO を初めてインストールする場合は、ビジネス環境で使用する前に 1 つ以上のテスト用システムにインストールして、OVO に習熟することをお勧めします。



既にインストールされている HP OpenView Operations 6.0 (VantagePoint for Windows)、HP OpenView Express、または HP OVO 7.0、7.10、または 7.21 のバージョンを新しいバージョンにアップグレードする場合は、現行インストールに適したアップグレード ガイドを参照してください。アップグレード ガイドは、インストール メディアに .pdf 形式で保存されています。このガイドには、アップグレード、エージェントのアップグレード、およびポリシーのアップグレード前のデータ保存の手順が記載されています。マニュアルを注文すると、印刷されたアップグレード ガイドも入手できます。

## 管理サーバーおよびコンソールのインストール

次に、OVO 管理サーバーおよびコンソールを Windows 2000/2003 システムにインストールする方法を説明します。次の 2 つの方法があります。

オプション 1 (推奨オプション)

- OVOPS インスタンスを持つ SQL Server 2000 をインストールします。
- OVO をインストールします。

オプション 2

- OVO をインストールします。
- SQL Server 2000 をインストールして、MSDE のインスタンスをアップグレードします。

リモート コンソールをインストールするには、インストールを行うユーザーにローカル管理者権限が必要です。リモート コンソールから OVO サーバーに接続するには、リモートコンソールを実行しているドメイン ユーザーが、次のいずれかの条件を (直接的に、またはグループ メンバとして間接的に) 満たしている必要があります。

- 1 OVO for Windows サーバーのローカル管理者
- 2 ユーザー グループ HP-OVE-ADMINS のメンバ
- 3 ユーザー グループ HP-OVE-OPERATORS のメンバ

上記の 1 と 2 では、リモート コンソールのドメイン ユーザーは OVO for Windows の管理者として認識されます。3 では、ユーザーは OVO for Windows のオペレーターとして認識されます。

OVO を使用できるようにシステムを設定するために、インストール中は WMI (Windows Management Instrumentation) サービスと World-Wide-Web Publishing Server サービスを一時的に停止し、再開する必要があります。インストールを開始する前に、この中断と再開が他のアプリケーションに影響しないことを確認してください。

OVO の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告については、[付録 B、「システム要件のチェック」](#)を参照してください。



## リモート コンソールのインストール

次に、OVO リモート コンソールを Windows XP/2000/2003 システムにインストールする方法を説明します。

リモート コンソールをインストールするには、ローカル管理者の権限が必要です。リモート コンソールから OVO サーバーに接続するには、リモート コンソールを実行しているドメイン ユーザーが、次のいずれかの条件を (直接的に、またはグループ メンバとして間接的に) を満たしている必要があります。

- 1 OVO for Windows サーバーのローカルな管理者
- 2 ユーザー グループ HP-OVE-ADMINS のメンバ
- 3 ユーザー グループ HP-OVE-OPERATORS のメンバ

上記の 1 と 2 では、リモート コンソールのドメイン ユーザーは OVO for Windows の管理者として認識されます。3 では、ユーザーは OVO for Windows のオペレータとして認識されます。

OVO の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告については、[付録 B、「システム要件のチェック」](#)を参照してください。



OVO では、管理サーバーまたはコンソールをドメイン コントローラにインストールすることはできません。サポートされない設定については、33 ページの「[サポートされない設定](#)」を参照してください。

## ターミナル サービスによる OVO のインストール

次の条件を満たしている場合、OVO 管理サーバーとリモート コンソールをリモート デスクトップ接続セッション、またはターミナル サービス セッションを通じてインストールできます。

- ターミナル サービスが、リモート管理モードで実行されている。
- いずれかのコンポーネントの `setup.exe` が、CD からではなく、インストール先のサーバーのローカル ファイル システムから実行される。

ターミナル サービスについては、[http://support.openview.hp.com/tech\\_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf](http://support.openview.hp.com/tech_docs/ovo-win/OVOWSuppMatrix.pdf) に記載されている OVO サポート マトリクスを参照してください。

## インストールの前に

- すべてのシステム要件が満たされていることを確認してください。
- 本書第 3 章の 34 ページの「セキュリティ要件」を参照してください。

## ライセンス情報

OVO には、この製品をインストール後 60 日間使用できる 60 日間試用版ライセンスが付属しています。OVO コンソールを最初に起動する際に、標準版ライセンスのパスワードを請求するように促すメッセージが表示されます。標準版パスワードは、ここで取得することも、後から取得することもできます。61 日目に達すると、標準版ライセンスを取得するまでこの製品を使用できなくなります。82 ページの「[ライセンス情報の入力](#)」を参照してください。

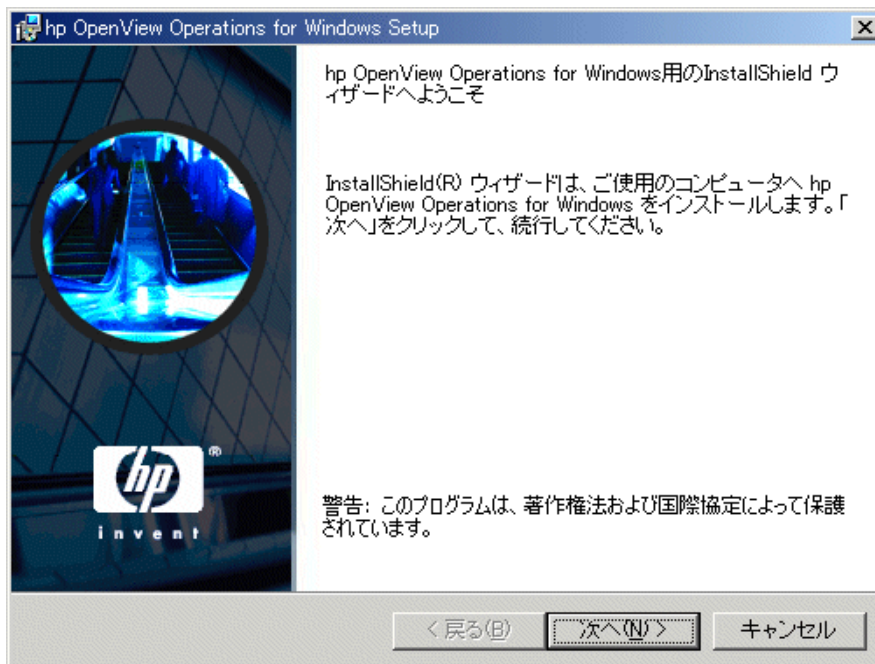
## OVO のインストール

OVメディアキットに含まれるその他の製品(SPIやアドオンなど)をインストールすることもできます。ただし、SPIやアドオンをインストールするには、OVOを最初にインストールするか、OVOがすでにインストールされている必要があります。

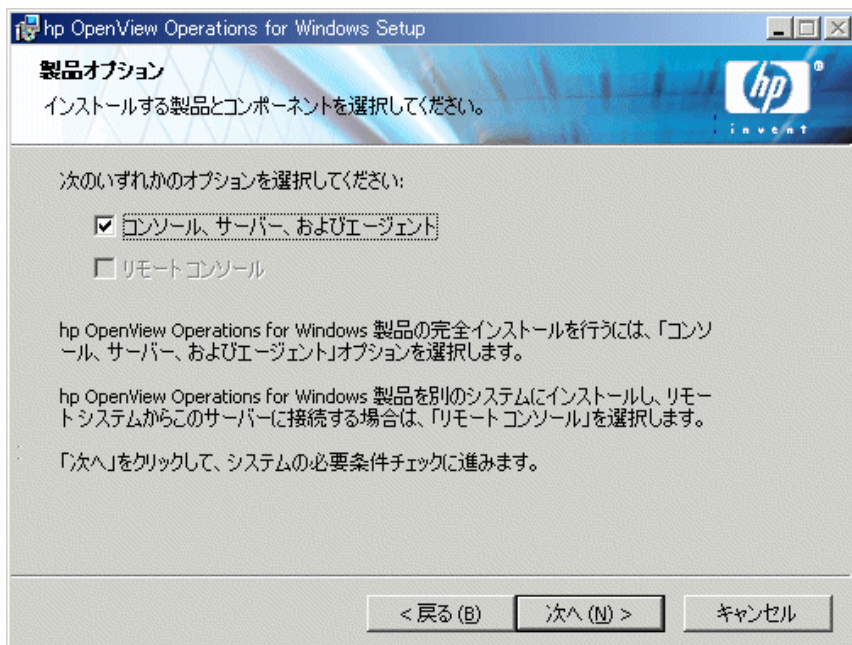
- 1 開いているすべてのアプリケーションを閉じて、再起動の必要性を最小限にします。
- 2 コンソールとして使用するシステムのCDドライブにOV Operations 7.5 for WindowsのCDを挿入します。
  - Autorunが有効な場合、インストールが自動的に開始されます。
  - Autorunが無効な場合は、インストールメディアのルートから**autorun.vbs**を実行します。

次に、インストールウィザードが要求するタスクの実行方法について説明します。

- 3 **[ようこそ]**画面の**[次へ]**をクリックして、機能選択画面に移動します。

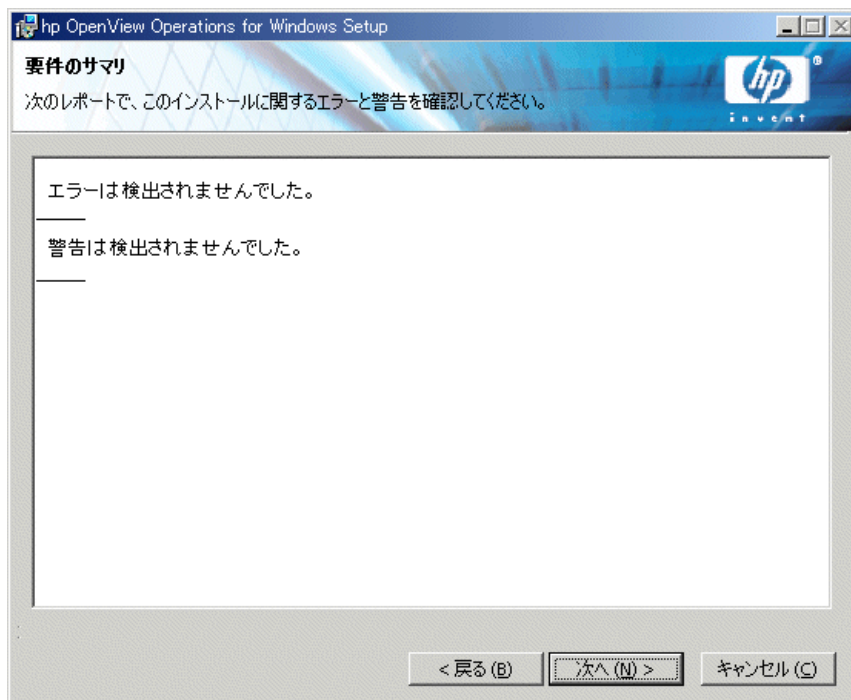


- 4 **[製品オプション]** 画面では、**[コンソール、サーバー、およびエージェント]** のインストールを選択します。リモート コンソールをインストールする場合は、**[リモート コンソール]** オプションを選択します。選択が完了したら、**[次へ]** をクリックして、システムの必要条件チェックを行います。

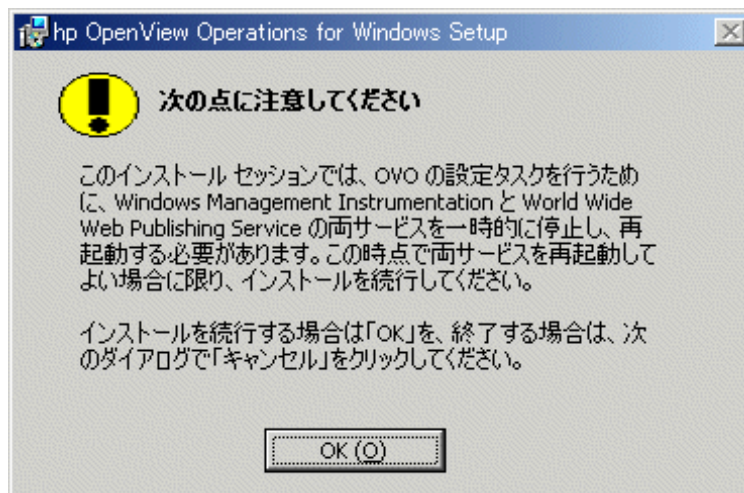


**[要件のサマリ]** 画面には、OVO の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告が表示されます。インストールを続ける前に、すべてのエラーを解決する必要があります。インストール時にチェックされるハードウェアとソフトウェアの項目については、付録 B、「システム要件のチェック」を参照してください。

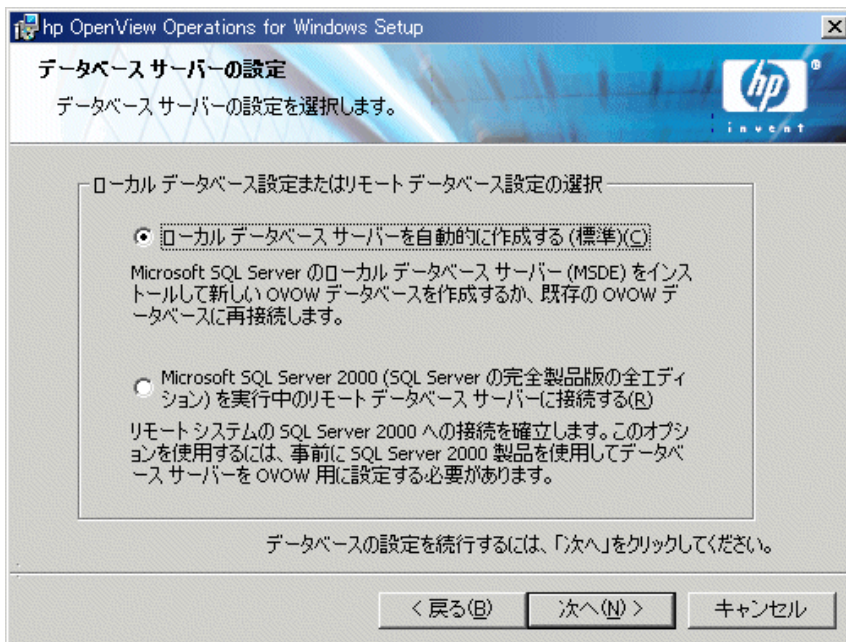
エラーが検出されない場合は、**[次へ]** をクリックして操作を続けます。



**[次の点に注意してください]** ウィンドウには、再起動されるサービスが表示されます。再起動は、インストールプロセスの実行中に自動的に行われます。砂時計のカーソルで **[OK]** をクリックし、インストールを続けます。



- 5 **[ データベース サーバーの設定 ]** 画面では、ローカル データベース サーバーを自動的に作成するか、MS SQL Server 2000 の詳細設定を行うかを選択できます。
- a 一般的なインストールでは、**[ ローカル データベース サーバーを自動的に作成する ]** を選択します。**[ 次へ ]** をクリックし、ステップ 6 に進みます。



- b OVOPS インスタンスを持つ、または持たない MS SQL 2000 を使用する場合は、**[Microsoft SQL Server 2000 (SQL Server の完全製品版の全エディション) を実行中のリモート データベース サーバーに接続する]** を選択します。

OVOPS インスタンスが存在しない場合、システムはリモート データベースを使用するものと見なし、**[SQL Server 2000 リモート データベース セットアップ]** 画面を表示します。リモート データベース サーバーの名前と sa パスワードを入力します。**[次へ]** をクリックします。**[使用許諾契約]** 画面が表示されます (ステップ 8 を参照)。

hp OpenView Operations for Windows Setup

**SQL Server 2000 リモート データベース セットアップ**

インストール先の hp OpenView Operations for Windows 管理サーバーで使用するデータベース サーバーを選択します。

今回のインストールで使用する OVOW サーバーのデータベース ファイルが格納されたリモート データベース サーバーの名前を入力してください。

SQL Server 2000 で OVOPS インスタンスをセットアップしたときに使用したシステム管理者 (sa) のパスワードを入力してください。

ヒント: クラスティ化されたリモート データベース サーバーについては、サーバーの物理ノードの名前ではなく、仮想のデータベース サーバー名を入力してください。

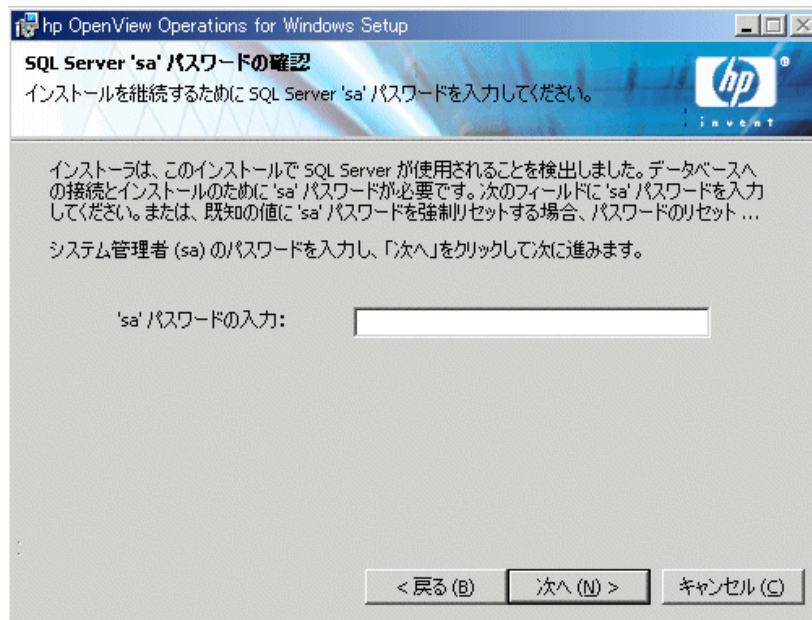
リモートデータベース サーバー:  #OVOPS

'sa' パスワード:

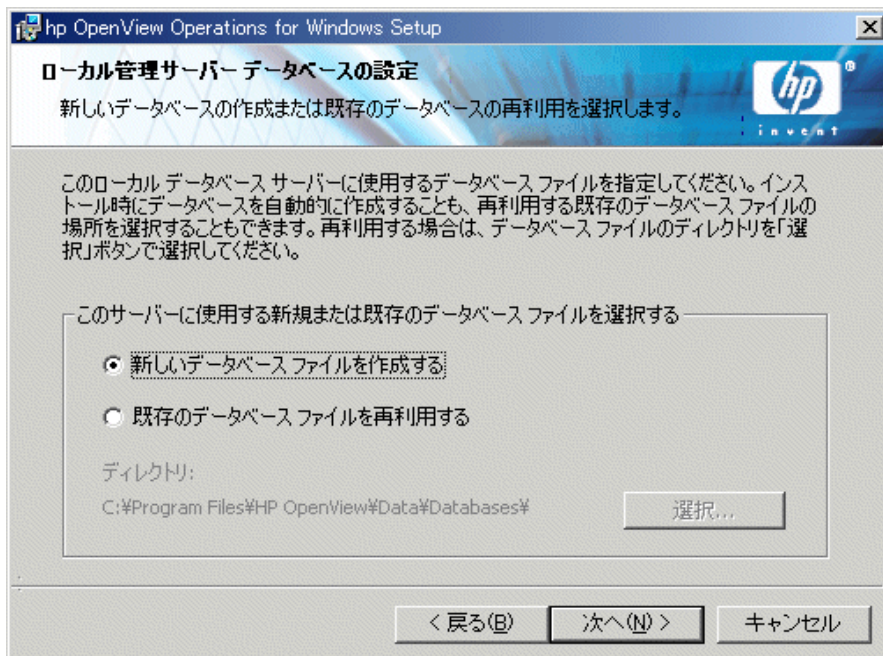
< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル



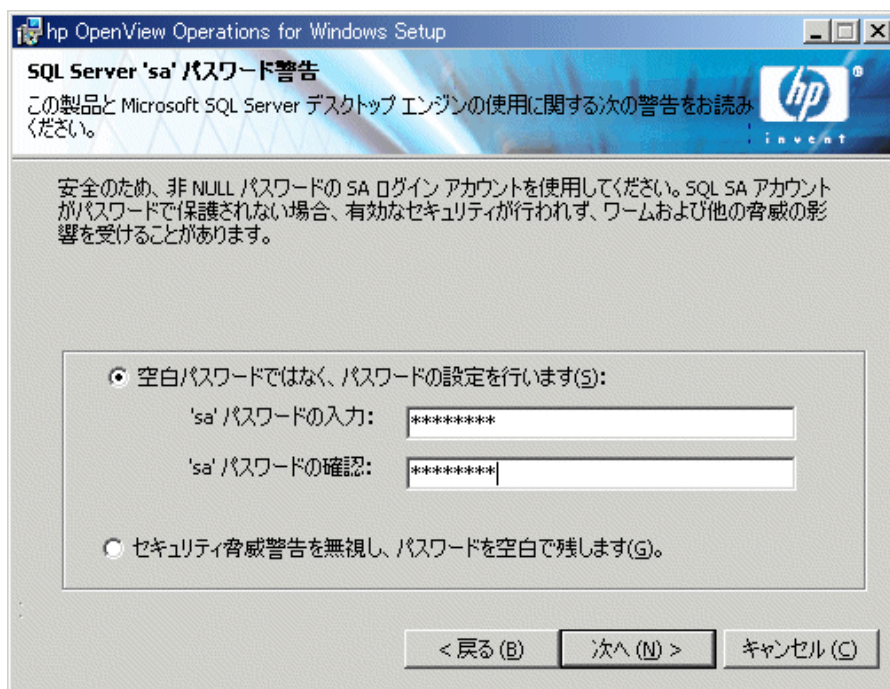
- ▶ ローカル コンピュータに OVOPS インスタンスが存在する場合は、[要件のサマリ] 画面から [SQL Server 'sa' パスワードの確認] 画面に直接移動します。データベース設定画面は表示されません。ローカル SQL サーバーの sa パスワード (および確認入力) を入力します。[次へ] をクリックします。[使用許諾契約] 画面が表示されます (ステップ 8 を参照)。



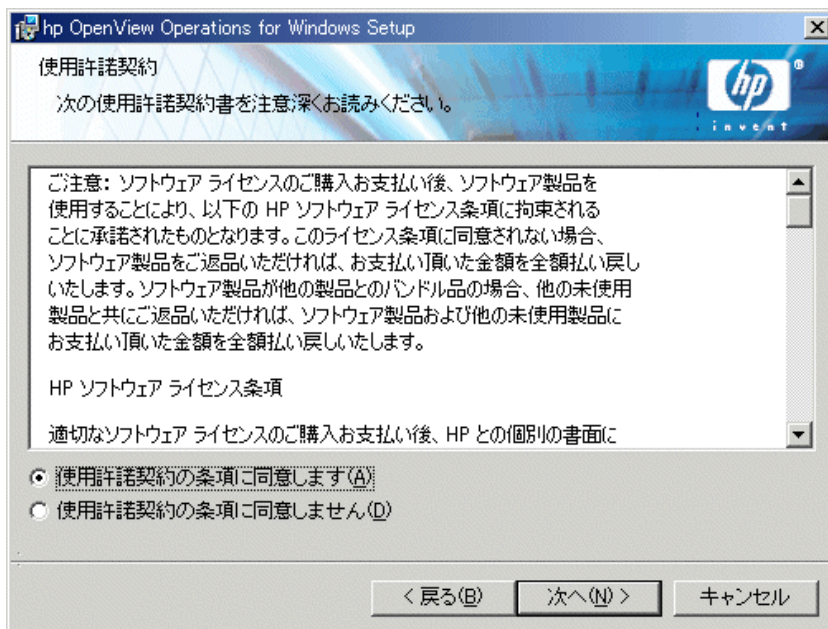
- 6 **[ ローカル管理サーバー データベースの設定 ]** 画面では、ローカルデータベース サーバーが使用するファイルとして、**[ 新しいデータベース ファイルを作成する ]** を選択します。**[ 次へ ]** をクリックします。



- 7 SQL システム管理者 (sa) パスワードを入力します。パスワードを確認したら、**[次へ]** をクリックして、**[使用許諾契約]** 画面に進みます。



- 8 **【使用許諾契約】** 画面では、使用許諾契約書の内容に同意し、**【次へ】** をクリックしてインストールを続けます。同意を拒否した場合、インストールはキャンセルされます。



標準版ライセンスの取得については、[82 ページ](#)を参照してください。

- 9 **【インストール先のフォルダ】** 画面では、デフォルトのインストール先ディレクトリを使用するか、別のディレクトリを指定して OVO をインストールするかを選択できます。ここで選択したインストール先ディレクトリは、この CD からインストールする他の OpenView 製品のデフォルト ディレクトリとして使用され、以後のインストールではこのディレクトリを変更できません。最初にインストールする OpenView アプリケーションが、OVO と、Reporter、OVPA などのその他の OpenView 製品のインストールディレクトリを決定します。

デフォルトのインストール先ディレクトリは次のとおりです。

```
C:\Program Files\HP OpenView\
```

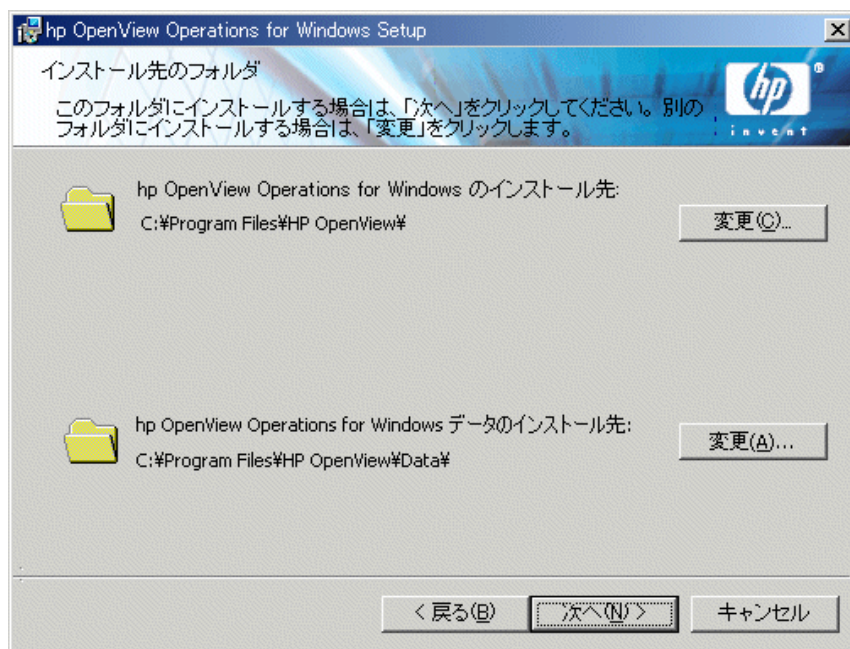
- a デフォルトのインストール先ディレクトリにインストールする場合は、**【次へ】** をクリックします。

- b デフォルト以外のディレクトリにインストールする場合は、適切な **[変更]** ボタンをクリックします。**[現在のインストール先フォルダの変更]** ダイアログボックスが表示されます。

**[インストール先のフォルダ]** ダイアログボックスの **[変更]** ボタンは、OV 製品 (OVO、Reporter、または OVIS) の最初のインストールでのみ有効です。その他の OpenView 製品がすでにインストールされている場合、**[変更]** ボタンは無効化されます。

- c **[現在のインストール先フォルダの変更]** 画面で適切なディレクトリを指定し、**[OK]** をクリックします。ディスク容量が不足している場合は、**[OK]** をクリックしたときにメッセージが表示されます。

- d **[インストール先のフォルダ]** 画面の **[次へ]** をクリックします。



**10 | 管理サーバーの Admins アカウントのセットアップ** | 画面では、次の操作を行います。

- a ドメイン アカウントではなく、ローカルアカウントを使用して OVO をインストールする場合は、**[ローカル アカウントを使用]** にチェックマークを付けます。ドメイン アカウントを使用する場合は、チェックマークを外します。
- b グループとユーザーのアカウントを指定するか、デフォルト値をそのまま適用します。



インストールの際に入力した HP-OVE-GROUP 名は、製品を完全にアンインストールしてから再インストールしない限り変更できません。アカウント名を入力する前に、このマニュアルの 34 ページの「**セキュリティ要件**」をよくお読みください。

- c パスワード (および確認入力) を入力したら、**[次へ]** をクリックします。

hp OpenView Operations for Windows Setup

**管理サーバーの Admins アカウントのセットアップ**

サーバーのドメインとローカルのメンバを設定し、管理権限を持つアカウントを作成して、エージェントの自動インストールを有効にします。

サーバーを Windows ドメイン アカウントとローカル アカウント (スタンドアロン) のどちらでインストールするかを指定します。Windows ドメイン アカウントを選択すると、OVOW サーバー (同一ドメインの Windows ノードに OVOW エージェントを自動的にインストールできます。Windows ドメイン アカウントは、エージェントの初期インストールまたはエージェントのアップグレードのときにのみ使用されます。

ローカル アカウントを選択する場合は、"hp OpenView operations 7.5 for Windows standalone agent" の CD か、別のソフトウェア配布方法で、各ノードに OVOW エージェントを手動でインストールする必要があります。

メモ: 入力したアカウント名が存在しない場合、アカウント名の作成を確認するメッセージが表示されます。ドメイン アカウントを作成するには、Domain Admins グループの権限が必要です。

ローカル アカウントを使用(U)

信頼関係のあるドメイン: OVRNTVM8

ユーザー アカウントとグループ アカウントの指定

グループ アカウント: HP-OVE-GROUP

ユーザー アカウント: HP-OVE-User

パスワード:

パスワードの確認:

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

ドメイン インストール：このインストール方法は、OVO 管理サーバーが Windows ドメインのメンバであることを前提としています。この方法では、ドメイン アカウントおよびグループが新たに作成されるか、または既存のものが使用されます (デフォルトは HP-OVE-User および HP-OVE-Group)。このドメイン グループにより、OVO サーバーは、Windows ノードの管理と、このノードへのエージェント ソフトウェアのインストールを自動的にを行います。

これは、Windows ノードが管理サーバーと同じドメインにあるか、管理サーバーのドメインに適切な信頼関係が設定されている場合にのみ可能です。HP-OVE-Group を Windows ノードに正しく追加するには、OVO コンソールを実行しているユーザーが、その Windows ノードで管理者権限を (直接的に、またはドメイン管理者グループを通じて間接的に) 持っている必要があります。

ローカル インストール：このインストール方法は、Windows ドメイン アカウントまたはドメイン グループを必要としません。管理サーバーは、ワークグループのメンバ (workgroup) または Windows ドメインのメンバのどちらでもかまいません。このインストール方法には、次の制限があります。

- 管理サーバー自体のエージェントを除いて、Windows 管理ノードのエージェント ソフトウェアを自動的にインストールすることはできません。リモートの管理 Windows ノードはすべて、Windows Manual Agent パッケージを使用してインストールする必要があります。
- 一部の SPI 製品が使用するエージェント機能パッケージは自動配布できないため、Windows 管理ノードで手動インストールする必要があります (各 SPI については、それぞれのインストール手順を参照してください)。
- 管理サーバーが、ドメインのメンバではないワークグループに含まれる OVO のインストールでは、リモート MMC コンソールはサポートされません。この場合は、ターミナル サービスを使用して OVO サーバーに接続し、サーバー上のコンソールを実行できます。

ドメイン インストール セットアップ、またはローカル アカウント セットアップのいずれかを使用する OVO 管理サーバーではリモート MMC コンソールはサポートされますが、OVO サーバー システムとリモート コンソール システムが同一 Windows ドメインに存在するか、それと同等の双方向ドメイン信頼関係が設定されている必要があります。
- 運用マシンにローカル アカウント インストールを行った場合、それを後からドメイン アカウントに変更することはできません。
- 管理サーバーからエージェントへの通信、イベント、ポリシー、配布、グラフ作成などは、ローカル アカウント インストールの影響は受けません。

— UNIX 管理ノードの場合は、ドメイン セットアップまたはローカル アカウント セットアップによる違いはなく、インストール処理を常に手動で行う必要があります。

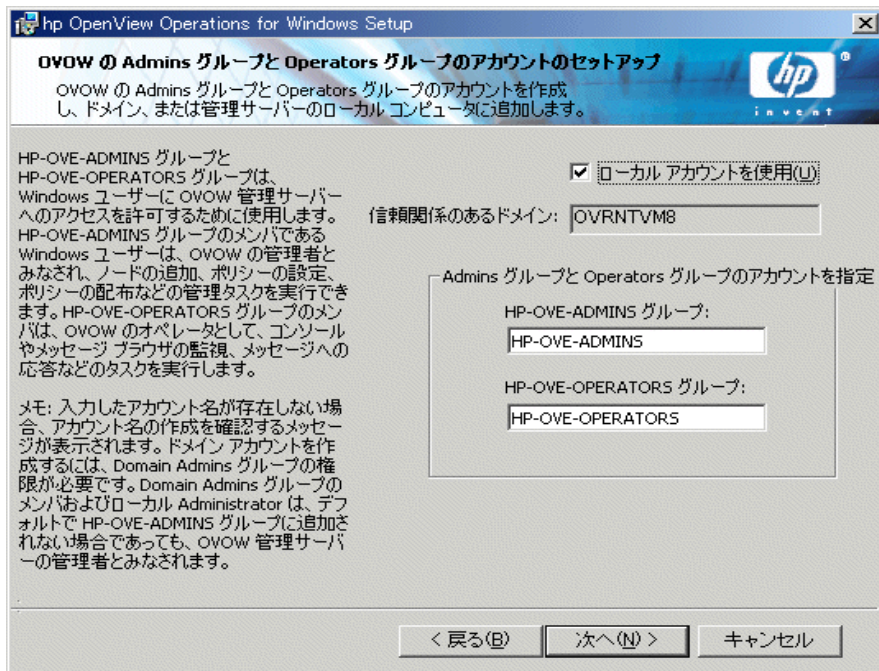
一度設定されると、インストール メディアから他の製品をインストールする場合にも、このアカウント情報が使用されます。リモート コンソールのインストールでは、この画面は表示されません。選択したインストールの種類に応じて、次のセキュリティ情報を入力します。

— セキュリティ アカウントに使用するドメイン (ドメイン インストールの場合にのみ必要)

— HP-OVE-GROUP アカウントのグループ名

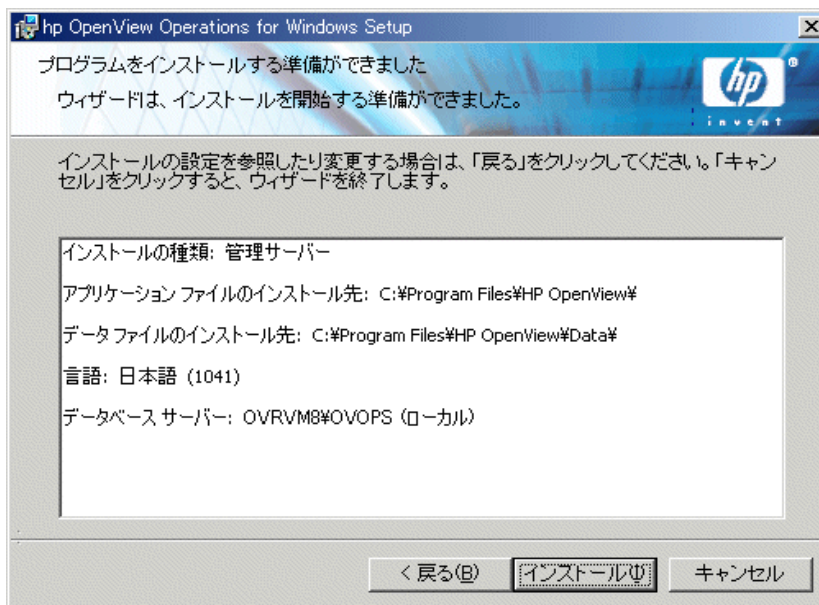
— HP-OVE-User アカウントのユーザー名とパスワード

**11 [OVOW の Admins グループと Operators グループのアカウントのセットアップ]** 画面では、管理者グループとオペレータ グループを指定し、[次へ] をクリックします。





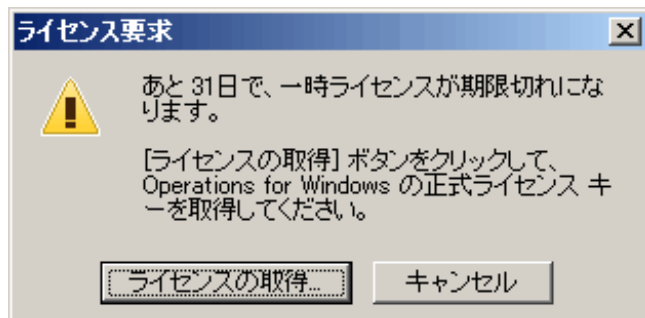
- 12 [プログラムをインストールする準備ができました]画面で[インストール]をクリックします。インストールが開始されます。



- 13 インストールプログラムの実行中に、さまざまなステータス ダイアログが表示されます。各インストール コンポーネントがそれぞれのステータス ダイアログを表示します。たとえば、ライセンス コンポーネント、レポート コンポーネント、グラフ作成コンポーネント、3つの SPI が製品に含まれます。
- システムの処理速度とインストールの際に選択されたコンポーネントによっては、この処理に数分から1時間以上かかる場合があります。
- 14 完了画面が表示されると、インストールは終了です。**[完了]**をクリックしてインストールを終了します。
- 15 インストールプログラムの終了時に、基本トレーニング チュートリアルを参照するように求められます。**[インストール完了]**ダイアログの**[チュートリアル開始]**ボックスにチェックマークを付けるだけで、チュートリアルを表示できます。このチュートリアルは、OVOの機能および製品概要を紹介し、OVOの操作を始める前に行う必要がある設定および配布の手順を詳細に説明します。

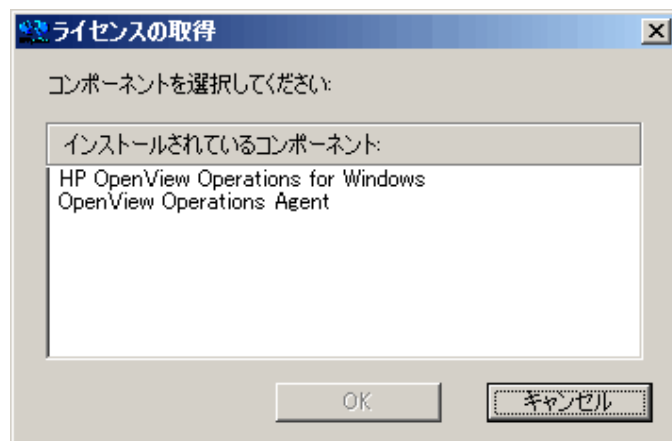
## ライセンス情報の入力

OVO コンソールを起動すると、**[ライセンス要求]** ダイアログ ボックスが表示されます。



標準版ライセンス キーを取得するには、**[ライセンスの取得]** を選択して、AutoPass ライセンス プログラムを開き、画面上の指示に従います。

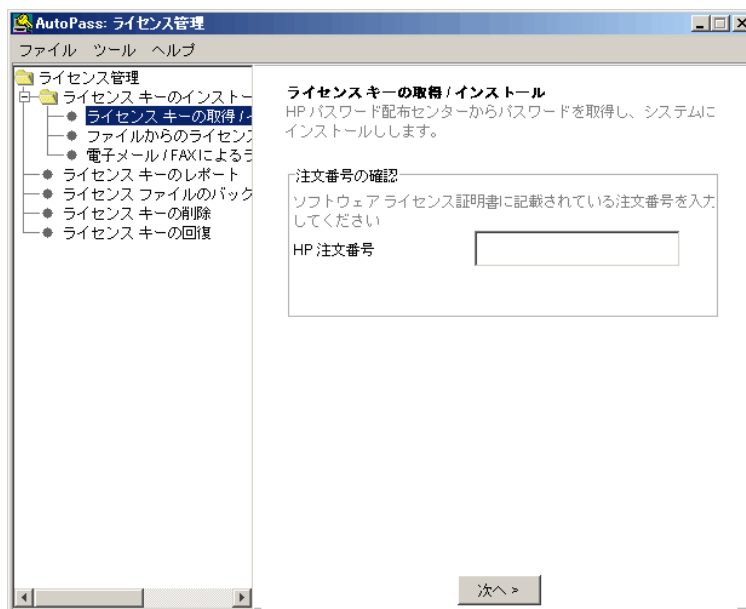
▶ 管理サーバーのライセンスには、管理サーバーにインストールするエージェントのライセンスも含まれています。





管理ノードに限定ライセンスを使用する場合、OVO エージェントの標準ライセンスを追加インストールした場合でも、ライセンスに指定されている数より多くのノードを管理することはできません。管理ノードの管理サーバー限定ライセンスは、いつでも管理サーバー完全ライセンスにアップグレードできます。ただし、この場合、OVO for Windows 管理サーバーが管理するすべてのノードで実行される OVO エージェントと、使用する OV SPI に相当する数量のライセンスを購入する必要があります。管理ノードの管理サーバー限定ライセンスに加えて OV SPI のライセンスを購入した場合、それ以上の OV SPI ライセンスを購入する必要はありません。

管理ノードの限定ライセンス、その機能拡張、および移行の可能性については、担当営業、またはメディアに付属するお知らせを参照してください。



必要であれば、ライセンス情報の入力を延期することができます。後でライセンスプログラムを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 **OVO 管理サーバー**で、コンソール ツリーから **[ツール]** フォルダを選択します。
- 2 **[ツール]** → **[OpenView ツール]** → **[ライセンス]** を選択して、ツールのリストを表示します。

- 3 **[ライセンスの取得]** を選択します。これにより、管理サーバー、エージェント、または SPI の標準版ライセンスのパスワードを請求できます。右クリックして、ショートカット メニューを開きます。
- 4 **[すべてのタスク]** → **[ツールの起動]** を選択して、**[ライセンスの取得]** ダイアログ ボックスを開きます。
- 5 リストから管理サーバー製品を選択し、**[OK]** をクリックします。

ライセンス プログラムの詳細な使用方法については、AutoPass のオンライン ヘルプを参照してください。AutoPass は、\Program Files\Common Files\Hewlett-Packard に格納されています。

OVO コンソールで、**[ツール]** → **[OpenView]** → **[ライセンス]** を選択することでライセンス レポート ツールも選択できます。これにより、使用中のパスワードの情報を取得できます。

詳細については、オンライン ヘルプの「はじめに」→「OpenView Operations for Windows のライセンス」および「SPI ライセンス レポート」のトピック「OpenView Operations for Windows のライセンス」および「SPI ライセンス レポート」を参照してください。

## 標準版ライセンスの請求

標準版ライセンスのパスワードを請求するには、次の情報が必要です。

- HP の注文書番号
- サーバーの IP アドレス
- お客様の会社情報

ライセンスの入手には、製品購入時の HP PO 番号 (注文書番号) が必要です。製品を購入されていない場合は、米国およびカナダ国内であれば 1-877-686-9637 までお電話ください。または、**www.hp.com** にアクセスして、最寄りの HP OpenView 正規代理店にお問い合わせください。

## インストールの結果

OVO のインストールが完了すると、次のアクセスが可能となります。

- [スタート]メニューにフォルダが追加され、コンソールを開くことができます。  
[スタート] → [プログラム] → [HP OpenView] → [コンソール]
- 1 枚目のインストール CD の \Documentation\OVO Guides ディレクトリに格納されている OVO のドキュメント (Adobe Acrobat .PDF 形式) が、サブディレクトリ %OvInstallDir%\NLS\1041\Manuals にも格納されます。利用できるすべてのドキュメントのリストについては、付録 A、「ドキュメント」を参照してください。

## インストール ログ ファイル

インストール後、いくつかのログ ファイルが作成され、データ ファイル用の Data ディレクトリのサブディレクトリ **log** に格納されます。

```
%OvDataDir%\HPOVInstall
```

## 高度なセキュア Windows 環境への OVO のインストールと実行

Windows 2000 および 2003 には、厳密で強制力のあるセキュリティルールを、管理者が各システムに個別に、または Windows ドメイン レベルのすべてのシステムメンバに対してグローバルに実装できるセキュリティテンプレートが用意されています。

Windows 2000 および Windows 2003 システムでは、デフォルトでこれらのセキュリティテンプレート (フォルダ %SystemRoot%\security\templates) を使用できます。アクセスには、「セキュリティ構成と分析」MMC スナップインを使用します。セキュリティテンプレートの実装については、Windows のドキュメントを参照してください。

### 高度なセキュリティ設定と OVO への影響

一部の高度なセキュリティテンプレート (たとえば、hisecws.inf や hisecdc.inf で表されるテンプレート) は、OVO を次のようにインストールおよび実装することを求めるセキュリティポリシー設定を実装します。

このセキュリティポリシーは、システムのローカル管理者グループに「制限グループ」設定を適用します。このグループには、管理者以外のユーザーまたはグループを含めることができません。追加が許可されるメンバは、ローカル管理者、ドメイングループ、「ドメイン管理者」、「エンタープライズ管理者」に限定されます。

このポリシーは、上記テンプレートから独立して実装することができます。また、システムにローカルに実装することも、GPO (グローバルポリシーオブジェクト) によってドメインにグローバルに実装することもできます。OVO をインストールする前に、このような「制限グループ」設定が実装されているかどうかについて、Windows ドメイン管理者に確認してください。

ローカルグループを「HP-OVE-Group」として使用することが必要であるということは、すべてのリモート Windows 管理ノードを Windows Manual Agent パッケージを使用して手動でインストールしなければならないことを意味します。

## 制限グループ設定を適用した OVO の実装

### 要件

OVO サーバーは、「HP-OVE-User」の既存のローカル Administrator アカウントと、「HP-OVE-Group」のローカル Administrators アカウントを使用して、インストールする **必要があります**。実際のグループ名は、Windows のローカライズによって異なる場合があります。

**すべての OVO Windows エージェントは、Windows Manual Agent パッケージを使用して手動でインストールする必要があります**（ただし、サーバーのインストール時に自動的にインストールされる OVO 管理サーバーの OVO エージェントを除きます）。



リモート コンソールはサポートされます（ただし、リモート コンソール システムと OVM 管理サーバーが同一ドメインのメンバであるか、または、同等の双方向ドメイン信頼関係が設定されている必要があります）。

HP-OVE-ADMINS および HP-OVE-OPERATORS グループは、ローカル グループとドメイングループのいずれかとしてサポートされます。



「HP-OVE-User」および「HP-OVE-Group」として、ドメイン管理ユーザー、および「ドメイン管理者」または「エンタープライズ管理者」グループを使用することができますが、Windows ドメインとすべてのメンバシステムに対する管理アクセス権が OVO 管理サーバー（および OVO 管理ユーザー）に付与されてしまうため、お勧めできません。



高度なセキュリティ設定では、ローカル管理者を含むすべてのユーザーに対して、厳密なパスワード ポリシーと、パスワード有効期限ポリシーが適用されます。OVO は、一部のサービスをローカル「管理者」として実行するため、パスワードの有効期限に基づいて、パスワードを頻繁に更新する必要があります（パスワードの更新には **OvChgPass.exe** ユーティリティを使用します）。



管理者グループに「制限グループ」設定が適用されている場合でも、ローカル管理者グループに一時的に別のユーザーまたはグループを追加することが可能です。ただし、最終的には GPO によってこれらのユーザーまたはグループは自動的に削除されます ( 通常の検出間隔は 15 分です )。

例：高度なセキュア環境にインストールする場合の [ 管理サーバーの Admins アカウントのセットアップ ] ダイアログ。必ず [ ローカル アカウントを使用 ] を選択し、既存のユーザー アカウントとして [Administrator]、グループ アカウントとして [Administrators] ( またはシステムに固有の同等アカウント ) を使用する必要があります。



[ グループ アカウント ] と [ ユーザー アカウント ] の値には、すでに定義されているアカウントを使用する必要があります。追加ユーザーまたはグループを作成しないでください。

The screenshot shows a Windows dialog box titled "hp OpenView Operations for Windows Setup" with the subtitle "管理サーバーの Admins アカウントのセットアップ". The main text reads: "サーバーのドメインとローカルのメンバを設定し、管理権限を持つアカウントを作成して、エージェントの自動インストールを有効にします。".

On the right side, there is a checkbox labeled "ローカル アカウントを使用(L)" which is checked. Below it, a text field "信頼関係のあるドメイン:" contains the value "OVRVM8".

Under the heading "ユーザー アカウントとグループ アカウントの指定", there are four input fields:
 

- グループ アカウント: Administrators
- ユーザー アカウント: Administrator
- パスワード: [masked with asterisks]
- パスワードの確認: [masked with asterisks]

At the bottom, there are three buttons: "< 戻る(B)", "次へ(N) >", and "キャンセル".

Additional text on the left side of the dialog provides instructions:
 

- サーバーを Windows ドメイン アカウントとローカル アカウント (スタンドアロン) のどちらでインストールするかを指定します。Windows ドメイン アカウントを選択すると、OVOW サーバーは同一ドメインの Windows ノードに OVOW エージェントを自動的にインストールできます。Windows ドメイン アカウントは、エージェントの初期インストールまたはエージェントのアップグレードのときにのみ使用されます。
- ローカル アカウントを選択する場合は、"hp OpenView operations 7.5 for Windows standalone agent" の CD か、別のソフトウェア配布方法で、各ノードに OVOW エージェントを手動でインストールする必要があります。
- メモ: 入力したアカウント名が存在しない場合、アカウント名の作成を確認するメッセージが表示されます。ドメイン アカウントを作成するには、Domain Admins グループの権限が必要です。



## OVO のクラスタ インストール

この章では、クラスタ化された環境に OVO をインストールする手順について説明します。これには、次の情報が含まれます。

- クラスタ セットアップの各種オプションの説明
- クラスタ セットアップの要件と、サポートされない設定
- OVO のインストール前に行う準備
- OVO のインストールとインストールの検証

このセクションは、Windows に習熟した管理者で、Windows のクラスタに関する概念および用語を理解している読者を対象としています。

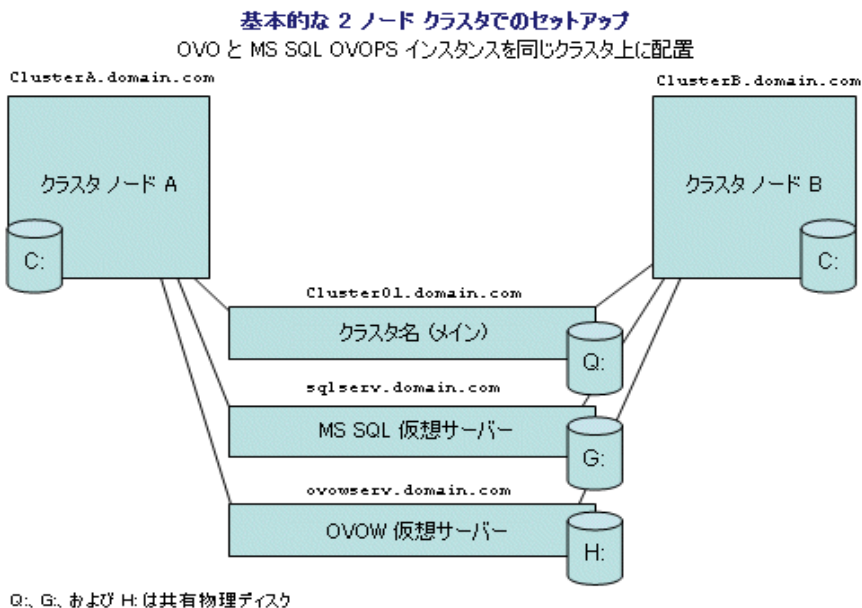
クラスタ化されていないスタンドアロン システムに HP OpenView Operations 7.21 または 7.5 がすでにインストールされ、高可用性のためにクラスタ インストールへのアップグレードが必要な場合は、OVO スタートアップ CD に収録されている『HP OpenView Operations for Windows アップグレード ガイド バージョン 7.5』(OVOWUpgrade.pdf) を参照してください。このアップグレード ガイドには、既存の単一システム OVO インストールを可用性の高いクラスタ化された OVO インストールに移行する手順が記載されています。

メディア キットは、標準インストールの場合と同じです。

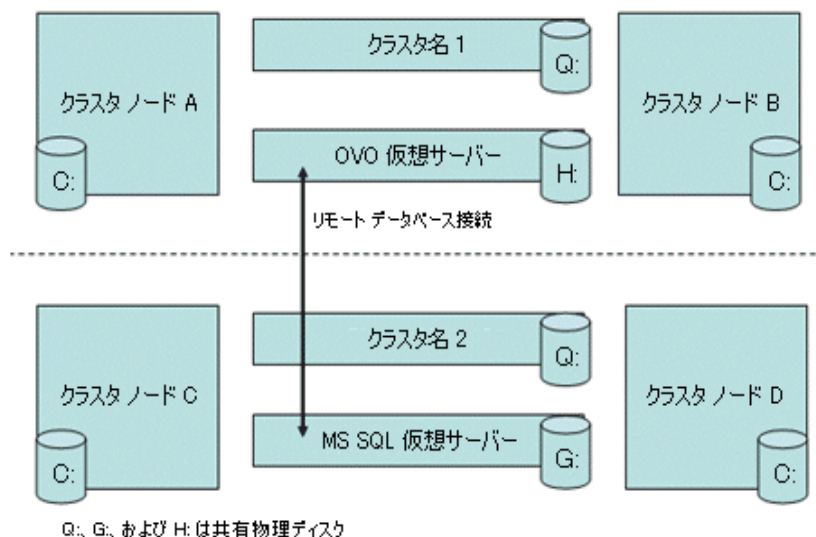
## クラスタ セットアップの概要

次の3つの図は、OVO クラスタ構成の3つの異なるオプションを示しています。

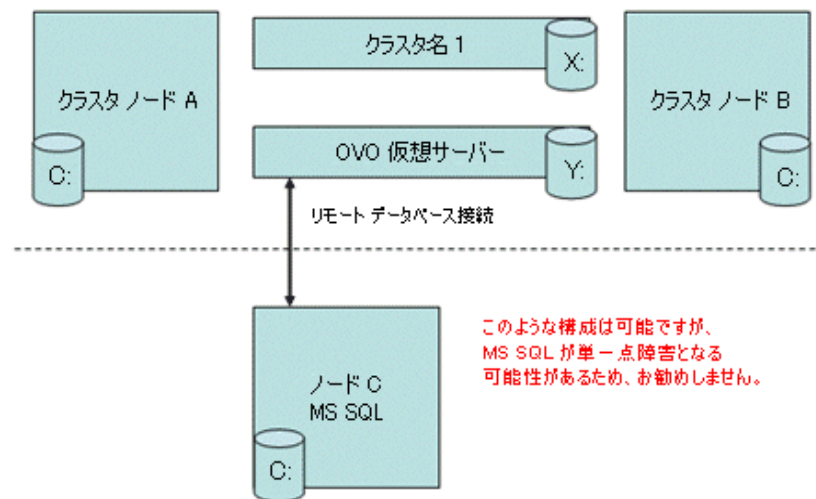
- 最初の図は、すべてが同じクラスタ内で稼動する3つの仮想サーバーを示しています。
- 2番目の図は、非クラスタ環境で稼動する OVO 仮想サーバーと、独立したクラスタで稼動する MS SQL 仮想サーバーを示しています。両者はリモート接続されています。
- 3番目の図は、非クラスタ システムにインストールされた MS SQL と、クラスタ環境にインストールされた OVO を示しています。この構成は、MS SQL が単一の障害点となる可能性があるため、お勧めできません。



## MS SQL をリモート クラスタに配置した OVO クラスタ



## MS SQL OVOPS インスタンスをスタンドアロン システム上に配置した OVO クラスタ



「構成データ」は、各構成例に必要なデータを示しています。インストールを行うには、次の表のように、実際の環境に即した値を収集する必要があります。

**表 7 構成データ**

項目	名前	FQDN	IP アドレス	ローカルディスク
クラスター仮想サーバー (メイン)	Cluster01	Cluster01.domain.com	15.8.153.30	Q: (クォーラム)
MS SQL 仮想サーバー	sqlserv	sqlserv.domain.com	15.8.153.31	G: (SQL データ)
OVO 仮想サーバー	ovowserv	ovowserv.domain.com	15.8.153.32	H: (OVO データ)
MS SQL データベース インスタンス	OVOPS	適用外	適用外	適用外

## 管理サーバーとコンソールのインストール

OVO 7.5 は、Microsoft Windows 2003 Cluster が稼動するフェイルオーバー構成への管理サーバーのインストールと実行をサポートする最初の OVO です。

管理サーバーの可用性は、データ リポジトリ (Microsoft SQL Server 2000) に左右されるため、MS SQL Server 2000 も Windows クラスタにインストールすることを強くお勧めします (ただし、必須ではありません)。通常は、MS SQL Server データベース インスタンスは、OVO 管理サーバーと同じクラスタに配置されます。

▶ インストール手順を簡略化するため、OVO と MS SQL Server が独立したリソースグループとして同じ Windows クラスタで稼動するものと見なします。MS SQL Server を、別のクラスタや、クラスタ化されていないスタンドアロン システムで稼動させることも考えられます。後者のオプションはサポートされますが、管理サーバーのセットアップに単一の障害点が生じる可能性があるため、お勧めできません。

▶ クラスタ ノードに OVO 管理サーバーをインストールする場合、そのクラスタの管理サーバーに接続する OVO コンソールは、クラスタ ノードを表す新しい管理ノードを認識しません。クラスタ ノードを認識させるには、コンソールを終了し、再起動する必要があります。

OVO 管理サーバーをインストールするには、インストールを行うユーザーにドメイン管理者権限が必要です。

▶ OVO では、管理サーバーまたはコンソールをドメイン コントローラにインストールすることはできません。サポートされないその他の設定については、33 ページの「[サポートされない設定](#)」を参照してください。

### インストールの前に

- 96 ページの「[サポートされない構成](#)」を参照し、すべてのシステム要件が満たされていることを確認してください。
- このマニュアルの 34 ページの「[セキュリティ要件](#)」を参照してください。

## ライセンス情報

OVO には、この製品をインストール後 60 日間使用できる 60 日間試用版ライセンスが付属しています。OVO コンソールを最初に起動する際に、標準版ライセンスのパスワードを請求するように促すメッセージが表示されます。標準版パスワードは、ここで取得することも、後から取得することもできます。61 日目に達すると、標準版ライセンスを取得するまでこの製品を使用できなくなります。82 ページの「[ライセンス情報の入力](#)」を参照してください。

## クラスタの要件

- 2 ノード以上のハードウェア クラスタと、それに接続された共有ストレージ、およびオペレーティング システムとして Windows 2003 Enterprise または Datacenter Edition が必要です。
- MS SQL Server 2000 (Enterprise Edition) SP3 またはそれ以上がインストールされ、OVOPS という名前のデータベース インスタンスが稼働している必要があります。混合モードの認証を許可するように設定します。
- OVO の専用リソース グループが必要です。リソース グループの名前には、ASCII 文字のみを使用できます。詳細については、リリース ノートのエントリ QXCR1000125936 を参照してください。
- クラスタとして、次のリソースを使用できる Microsoft Cluster Server (MSCS) が必要です。
  - 3 つ以上の専用の共有ディスク
    - クラスタ クォーラム
    - MS SQL Server データベース ストレージ
    - OVO データ ストレージ
  - ▶ クォーラム ディスクの代わりに Majority Node Set Quorum を使用する場合は、クラスタ クォーラムの使用は必須とはなりません。違いについては、Windows 2003 Server Enterprise Edition で MS Cluster のオンライン ヘルプ トピック「クラスタ モデルの選択」を参照してください。
  - 名前と逆ルックアップのエントリを含め、DNS (FQDN) に少なくとも 5 つの静的な専用 IP アドレスを設定する必要があります。
    - 各クラスタ ノードの定常名と IP アドレス (2 つ以上)
    - クラスタの仮想サーバー名と IP アドレス (1 つ)
    - MS SQL Server の仮想サーバー名と IP アドレス
    - OVO 仮想サーバー名と IP アドレス

## サポートされない構成

- 同じクラスタ リソースにインストールされた MS SQL Server と OVO 管理サーバーが、同じ共有ストレージを使用する。
- OVO 管理サーバーをクォーラム ディスクと同じクラスタ リソース グループにインストールする。
- クラスタが Windows 2000 Advanced または Datacenter サーバーを実行する。
- MSDE Microsoft SQL Server 2000 Desktop Engine をデータ リポジトリとして使用する。
- OVOPS 以外の名前のデータベース インスタンスを使用する。
- Microsoft Cluster Server 以外のクラスタ ソフトウェアを使用する。
- 既存の非クラスタ OVO インストールをクラスタ インストールに置換アップグレードする。
- 同一クラスタ内に複数の単一システム OVO をインストールする。
- 1 つの OVO 管理サーバーの複数のインスタンスを、負荷分散によってクラスタ内に作成する。
- OVO をインストールする前に、いずれかの OpenView 製品をクラスタにインストールする。



## OVO のインストール準備

管理サーバーに OVO をインストールする前に、MSCS がインストールされ、正常に機能し、すべての要件を満たしていることを確認してください。



Windows 2003 Cluster Server のインストールについては、  
**<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/windowsserver2003/technologies/clustering/confclus.msp>**

の「Guide to Creating and Configuring a Server Cluster under Windows Server 2003」(英語)を参照してください。

OVOPS という名前の MS SQL Server データベース インスタンスがセットアップされ、稼動していることを確認してください。



Windows 2003 ベースのクラスタに SQL Server 2000 仮想サーバーの名前付きインスタンスをインストールする方法については、**<http://support.microsoft.com/kb/815431/ja>** を参照してください。

次の説明のとおり to 操作します。

### タスク 1: クラスタの検証

- 1 クラスタが機能していることを検証します。クォーラム ディスクを含むクラスタ リソース グループを、設定されているすべてのクラスタ ノードに移動します。各クラスタ ノードが、MS SQL Server と OVO の指定共有ディスクを認識し、同じドライブ名が割り当てられていることを確認します ([マイコンピュータ] → [管理] → [ディスクの管理])。
- 2 MS SQL が 1 つの FQDN と IP アドレスを持ち (たとえば、`sqlserv.domain.com`)、OVO サーバーが 1 つの FQDN と IP アドレスを持つ (たとえば、`ovowserv.domain.com`) ことを確認します。両方の名前と IP アドレスの名前解決が可能であることを確認します。
  - ▶ Active Directory と DNS セットアップが統合された環境では、仮想サーバーがアクティブになるまで、仮想サーバー名と IP アドレスは解決されません。

## タスク 2: クラスタ リソースの作成と共有ディスクの割り当て

- 1 MS SQL Server データベース ストレージ用の共有ディスクを含むクラスタ リソース グループを指定します。これらのグループは、通常は検出されるすべての共有ディスクについて、MS Cluster ウィザードによって作成されます。この方法で作成しない場合は、MS クラスタ アドミニストレータを使用して手動で作成する必要があります。グループ名を設定します。たとえば「SQL Group」にします。
  - 2 OVO データ ストレージ用のクラスタ リソース グループと共有ディスクを指定します。このグループの名前は、たとえば「OVOW Group」にします。
- ▶ OVO を最初のクラスタにインストールした後は、クラスタ リソース グループの名前を変更しないでください。
- 3 すべてのグループを、すべての指定クラスタ ノードに移動でき、共有ディスクにアクセス可能 (読み込み、および書き込み) であることを確認します。

## タスク 3: MS SQL Server 2000 Enterprise Edition のインストール

Windows 2003 に MS SQL 2000 をインストールするには、別名を作成する必要があります。たとえば、SQL 仮想サーバーの FQDN が sqlserv.domain.com であれば、SQLSERV\OVOPS という別名を作成します。インストールを開始する前に、次の手順を実行します。

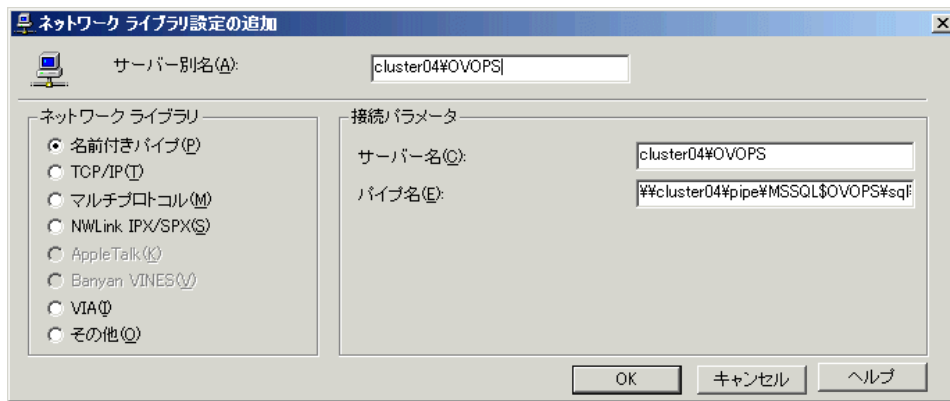
▶ 次の説明は、「Windows Server 2003 ベースのクラスタに SQL Server 2000 仮想サーバーの名前付きインスタンスをインストールすると失敗する」という Microsoft のサポート技術情報から転載したものです。

<http://support.microsoft.com/kb/815431/ja>

HP による補足説明は、括弧で囲まれています。

- 1 セットアップを実行するノードから、クライアント接続用にサーバーの別名を作成します。
  - a セットアップを実行するクラスタ ノード 上で **Cliconfg.exe** を実行します。
    - Cliconfg.exe がコンピュータにインストールされていない場合は、MS SQL Server 2000 インストール ファイルから **Sqlredis.exe** を実行して、このファイルをインストールできます。インストールするには、コマンド プロンプトに次のように入力します。  
**\\x86\Other\sqlredis.exe /q:a /C:"setupre.exe WARN=1 -s -SMS**
    - Cliconfg.exe をすぐに利用できなかった場合、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。
  - b **[SQL クライアント 設定ユーティリティ]** ダイアログ ボックスで、**[別名]** タブをクリックします。

- c [追加] をクリックして、[ネットワーク ライブラリ設定の追加] ダイアログ ボックスを開きます。



- d [名前付きパイプ] ボックスにチェックマークを付けます。
- e [サーバー別名] ボックスに別名を入力します。別名の形式は、`<(MSSQL) VIRTUALSERVERNAME>\<(MSSQL) INSTANCENAME>` です。たとえば、`SQLSERV\OVOPS` と入力します。
- f [サーバー名] ボックスに (MSSQL) 仮想サーバーのインスタンス名を入力します。たとえば、`SQLSERV\OVOPS` と入力します。
- g [パイプ名] ボックスの名前を確認します。デフォルトでは、[パイプ名] ボックスの値は次のとおりです。  
`\\<(MSSQL) VIRTUALSERVERNAME>\pipe\<MSSQL$instance>\sql\query`

## 2 MS SQL Server 2000 セットアップを実行します。



MS SQL Server のインストール時に、次の操作を行います。

- **OVOPS という名前のインスタンス**を作成する必要があります。
- **混合モードの認証**を選択する必要があります。
- システム管理者 (sa) ユーザーのパスワードを割り当てます。このパスワードは、後で OVO のインストールでも使用するのので、忘れないようにしてください。

## 3 (MSSQL) 仮想サーバー名には、手順 e および f で使用したのと同じ仮想サーバー名 (たとえば、SQLSERV\ ) とインスタンス名 (たとえば、SQLSERV\OVOPS) を使用します。

- 4 MS SQL Server 2000 SP3 またはそれ以上のセットアップを実行します。
- 5 ステップ 1 で作成した名前付きパイプの別名を削除します。

#### タスク 4: SQL インスタンス OVOPS の設定

この手順は、クラスタ化されていないリモート MS SQL Server インストールを使用する OVO のインストールの手順と同じです。OVO スタートアップ CD の **[Remote DB Creation]** フォルダ ( リモート データベースのセットアップ ) を開き、Setup.exe を実行します。51 ページの「**OVO リモート データベース設定 ツール**」を参照してください。

MSSQL 仮想サーバーに接続し、前のタスクで指定したシステム管理者 (sa) パスワードを入力します。

## OVO のインストール

可用性の高い OVO インストールが機能するには、OVO の実行が指定されたすべてのクラスタ ノードに OVO をインストールする必要があります。最初のクラスタ ノードへのインストールは、それ以降のノードへのインストールとは異なります。



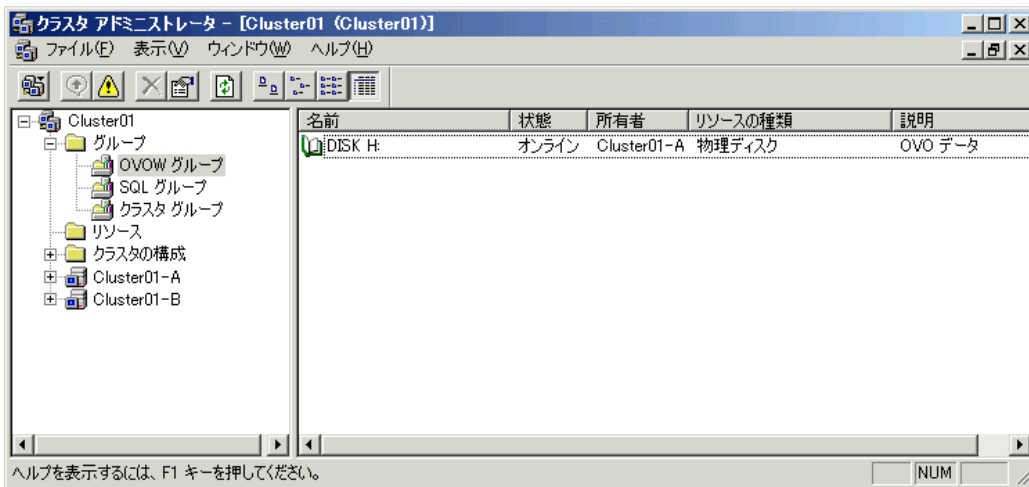
同一クラスタ内の別のノードで、並行して OVO のインストールを開始しないでください。最初のノードへのインストールが正常に完了してから、次のノードでのインストールを開始します。すべての指定ノードでインストールが完了するまで、これを繰り返します。

インストール メディアに含まれるその他の製品 (SPI やアドオンなど ) をインストールすることもできます。ただし、SPI やアドオンをインストールするには、OVO を最初にインストールするか、OVO がすでにインストールされている必要があります。

### 最初のクラスタ ノードへの OVO のインストール

- 1 クラスタ ノードを選択し、そのシステムを、最初にインストールするクラスタ ノードとして指定します。アンインストール時に、このノードのアンインストールを最後に行う必要があるため、このノードを忘れないようにしてください。

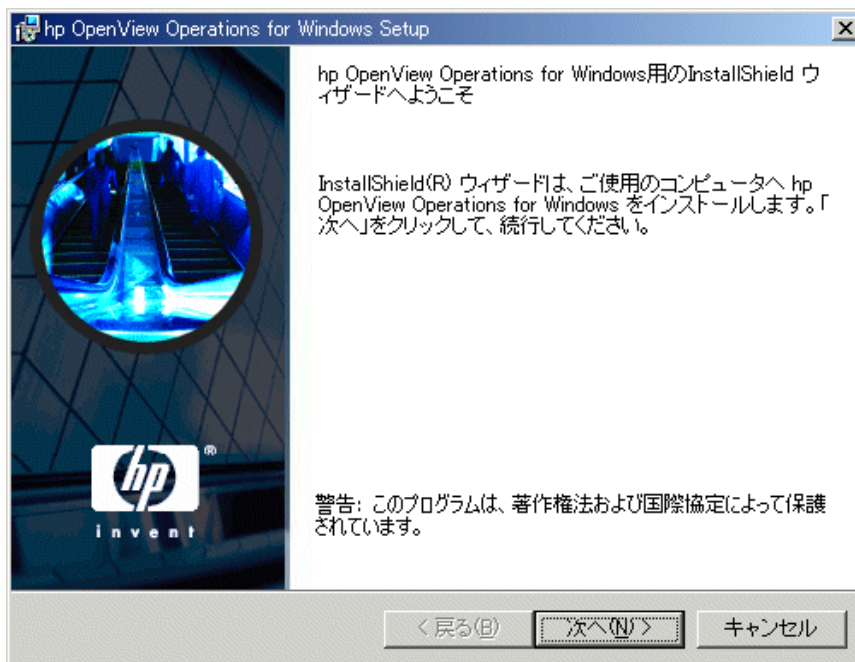
- 2 OVO 管理サーバー用に指定された共有ディスクが使用可能であり、現在のシステムにアクセス可能であることを確認します。アクセスできない場合は、**Microsoft [ クラスタ アドミニストレータ ]** を使用して、グループを現在のノードに移動します。



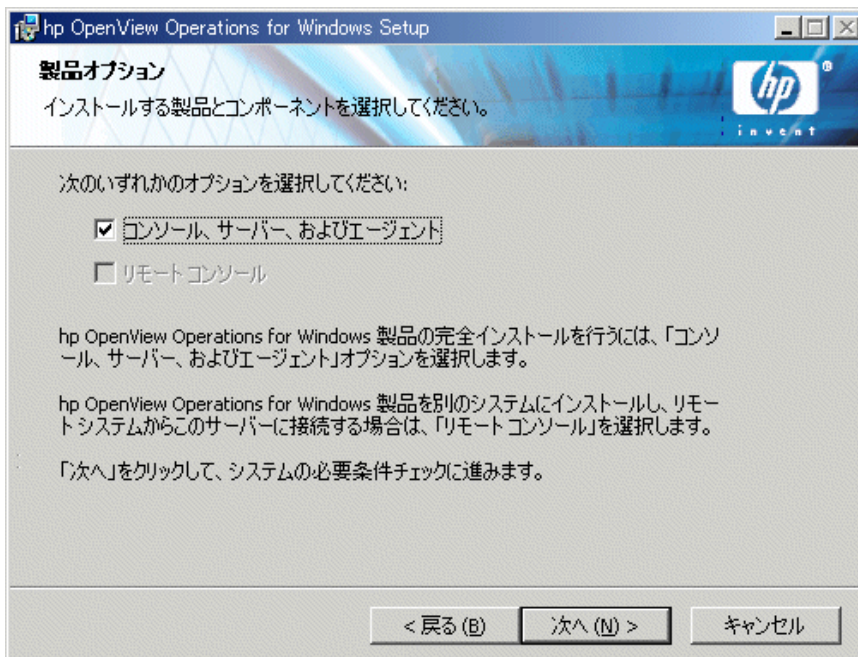
この図は、OVO のインストール前の OVO クラスタ リソース グループを示しています。共有ディスクはオンラインで、インストールを行う最初のノードとして指定されたノードによって所有されています。

- 3 システムの CD ドライブに OV Operations 7.5 for Windows ディスクを挿入します。[ようこそ] 画面の [次へ] をクリックして、[機能の選択] 画面に移動します。

- ▶ Autorun が有効な場合、インストールが自動的に開始されます。
- ▶ Autorun が無効な場合は、インストール メディアのルートから **autorun.vbs** を実行します。

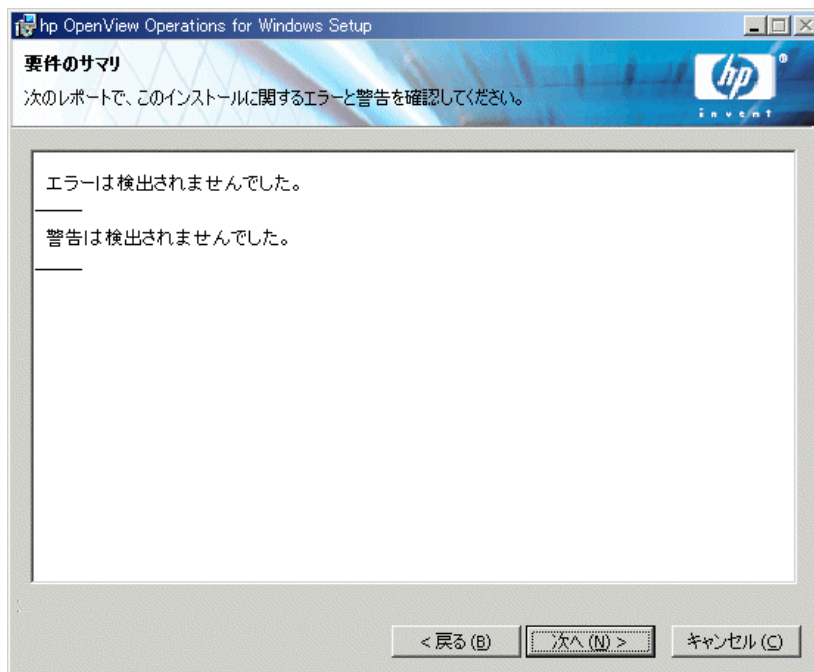


- 4 **【製品オプション】**画面では、**【コンソール、サーバー、およびエージェント】**のインストールを選択します。**【次へ】**をクリックして、**【要件のサマリ】**画面に移動します。プライマリ DNS サフィックスを設定していない場合、警告メッセージが表示されます。



- 5 **【要件のサマリ】** 画面には、インストール対象として選択した製品について実行された要件チェックの結果が表示されます。インストールを続ける前に、すべてのエラーを解決する必要があります。

OVO の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告については、付録 B、「システム要件のチェック」を参照してください。



- 6 **【次へ】** をクリックして、**【インストールの種類】** ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログでは、単一システムへのインストールとクラスタ環境へのインストールを選択できます。可用性の高い OVO のインストールでは、**【クラスタ】** を選択します。**【次へ】** をクリックして、**【仮想サーバー情報を入力します】** ダイアログ ボックスを表示します。

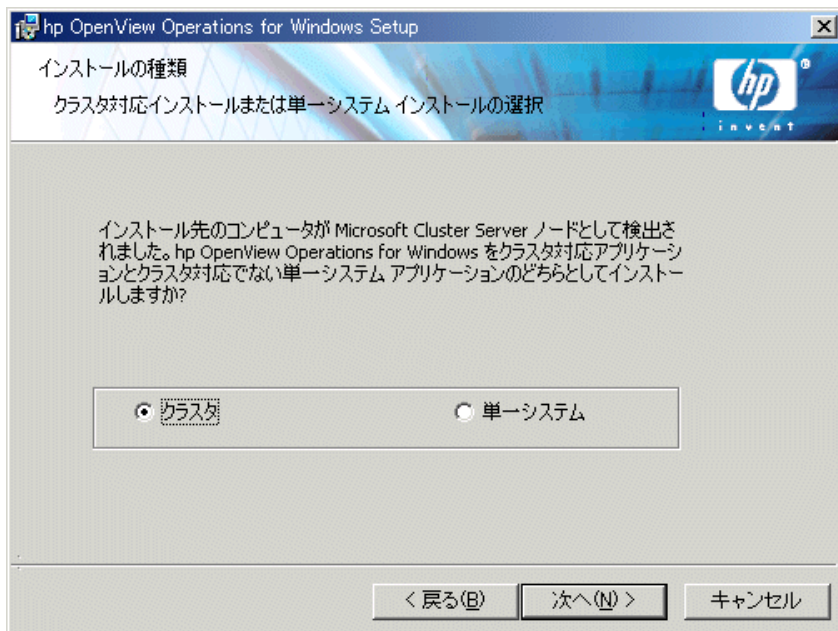


クラスタに単一システムとしてインストールすることもできますが、これはお勧めできません。このようなインストールでは、OVO の可用性は、クラスタ化されていない環境の単一システム インストールと変わりません。

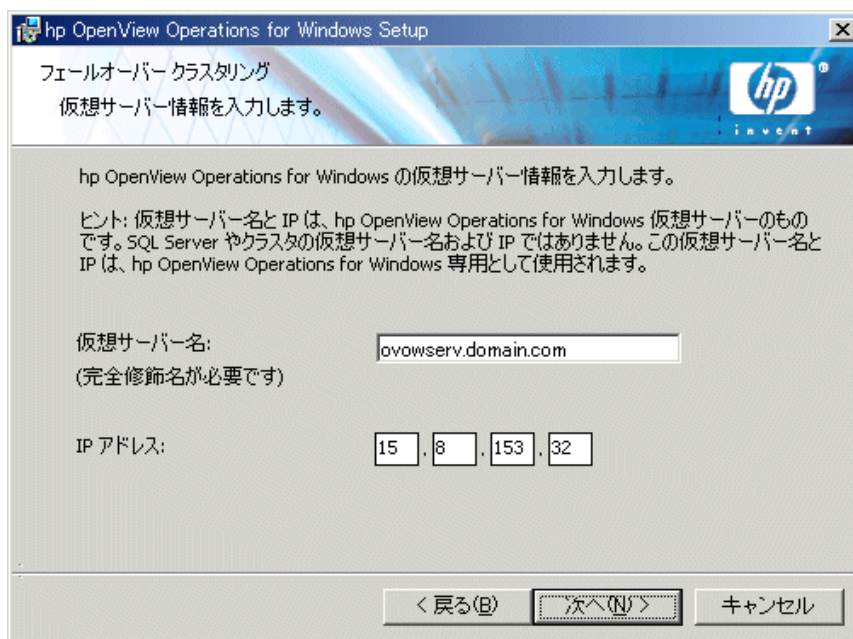




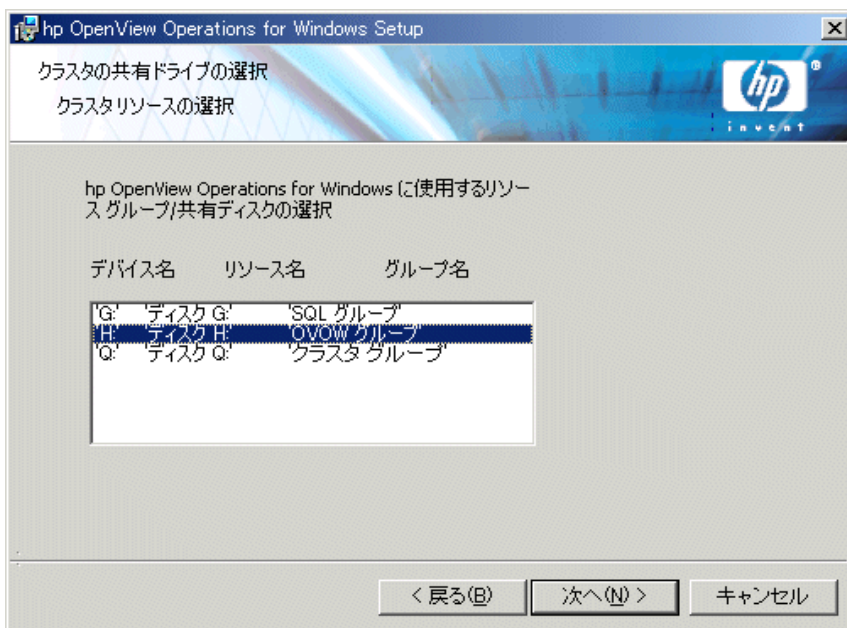
この時点で、すべてのファイアウォールを無効にします。稼動しているファイアウォールがあれば、インストール中は一時的に無効にしてください。ファイアウォールが有効な場合、インストールする Java パッケージは失敗します。



- 7 [ 仮想サーバー情報を入力します ] 画面に、OVO 仮想サーバー名と OVO 仮想 IP アドレスを入力します。
- OVO 仮想サーバー名は、完全修飾ドメイン名 (FQDN) として入力する必要があります。
  - OVO 仮想 IP アドレスは、クラスタが使用するネットワークと同じネットワークのものである必要があります。ただし、現在使用している IP を指定することはできません。
  - インストールプログラムによって IP が調べられ、IP が同じネットワークからのものでない場合は、エラー メッセージが表示されます。インストールプログラムは、この情報に基づいて、クラスタ リソースを作成します。OVO 仮想サーバー名と OVO 仮想 IP アドレスがクラスタ リソースにすでに設定されている場合、これは失敗します。この場合は、別の OVO 仮想サーバー名と OVO 仮想 IP アドレスの入力が求められます。

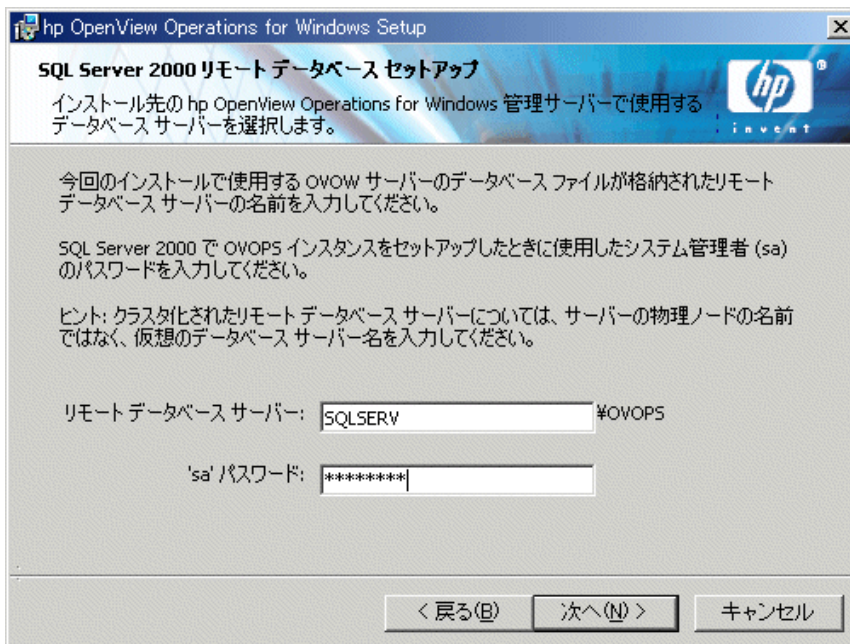


- 8 [次へ] をクリックして、[クラスタの共有ドライブの選択] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログでは、OVO 共有データ ファイルをホスティングする共有ディスクとクラスタ リソース グループを選択できます。

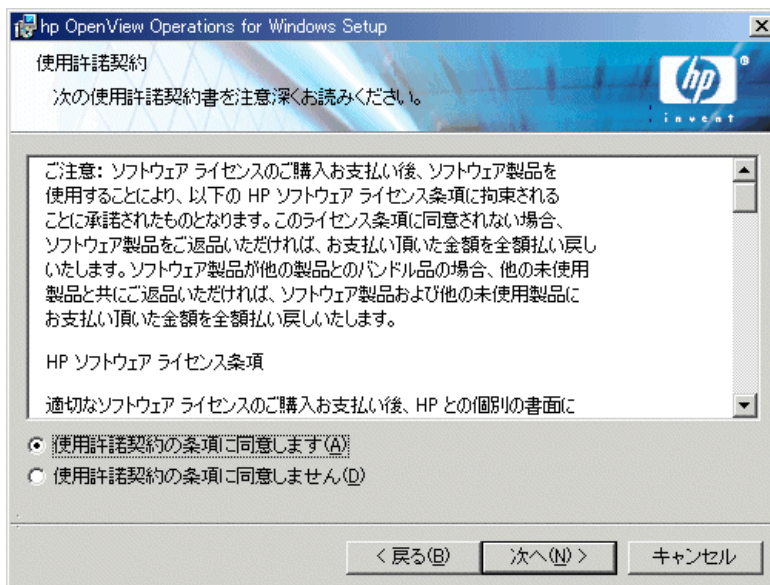


- すでに別のアプリケーション (たとえば、MS SQL Server やクラスタ クォーラム) によって使用されているクラスタ リソース グループまたはリソース グループの選択はサポートされません。
- ASCII 文字以外の文字を含むリソース グループの選択はサポートされません。詳細については、リリース ノートのエントリ QXCR1000125936 を参照してください。

- 9 [次へ] をクリックして、[SQL Server 2000 リモート データベース セットアップ] ダイアログを開きます。MS SQL 仮想サーバーの名前を入力します。たとえば、**SQLSERV** のように、MS SQL Server の短い名前を入力します。SQLSERV\OVOPS や sqlserv.domain.com のような名前を入力しないでください。また、システム管理者 (sa) パスワードも入力します。



- 10 [次へ] をクリックして、[使用許諾契約] 画面を開きます。使用許諾契約書の内容に同意し、[次へ] をクリックしてインストールを続けます。同意を拒否した場合、インストールはキャンセルされます。



標準版ライセンスの取得については、82 ページの「ライセンス情報の入力」を参照してください。

- 11 [インストール先のフォルダ] 画面では、デフォルトのインストール先ディレクトリを使用するか、別のディレクトリを指定して OVO をインストールするかを選択できます。ここで選択したインストール先ディレクトリは、この CD からインストールする他の OpenView 製品のデフォルト ディレクトリとして使用され、以後のインストールではこのディレクトリを変更できません。最初にインストールする OpenView アプリケーションが、OVO と、Reporter、OVPA などのその他の OpenView 製品のインストール ディレクトリを決定します。

- デフォルトのインストール先ディレクトリは次のとおりです。  
C:\Program Files\HP OpenView\
- デフォルトのデータ ディレクトリは次のとおりです。  
C:\Program Files\HP OpenView\Data\

- デフォルトの共有ディレクトリは次のとおりです。

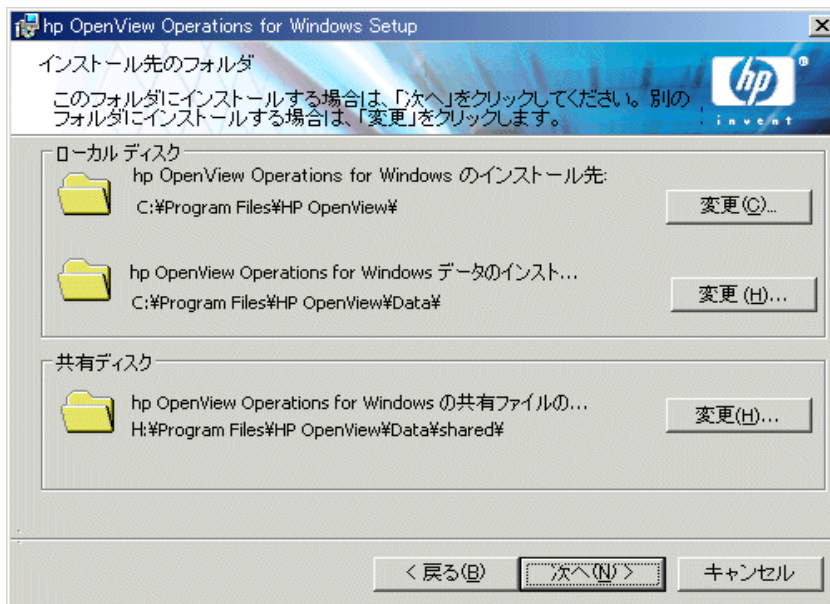
<shared drive>\Program Files\HP OpenView\Data\shared\  
この <shared drive> は、**[クラスタの共有ドライブの選択]** ダイアログで割り当てた論理ドライブです。

デフォルト以外のディレクトリにインストールする場合は、適切な **[変更]** ボタンをクリックして、**[現在のインストール先フォルダの変更]** ダイアログボックスを表示します。

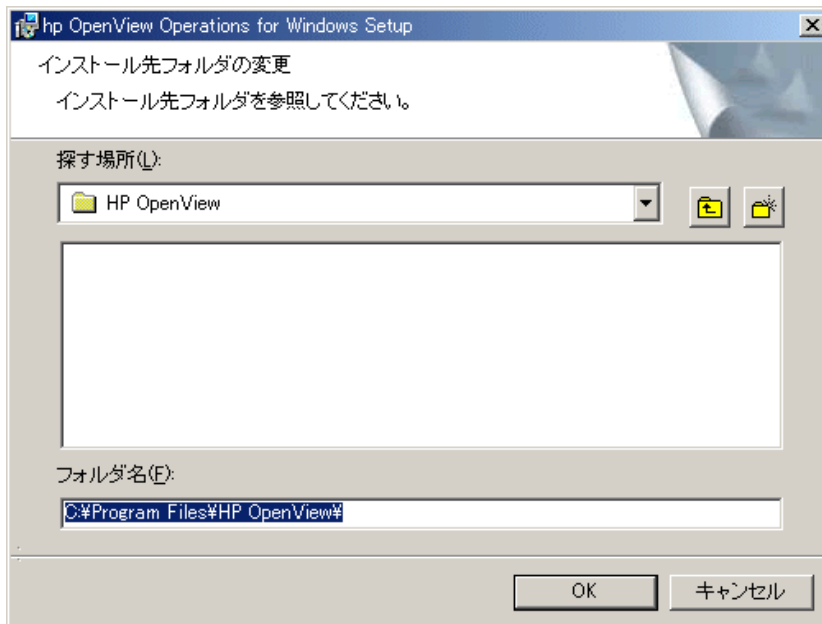
- ▶ インストールディレクトリとデータディレクトリは、どちらもクラスタ共有ディスクをポイントできません。

- ▶ 共有ディレクトリのドライブを変更するには、[107 ページ](#)のステップ 8 に戻る必要があります。

デフォルトのインストール先ディレクトリにインストールする場合は、**[次へ]** をクリックします。



**[インストール先フォルダの変更]**画面は、OVの最初のインストール(または、最初の OpenView 製品のインストール)でのみ表示されます。ディスク容量が不足している場合は、[OK]をクリックしたときにメッセージが表示されます。表示されたメッセージボックスを閉じるとインストールメニューに戻ります。

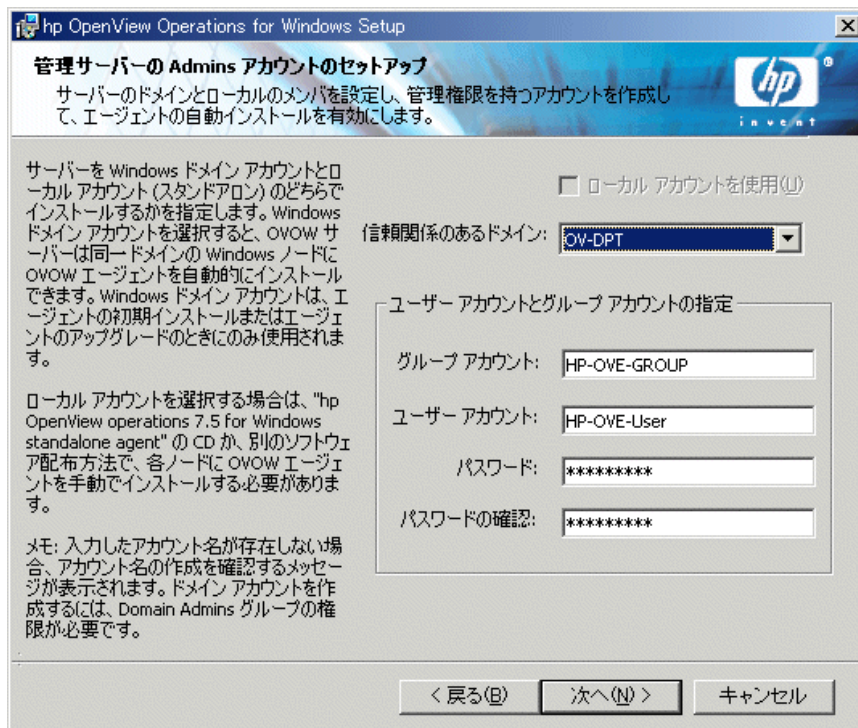


共有ディレクトリのドライブを変更するには、107 ページのステップ 8 に戻る必要があります。

**12 [管理サーバーの Admins アカウントのセットアップ]** ダイアログボックスで、OVO 管理サーバーの一部の実行に使用するドメイン アカウント名とパスワードを指定します。



インストールの際に入力した HP-OVE-GROUP 名は、製品を完全にアンインストールしてから再インストールしない限り変更できません。アカウント名を指定する前に、オンラインヘルプのセキュリティに関するトピックと、34 ページの「**セキュリティ要件**」を参照してください。

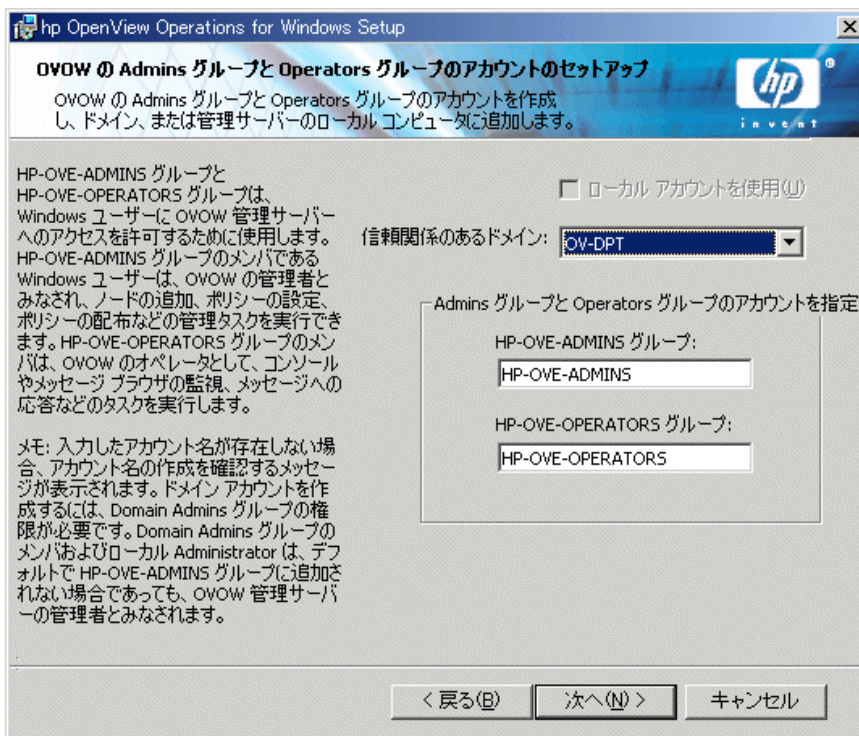


OVO のクラスタ インストールでは、HP-OVE-User と HP-OVE-GROUP だけでなく、HP-OVE-ADMINS および HP-OVE-OPERATORS アカウントもドメイン アカウントにする必要があります。

[OK] をクリックしてアップグレードを続けます。

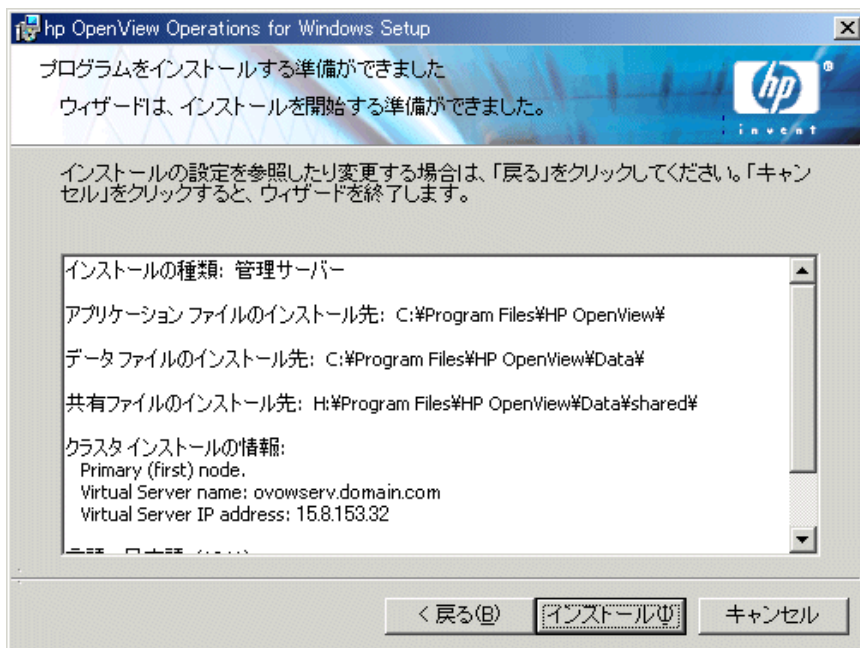


- 13 [OVOW の Admins グループと Operators グループのアカウントのセットアップ] ダイアログでは、OVO オペレータと管理者を識別するためのドメイン ユーザー グループを指定します。

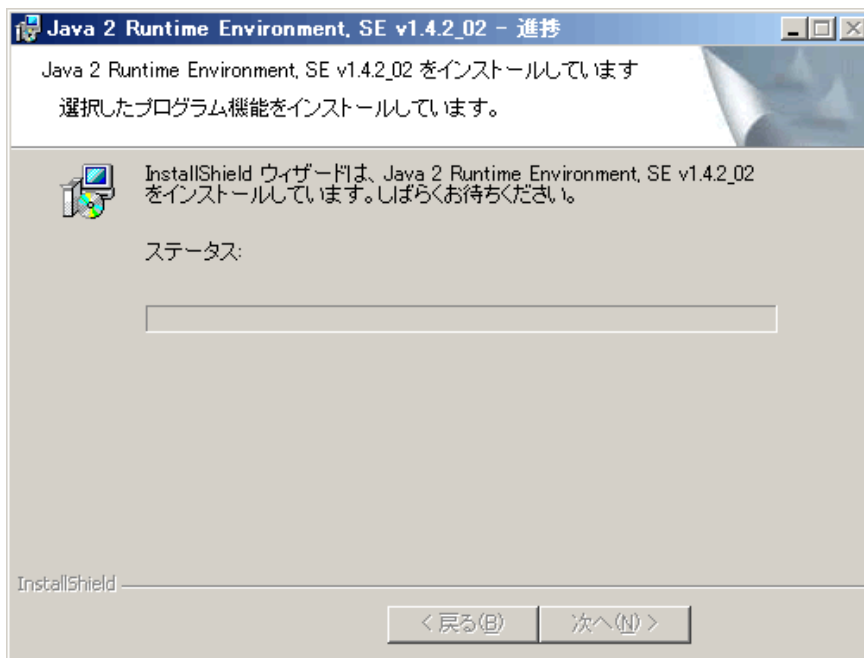


[次へ] をクリックして、[プログラムをインストールする準備ができました] 画面に進みます。

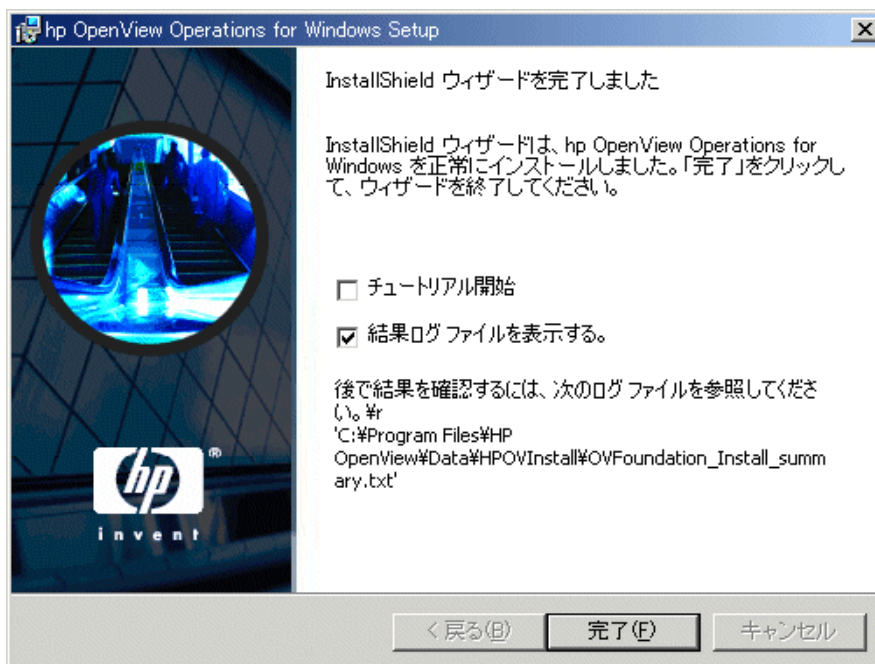
- 14 これまでのダイアログで設定したインストール情報を確認し、**[インストール]** をクリックします。インストールが開始されます。



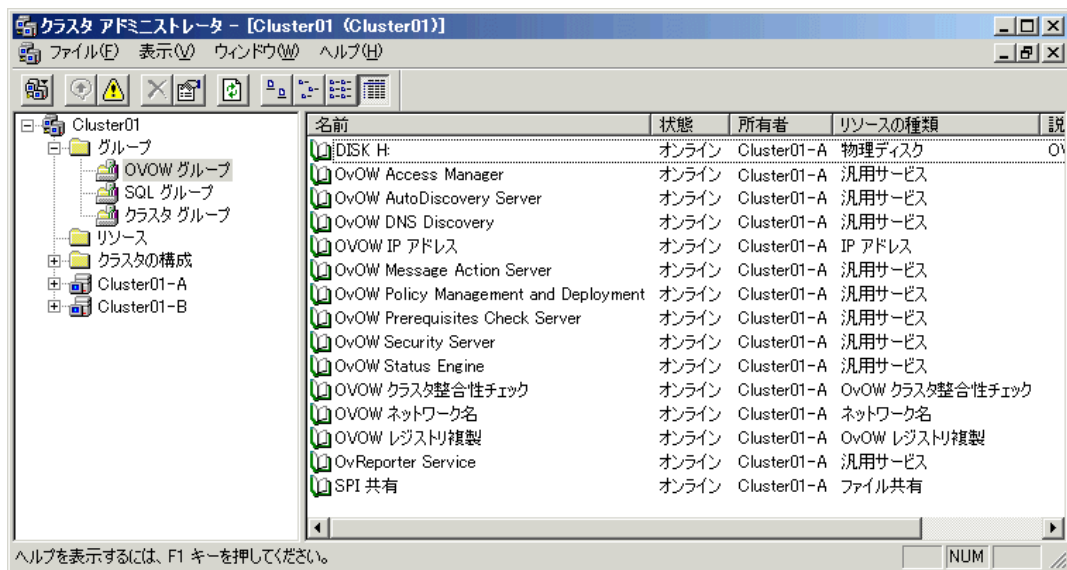
- 15 インストール処理が進むと、次の例のようなさまざまなステータスダイアログが表示されます。各インストールコンポーネントがそれぞれのステータスダイアログを表示します。たとえば、ライセンスコンポーネント、レポートコンポーネント、グラフ作成コンポーネント、3つの SPI が製品に含まれます。システムの処理速度とインストールの際に選択されたコンポーネントによっては、この処理に数分から 1 時間以上かかる場合があります。



- 16 完了画面が表示されると、インストールは終了です。**[完了]**をクリックしてインストールを終了します。





- 17 最初のノードへの OVO のインストールが完了すると、選択した OVO クラスター リソース グループにいくつかの新しいクラスター リソースが追加されます。





- 18 インストールプログラムの終了時に、基本トレーニング チュートリアルを参照するように求められます。インストール完了ダイアログの **[チュートリアル開始]** ボックスにチェックマークを付けるだけで、チュートリアルを表示できます。このチュートリアルは、OVO の機能および製品概要を紹介し、OVO の操作を始める前に行う必要がある設定および配布の手順を詳細に説明します。

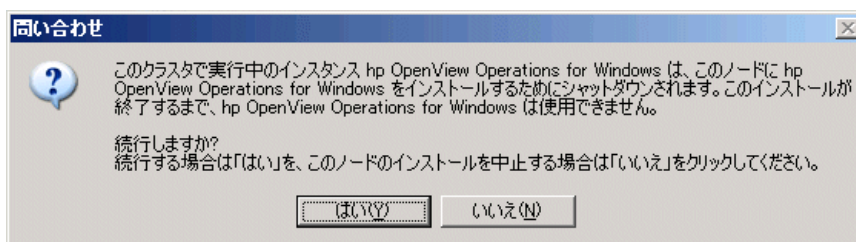
## 残りのクラスタ ノードへの OVO のインストール

 複数のノードで同時に OVO のインストールを行わないでください。OVO のインストールが完了してから、次のノードへのインストールを開始します。

 残りのノードへのインストールが完了するまで、管理者とオペレータは OVO 管理サーバーの機能を使用できません。インストール中に管理サーバーをオンラインにしようとしたり、OVO が使用するクラスタ リソース グループを移動したりしないでください。

 残りのクラスタ ノードに OVO をインストールするには、最初にインストールしたクラスタ ノードが稼働し、残りのノードからアクセス可能になっている必要があります。

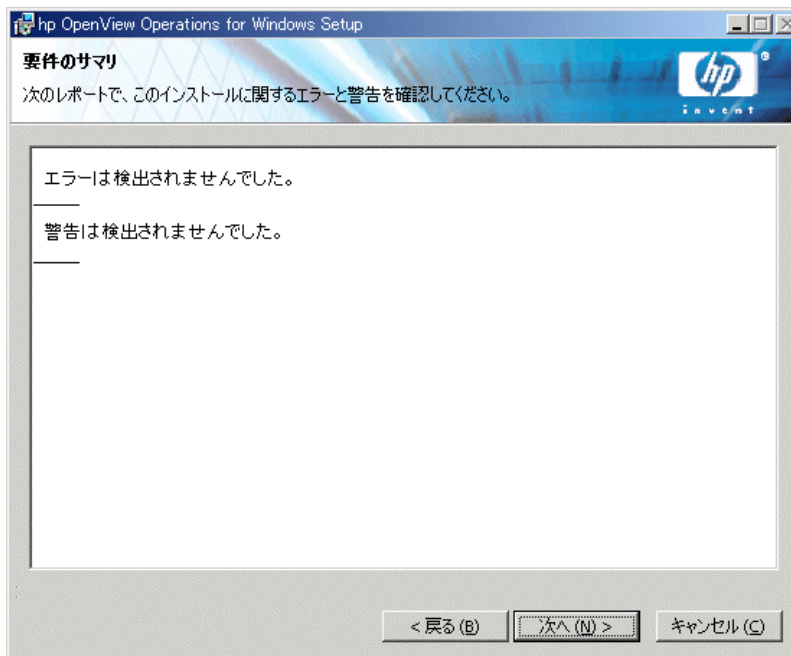
- 
- Autorun が有効な場合、インストールが自動的に開始されます。
  - Autorun が無効な場合は、インストール メディアのルートから **autorun.vbs** を実行します。
- 1 システムの CD ドライブに OV Operations 7.5 for Windows ディスクを挿入します。次の質問が表示されます。残りのノードに OVO をインストールするには、**[はい]** をクリックする必要があります。



**[はい]** をクリックすると、インストールプログラムは、このクラスタのアクティブ ノードで稼働する OVO を停止し、リソースをインストール対象ノードに移動します。これにより、同じ設定を繰り返さずにインストール処理を継続できるように、インストーラに十分な情報が供給されます。

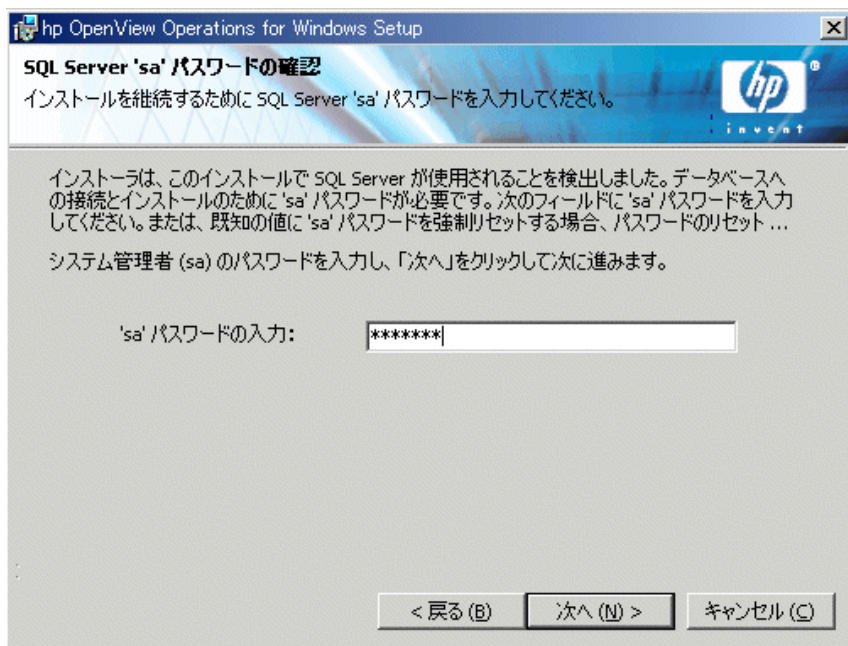
- 2 OVO が現在のノードに移動されると、HP OpenView Operations の **[ようこそ]** 画面が表示されます。[ようこそ]画面の **[次へ]** をクリックすると、システム要件のチェックが行われます。
- 3 **[要件のサマリ]** 画面には、インストール対象として選択した製品について実行された要件チェックの結果が表示されます。インストールを続ける前に、すべてのエラーを解決する必要があります。

OVO の正しいインストールの妨げとなるエラーと警告については、[付録 B](#)、「システム要件のチェック」を参照してください。



**[次へ]** をクリックして、**[SQL Server 'sa' パスワードの確認]** ダイアログボックスを開きます。

- 4 **[SQL Server 'sa' パスワードの確認]** ダイアログには、最初のクラスタ ノードへのインストールで使用した、MS SQL Server インスタンスのシステム管理者 (sa) パスワードを指定する必要があります。



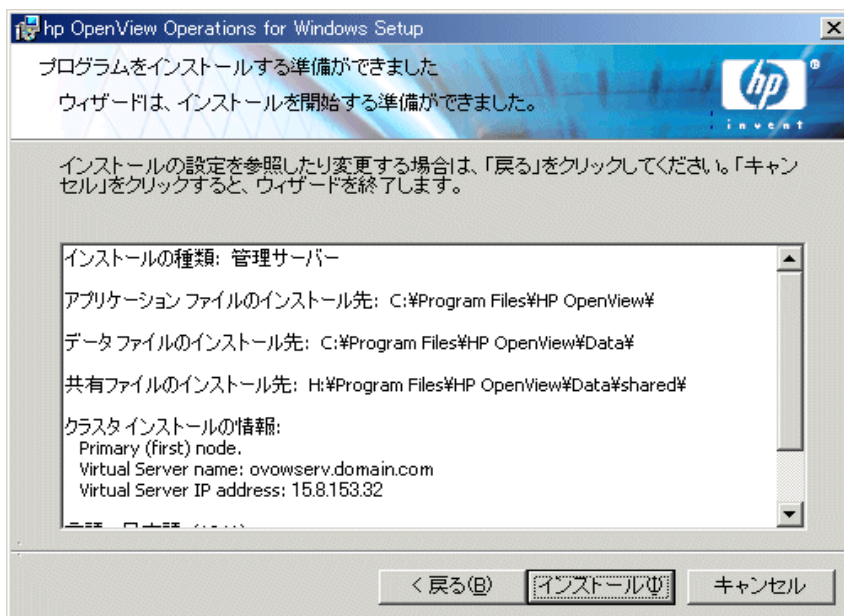
- 5 **[次へ]** をクリックして、**[使用許諾契約]** 画面を開きます。使用許諾契約書の内容に同意します。同意を拒否した場合、インストールはキャンセルされます。

標準版ライセンスの取得については、82 ページの「[ライセンス情報の入力](#)」を参照してください。クラスタに OVO をインストールする場合、必要なライセンスは 1 つだけです。標準版ライセンスをすでに取得し、インストールしている場合は、これを繰り返す必要はありません。

**[次へ]** をクリックして、**[プログラムをインストールする準備ができました]** 画面に進みます。



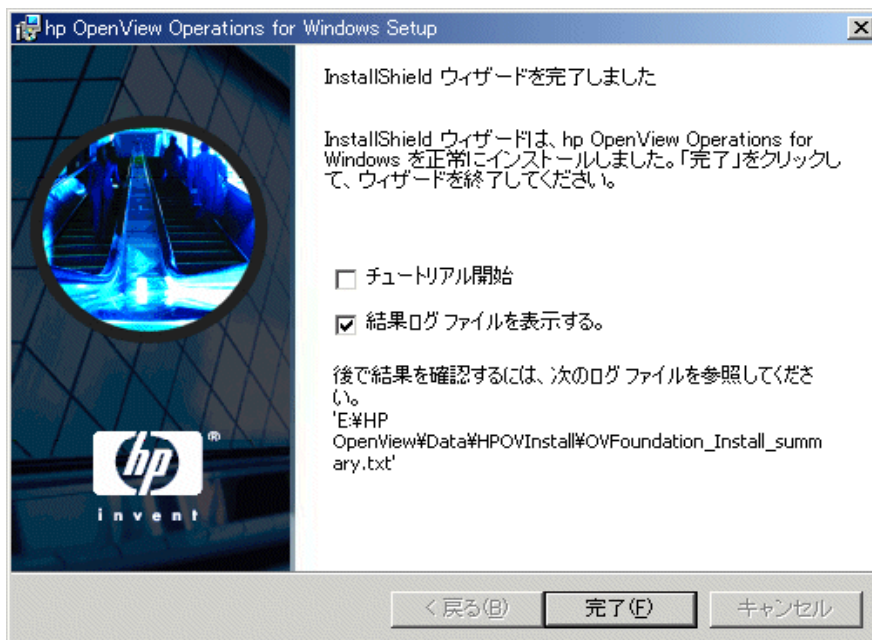
- 6 これまでのダイアログで設定したインストール情報を確認し、**[インストール]**をクリックします。インストールが開始されます。



- 7 インストールプログラムの実行中に、さまざまなステータス ダイアログが表示されます。各インストール コンポーネントがそれぞれのステータス ダイアログを表示します。たとえば、ライセンス コンポーネント、レポート コンポーネント、グラフ作成コンポーネント、3 つの SPI が製品に含まれます。

システムの処理速度とインストールの際に選択されたコンポーネントによっては、この処理に数分から 1 時間以上かかる場合があります。

- 完了画面が表示されると、インストールは終了です。**[完了]**をクリックしてインストールを終了します。



- インストールが完了すると、そのノードで OVOW リソース グループがアクティブになります。このノードが、OVO をインストールする最後のクラスタノードである場合は、OVO 仮想サーバーを任意のクラスタ ノードに移動できます。

## インストールの結果

OVO のインストールが完了すると、次のアクセスが可能となります。

- [スタート]メニューにコンソールを開くためのフォルダが追加されます。  
[スタート] → [プログラム] → [HP OpenView] → [コンソール]
- 1 枚目のインストール CD の \Documentation\OVO Guides ディレクトリに格納されている OVO のドキュメント (Adobe Acrobat .PDF 形式) が、サブディレクトリ %OvInstallDir%\NLS\1033\Manuals にも格納されます。利用できるすべてのドキュメントのリストについては、[付録 A](#)、「ドキュメント」を参照してください。

## インストール ログ ファイル

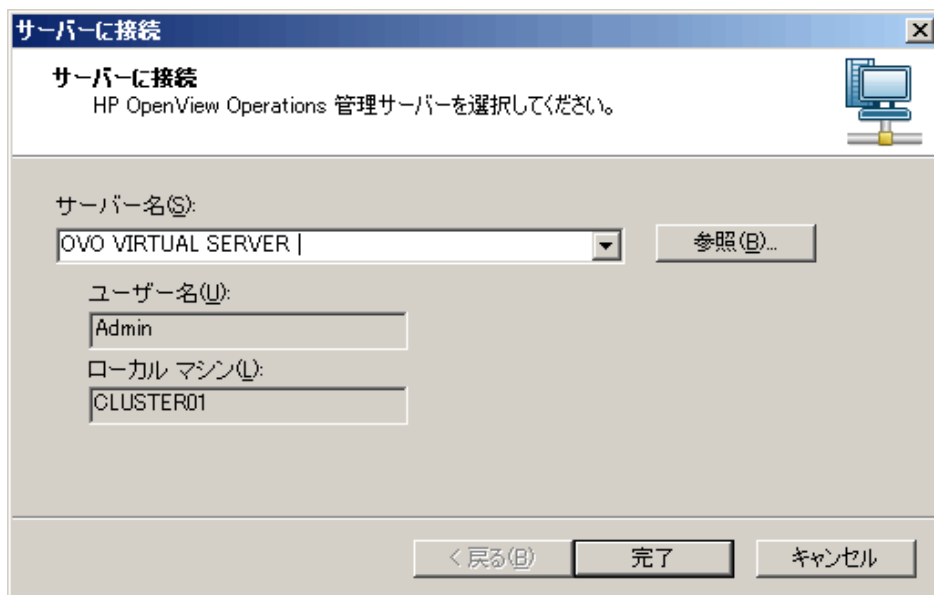
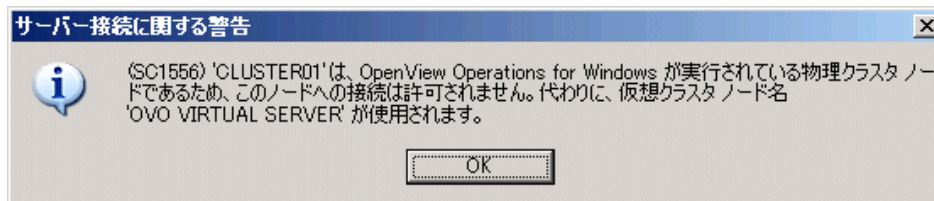
インストール後、いくつかのログ ファイルが作成され、データ ファイル用の Data ディレクトリのサブディレクトリ **log** に格納されます。

%OvDataDir%\HPOVInstall

## OVO クラスタ インストールの検証

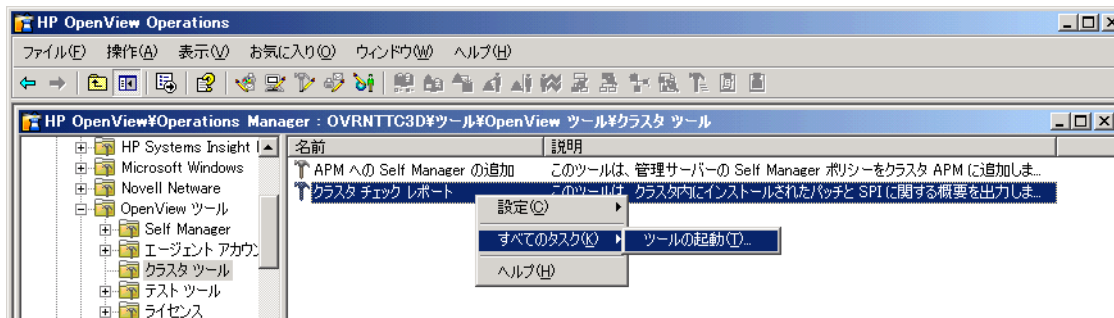
クラスタ化された OVO が正しくインストールされていることを検証する手順は、次のとおりです。

- 1 いずれかの管理サーバーで OVO コンソールを開きます。次のような警告が表示されます。**[OK]** をクリックします。

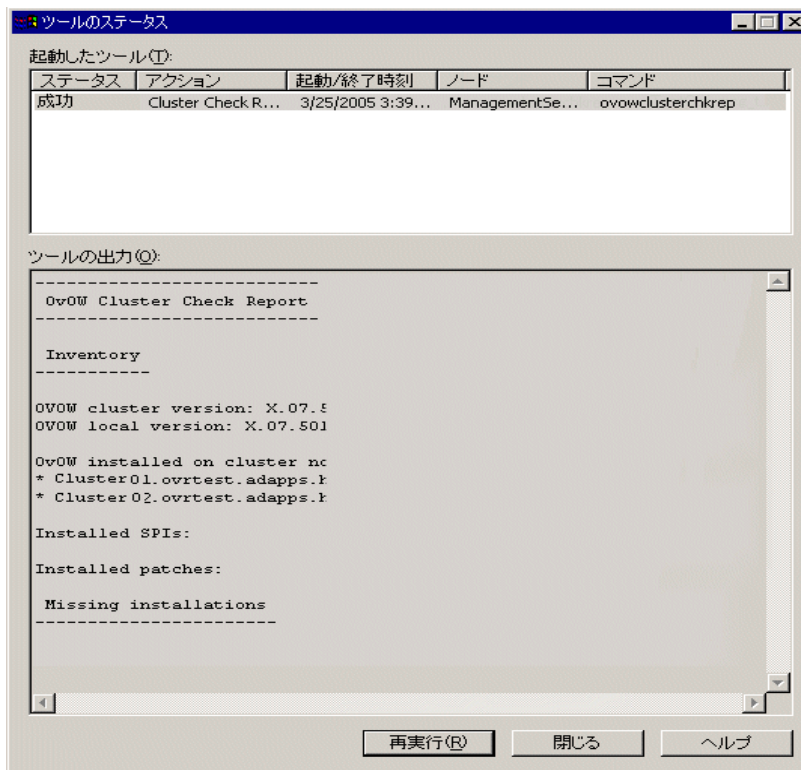


- 2 **[完了]** をクリックすると、OVO サーバーに割り当てられている仮想ノードに接続します。

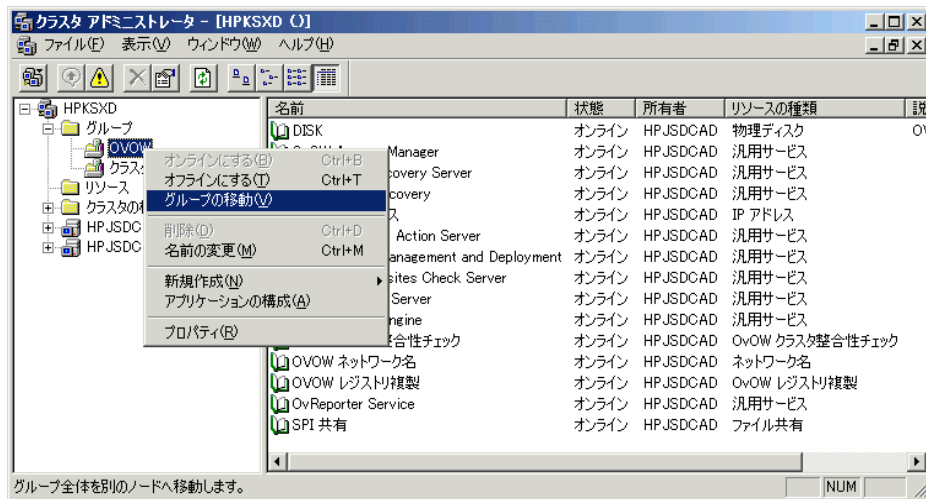
- 3 OVO コンソールから [クラスタ チェック レポート] ツールを実行します。



- 4 実行後、ツールのステータスは [成功] となり、OVO に関連するクラスタの情報が次のように [ツールの出力] として表示されます。



- 5 Microsoft [ クラスタ アドミニストレータ ] を開き、OVO リソース グループを別のノードに切り替えます。



## SPI またはアドオン製品のインストール

OVO の実行が指定されているすべてのノードへの OVO とコア SPI のインストールが完了すると、SPI またはアドオン製品をインストールできるようになります。SPI またはアドオン製品をインストールした後も OVO のインストールを機能させるには、SPI またはアドオン製品をすべてのノードにインストールする必要があります。OVO は、起動のたびにインストールの整合性を調べ、不整合が見つかった場合は起動されません。SPI またはアドオン製品が不足している場合は、Windows のイベント ログにエントリが記録されます。[ ツール ] → [ OpenView ツール ] → [ クラスタ ツール ] から実行できるクラスタ チェック レポート ツールも、同様のレポートを生成します。

SPI とアドオン製品のインストールについては、各製品のインストール ガイドを参照してください。アドオン製品のインストール ガイドに特に明記されていない限り、常に OVOW リソース グループにインストールします。

# OVO のアンインストールと再インストール

この章で説明する内容は次のとおりです。

- Windows 管理ノードからのポリシーとパッケージのアンインストール
- スタンドアロン インストールとクラスタ化されたノードからの OVO のアンインストール
- リモート データベースの削除
- OVO の再インストール

## Windows 管理ノードからのポリシーとパッケージのアンインストール

Microsoft Windows 管理ノードからポリシーとパッケージを完全にアンインストールする手順は、次のとおりです。この作業は、ノードの管理を中止する場合、または OVO およびすべての関連製品を完全に削除する準備を行う場合に行います。



OVO のバージョンをアップグレードする場合は、管理ノードからポリシーとパッケージを削除しないでください。

- 1 OVO コンソールを開きます。
- 2 [ ノード ] ビューを開いて、すべてのパッケージとポリシーを削除する管理ノードを選択します。ノードを右クリックし、[ **すべてのタスク** ] → [ **すべてアンインストール** ] を選択します。
- 3 必要に応じて、他の管理ノードでもこの操作を繰り返します。



手動でインストールした Windows 管理ノードをアンインストールするには、ノードに直接アクセスし、[ アプリケーションの追加と削除 ] 機能を使用して OVO エージェントを削除する必要があります。

OVOW 7.5 では、どのエージェントが手動でインストールされ、どのエージェントが自動的にインストールされたかをサーバーが認識しています。手動でインストールしたエージェントをアンインストール (またはアップグレード) しようとすると、メッセージが表示されます。



アンインストール後、いくつかのディレクトリや共有レジストリ キーが残ります。それらを必要とする OpenView 製品がなければ、手動で削除できます。

## OVO のアンインストール

次に示す OVO のアンインストール手順は、クラスタ化されていない環境と、クラスタ化されている環境の両方に適用されます。

### アンインストールの前提条件

OVO のインストール後にインストールしたすべての SPI とアドオン製品は、OVO のアンインストール前にアンインストールする必要があります。

- 1 すべての SPI を削除します。アンインストール方法については、SPI の CD に収録されている OVO のインストールおよびアップグレード ガイドを参照してください。
- 2 その他すべてのアドオン製品を削除します。アンインストール方法については、それぞれのドキュメントを参照してください。

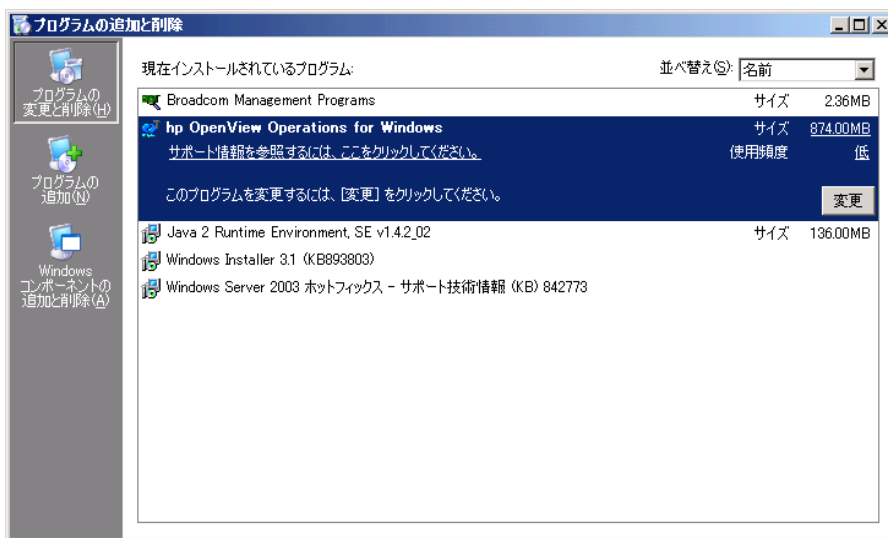


- NNM アダプタおよびアドオン製品の削除には、[ **アプリケーションの追加と削除** ] を使用します。
  - 他の製品 (OVPM、OV Reporter、OVIS など) が同じサーバーにインストールされている場合、OVO for Windows と共通のコンポーネントが共有されています。これらの共有コンポーネントは、その他の OV 製品によって使用されない場合にのみ削除されます。
- 3 UNIX 管理ノードのエージェントを削除します。OVO のオンライン ヘルプで「環境の管理」→「ポリシーの管理と配布」→「配布関連のタスク」のトピック「UNIX ノードからのエージェントの削除」および「Windows ノードからのエージェントの削除」を参照してください。OVO の再インストールを計画している場合は、管理ノードを削除する必要はありません。
  - 4 さらに、クラスタ ノードから OVO をアンインストールする場合は、次の前提条件も満たす必要があります。
    - 最初にインストールを行ったクラスタ ノードからのアンインストールは最後に行う必要があります。その他のノードでは、任意の順序でアンインストールできます。
    - アンインストールされるノードは、OVO クラスタ リソース グループの所有者である必要があります。必要に応じて **MS [クラスタ アドミニストレータ]** を使用してグループを移動してください。

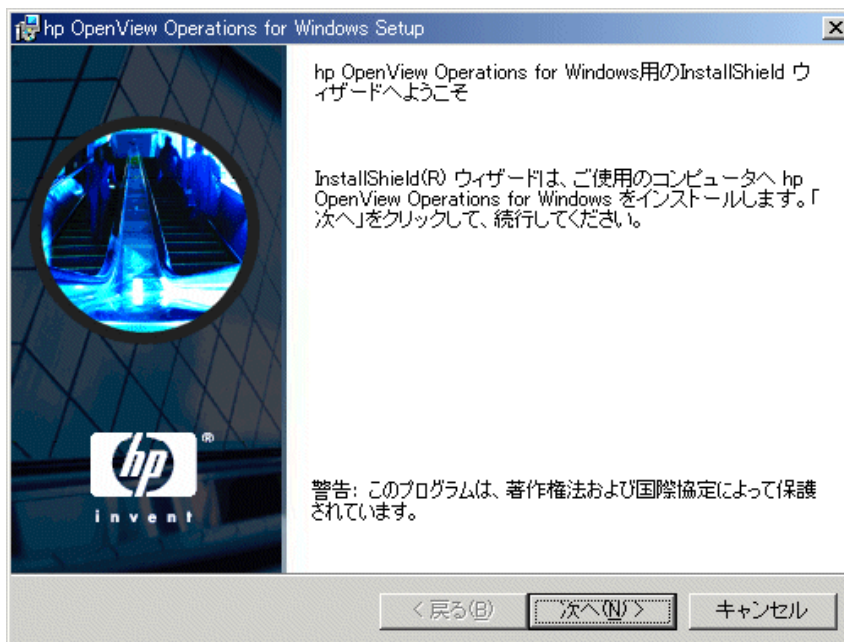
## OVO のアンインストール手順

OVO をアンインストールする手順は、次のとおりです。

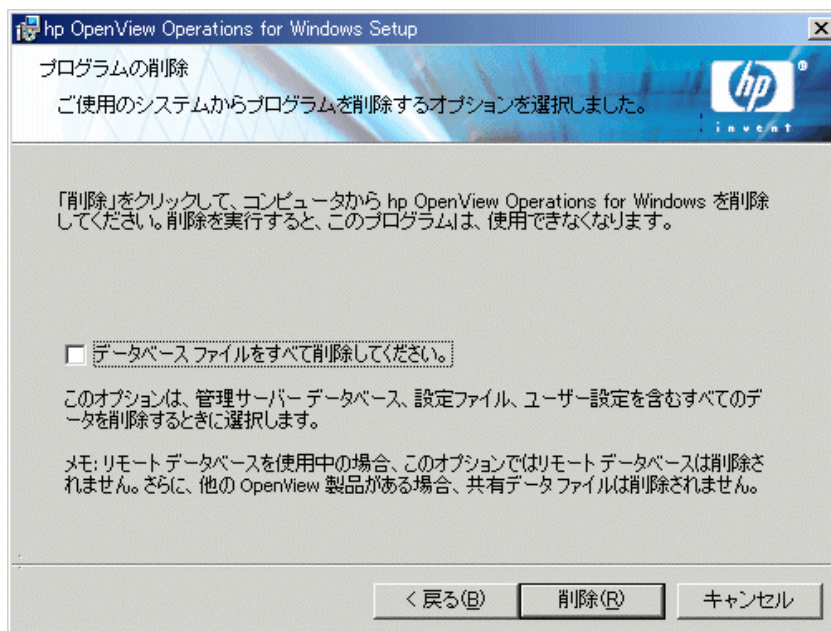
- 1 開いているすべての管理コンソールセッションを終了します。
- 2 **[プログラムの追加と削除]** ダイアログを開きます。現在インストールされているプログラムのリストから **[hp OpenView Operations for Windows]** を選択し、**[変更]** をクリックします。OVO のアンインストーラが起動されます。インストール CD から **autorun** を再実行してアンインストールを開始することもできます。



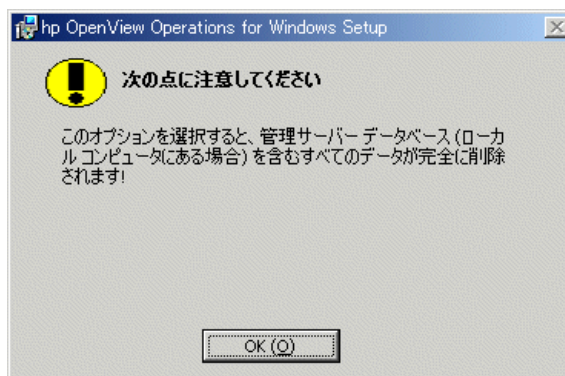
- 3 **[ ようこそ ]** 画面で **[ 次へ ]** をクリックし、**[ プログラムの削除 ]** 画面に移動します。



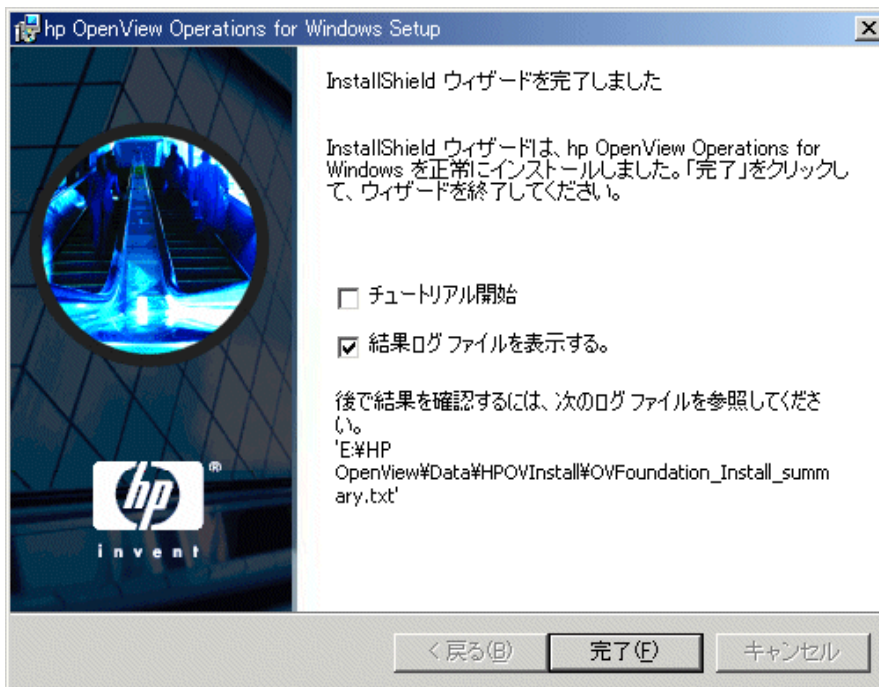
- 4 **[プログラムの削除]** ダイアログ ボックスの **[削除]** をクリックすると、現在のノードから OVO が削除されます。



- 管理サーバー データベースも含め、OVO に関連するすべてのデータを削除する場合は、**[データベース ファイルをすべて削除してください]** ボックスにチェックマークを付けます。選択内容を確認するプロンプトが表示されます。



- このボックスにチェックマークを付けても、リモート データベース、およびその他の OV 製品との共有データは削除されません。
  - リモート コンソールをアンインストールする場合は、このオプションは使用できません。
  - アンインストールの完了後もファイルやレジストリ設定 (ポリシー、ユーザーが作成したグラフ、インストールメンテーション ファイル、ファイアウォールの BBC 設定、レジストリ内の特別なサーバー設定、ユーザーロールなど) を維持する場合は、このボックスにチェックマークを付けません。これにより、OVO を再インストールする場合にデータを再利用できます。
- 5 各種ステータス ダイアログが表示されます。次のダイアログ ボックスが表示されると、OVO のアンインストールは完了します。



結果ログ ファイルの内容を調べ、アンインストール エラーや、アンインストール時に削除できなかったファイルを確認することをお勧めします。

## リモート データベースの削除

リモート データベースを使用している場合、OVO データを完全に削除するには、いくつかの手動操作を行う必要があります。[プログラムの削除] 画面で[データベース ファイル]をすべて削除してください]ボックスにチェックマークを付けても、リモート データベースは削除されません (132 ページを参照)。リモート データベースを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [Microsoft SQL Server] → [Enterprise Manager] を選択して、**Enterprise Manager** を開きます。
- 2 左側のペインで [Microsoft SQL Servers] グループを展開します。
- 3 [SQL Server Group] を展開します。
- 4 OVOW インスタンス グループ (MSSQLSERVER\OVOPS) を展開します。
- 5 [Databases] フォルダをクリックします。
- 6 右側のペインで [openview] をクリックし、キーボードの [Delete] キーを押します。openview データベースの削除を承認します。
  - ▶ 必要に応じて [データベースのバックアップと復元履歴を削除する] ボックスにチェックマークを付けてください。
- 7 右側のペインで [reporter] をクリックし、キーボードの [Delete] キーを押します。reporter データベースの削除を承認します。
  - ▶ 必要に応じて [データベースのバックアップと復元履歴を削除する] ボックスにチェックマークを付けてください。
- 8 左側のペインで [Security] フォルダを展開し、[Logins] を選択します。
  - a 右側のペインで [openview] をクリックし、キーボードの [Delete] キーを押します。ログインと、関連するデータベース ユーザーの削除を承認します。
  - b 右側のペインで [ovdb\_user] をクリックし、キーボードの [Delete] キーを押します。ログインと、関連するデータベース ユーザーの削除を承認します。
  - c 右側のペインで [ovms\_admin] をクリックし、キーボードの [Delete] キーを押します。ログインと、関連するデータベース ユーザーの削除を承認します。

## OVO for Windows の再インストール

OVO for Windows の管理サーバーとリモート コンソールの再インストールは、アンインストール後に行う 2 回目のインストールです。管理サーバーでは、データを再利用するか、全く新しくインストールするか ( この場合、サーバー データベース、ポリシーなどは完全に再作成されます ) を選択できます。

### 管理サーバーの再インストール

OVO for Windows 7.5 サーバーの再インストールでは、次の 2 つのオプションを選択できます。どちらのオプションを選択する場合も、SPI (自動的にアンインストールされます) や NNM Adapter も含めて、既存のサーバーを事前にアンインストールする必要があります。サーバーのアンインストールでは、サーバーのエージェント、および収集されたパフォーマンス データの削除も自動的に行われます。

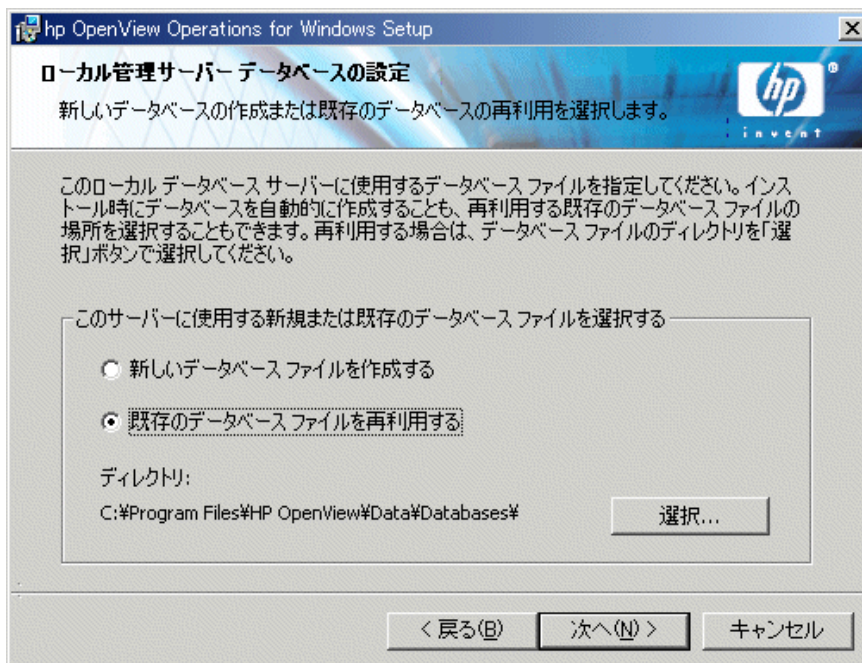
インストール手順については、63 ページの「[OVO の標準インストール](#)」を参照してください。管理サーバーの設定にデータを再利用する場合、および再利用しない場合の手順については、138 ページの「[インストール先ディレクトリ](#)」を参照してください。

## データベース

### ローカル

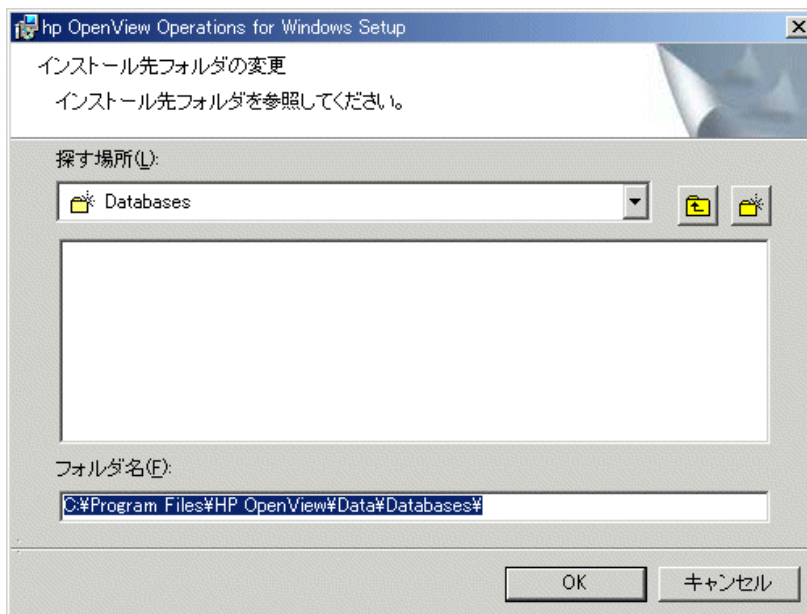
ローカル コンピュータ上のデータベース ファイルを再利用する場合は、OVOPS インスタンスが現在もインストールされ、機能していることを確認してください。

- 再インストール時は、データベース ファイルが格納されている場所へのパスを選択してください。





- データベース ファイルの場所を指定するときは、**[選択]** をクリックします。



## リモート

- クラスタ環境
  - 従来使用していたデータベースと同じリモート データベースを選択し、インストールと従来データを再接続します。また、別のデータベース サーバーを選択することもできます。
  - 単一の障害点の可能性が生じるため、クラスタ内で実行していないデータベース サーバーを選択しないでください。
- 単一システム / 非クラスタ環境
  - リモート データベースの使用を選択できます。
  - リモート データベースを設定するときは、再インストール時にローカルコンピュータに MS SQL Server 2000 の OVOPS インスタンスが存在しないことを確認してください (MSDE のインスタンスであれば問題ありません)。OVOPS インスタンスが検出された場合、インストールプログラムは、それを再利用するものと見なします。詳細については、71 ページを参照してください。

## インストール先ディレクトリ

### データを再利用する場合

- データを再利用する場合は、従来のインストールで使用していたインストール先ディレクトリとデータディレクトリ（および、クラスタ環境では、共有ディレクトリ）を使用します。これにより、インストールは古いデータに再接続できます。ただし、インストールメンテーションに変更を加えた場合は、これらのファイルは新しいインストールによって上書きされます。
- アンインストール時に、**[データベースファイルをすべて削除してください]**ボックス(132 ページを参照)にチェックマークを付けしないでください。

### データを再利用しない場合

- データを再利用しない場合は、OVO のアンインストール時に **[データベースファイルをすべて削除してください]**ボックスにチェックマークを付けます。
- また、データディレクトリ（インストール時にデータの格納先として指定したディレクトリ）のすべての内容を削除したり、再インストール時に別のディレクトリを選択する方法もあります。



その他の OpenView 製品がインストールされている場合は、ディレクトリを選択できません。これらの OpenView 製品のインストールに適用されているディレクトリ構造が検出され、それが使用されます。

## リモート コンソールの再インストール

OVO for Windows 7.5 リモート コンソールを再インストールする手順は、次のとおりです。

- 1 **[プログラムの追加と削除]**を使用して、既存のコンソールをアンインストールします。
- 2 OVO for Windows エージェントが存在する場合は、それを配布解除します。
- 3 2 回目のインストールを実行します。

## インストール後の作業

この章では、HP OpenView Operations for Windows (OVO) のインストール後に実行できる次の項目について説明します。

- 140 ページの「OVO の操作方法」
- 141 ページの「コンソールの概要」
- 144 ページの「設定可能な項目」

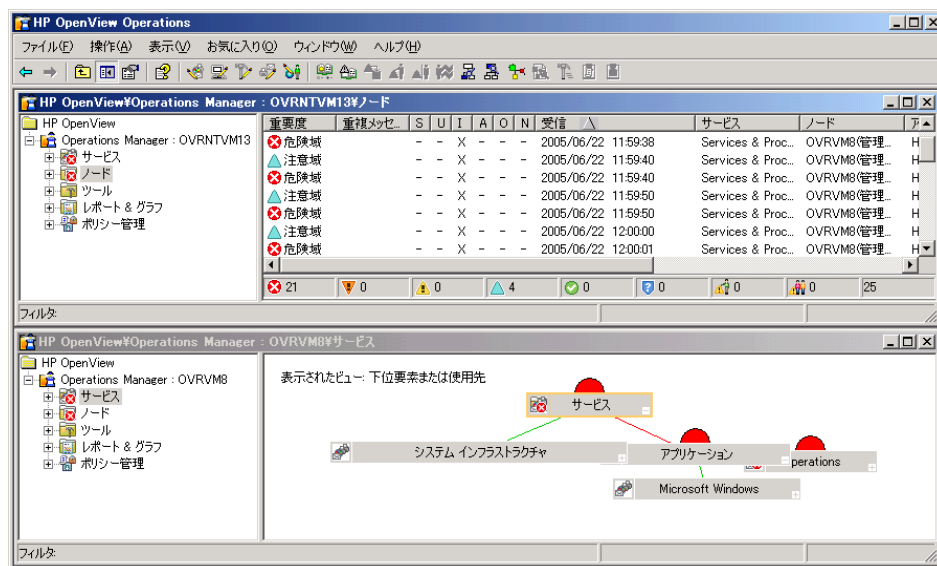
## OVO の操作方法

- 演習および例を交えて基本的なタスクの概要を対話式で説明するチュートリアルについては、基本トレーニング情報を参照してください。これは、ヘルプおよびインストール メディアからアクセスできます。インストールの完了後、コンソールを最初に開いたときに、基本トレーニング チュートリアルを表示するかどうかを確認されます。チュートリアルの最初のページは、実行する管理タスクの便利なチェックリストとして使用できます。
- ノード、ツール、サービス、ポリシー、ユーザー ロールの設定、ポリシーの配布、およびデータベース保守などの管理タスクについては、オンラインヘルプを参照してください。

## コンソールの概要

OVO コンソールを開きます。[ スタート ] メニューから、[ プログラム ] → [ HP OpenView ] → [ コンソール ] の順に選択して、OVO 管理コンソールを起動します。コンソール ツリーで、[ Operations Manager ] をクリックします。エントリの横のプラス記号 ([+]) をクリックし、ツリー内のコンテンツを展開または縮小表示し、コンソール ツリー内のナビゲートを実際に試してみます。メッセージおよびマップの表示に使用できるオプションを調べます。次に簡単な説明を示します。詳細はオンライン ヘルプを参照してください。

次の図は、本製品の起動時に開くデフォルトのコンソール ビューを示しています。2 つのウィンドウが表示されます。1 つはシステム インフラストラクチャのマップ ビューです。もう 1 つはメッセージ ブラウザです。次のように、各ウィンドウの左側にコンソール ツリーが表示され、右側に詳細ペインが表示されます。



## Microsoft Management Console (MMC) とそのメニュー

Microsoft Management Console (MMC) メニューバーは、前の図の一番上にあるメニューバーです。メニューには、[コンソール]、[ウィンドウ]、および[ヘルプ]が含まれています。MMCは、OVOなどの管理ツールに対するソフトウェアフレームワークです。MMCメニューバーからは、コンソールウィンドウの操作から新しいコンソールの作成まで、幅広いタスクを実行することができます。MMCについては、ヘルプトピック「OpenView Operations for WindowsとMMC」、またはMicrosoftのWebサイト <http://www.microsoft.com/japan/> を参照してください。

## Web コンソール インタフェース

HP OpenView Web Console は、管理ノードで発生したイベントにより生成されたメッセージを迅速かつ簡単に表示および対応できるツールです。どのような場所からも、Internet Explorer または Netscape ブラウザを使用し、メッセージの重要度を一瞬で把握し、その原因である問題を解決するための処置ができます。サポートされるブラウザのバージョンについては、第2章、「要件」を参照してください。

Web コンソールへのアクセス方法については、オンラインヘルプの「ワークスペースの管理」のトピック「Web コンソールによるメッセージの参照」を参照してください。Web コンソールには、機能解説のヘルプが別途用意されています。

## OVO メニュー

MMC メニューバーの直下にある OVO のメニューバーを使用して、OVO のタスクを実行できます。項目を選択して右クリックするとショートカットメニューが表示されます。このメニューも OVO で頻繁に使われます。

## 詳細ペイン

詳細ペイン(ウィンドウの右側)には、リスト、メッセージブラウザ、およびマップビューが表示されます。これらのビューを並べて表示し、複数のウィンドウを同時に参照することができます。

## コンソール ツリー

コンソール ツリー ( ウィンドウの左側 ) には、次に示す OVO の主要コンポーネントを表すフォルダがリスト ビューとして表示されます。

- **サービス** : コンピューティング環境にある 1 つ以上のハードウェアまたはソフトウェア コンポーネントによって提供される、カスタマベース、ユーザー指向、またはインフラストラクチャの機能です ( 電子メール、ネットワーク帯域幅、アプリケーション アクセスなど )。ポリシーは、指定されたサービス利用者に対して適切なサービス レベルが確実に提供されるようにするために役立ちます。
- **ノード** : OVO 管理サーバーから管理できるコンピュータ システムまたはインテリジェント デバイスです。OVO では、Windows ノードおよび UNIX ノードの両方を管理できます。
- **ツール** : OVO では、ツールはタスクの実行に使用するソフトウェア プログラムまたはコマンドです。たとえば、URL、実行ファイル、あるいは Visual Basic スクリプトをリモートの管理ノード上で実行するように設定することができます。
- **ポリシー ( コンソール ツリーで [ ポリシー管理 ] の下に表示されています )** : ネットワークおよびサービスの管理を自動化するために利用される仕様またはルールです。OVO 管理者は、社内全体で一貫性のある自動管理を行うために、管理ノードにポリシーを配布します。ポリシーは、管理ノードで監視および記録する情報や、管理サーバーからコンソールに転送するイベントおよびメッセージを指定するテンプレートと見なすことができます。
  - UNIX ノードに配布できる UNIX 用のポリシーおよびツールが提供されています。
  - Self Manager は、管理サーバーおよび管理ノードに配布して、OVO サーバーおよびエージェントを管理することができます。
- **SPI** : Exchange アプリケーションなど、特定タイプのビジネス アプリケーションやデータベースを管理するための、あらかじめパッケージされたソフトウェアです。SPI は OVO サーバーにインストールされ、コンピュータ システムの運用を管理するために必要なデータ ソース、ポリシー、診断ルール、修正アクションを含んでいます。SPI はヘルプ システムも備えているため、他のタイプのドキュメントも提供できます。

## 設定可能な項目

管理者は、ソフトウェアの特定の要素を設定することができます。次のリストは、設定タスクの概要を示しています。

OVO の設定方法については、基本トレーニング チュートリアル、およびコンソールからオンライン ヘルプを参照してください。管理タスクの多くは、管理者しか実行できませんが、すべてのユーザーが実行できるタスクもあります。それらのタスクには、いずれもオペレータが実行する機能を管理するユーザー ロールを割り当てることができます。

- **ユーザーの追加：**適切なセキュリティ グループへのユーザー (OVO の管理者およびオペレータ) の追加。
- **ノードの設定：**ノード (システム) を、管理できるように設定します。設定する項目には、管理するシステム (ノード) の選択、およびノード、サービスおよびユーザー ロールが利用できるツールの選択があります。設定されたノードは、直ちに管理ノードとなります。管理サーバーは、インストール時に自動的に管理ノードとして追加されます。
- **サービスの設定：**ビジネス サービスを OVO の機能に関連付けるには、サービス階層内のサービスの依存関係と、関連するサービスのステータスに基づいてレベルを評価するルールを定義します。開始する際には、ステータス伝達およびステータスの計算ルールにデフォルト値を使用することができます。
- **ツールの設定：**オペレータが管理ノードおよびサービスに対して使用できるツールを指定します。オペレータは許可されたツールを使用して、メッセージブラウザで報告された業務上重大な影響を与える問題の解決や、管理環境に関する情報の報告を行います。これらのツールは、サービス、管理ノードおよびユーザー ロールに関連付けることができます。またツールは、定義済みのノード リストで実行するように設定することもできます。
- **ユーザー ロールの設定：**管理者は、特定の割り当てられたタスクと責任が重点的に表示されるように、オペレータのビュー環境を設定することができます。特定のユーザーにロールを定義することにより、オペレータに対し企業情報を表示する方法や、実行を許可するアクティビティの範囲を制御できます。各ユーザーに特定のロールを適切に定義し割り当てることで、独自の特殊技能や経験を持つ個人の集団全体に監視タスクと保守タスクを割り当て、各自のコンソール表示方法をカスタマイズすることができます。
- **サービス タイプの設定：**サービスのインスタンス作成時に使用するサービス タイプのプロパティを指定できます。サービス タイプはテンプレートに似ていて、特定のレポート、グラフ、ツール、または配布パッケージに関連付けることができます。このような関連付けを行ったサービス タイプは、関連す



るサービスのインスタンス作成時に使用されます。各サービス タイプに関連付けられたツール、レポート、グラフ、および配布パッケージは、このサービスの過去または未来の各インスタンスに関連付けられます。サービス タイプに属するサービスは、すべてこの特性を持ちます。

- **ポリシーの作成または編集:** 事前設定済みのデフォルト ポリシーを使用するほかに、1 つまたは複数のデフォルト ポリシーのバージョンをコピーして修正するか、またはいずれかのポリシー タイプから新しいポリシーを作成することで、ユーザー定義ポリシーを設定することができます。また、メッセージ ブラウザで受信したメッセージに関連する問題を解決するための自動またはオペレータ起動コマンドを作成することもできます。
- **メッセージ フィルタの設定 (オペレータまたは管理者):** メッセージ ブラウザには、管理サーバーで管理されるノードから受信したメッセージが、管理者による設定に基づいて表示されます。オペレータはフィルタを設定することで、特定の基準に合致したメッセージだけが表示されるように、メッセージの表示方法をさらにカスタマイズすることができます。
- **管理ノードのパフォーマンス データの収集:** HP OpenView Operations for Windows エージェントは、データを収集するすべての Windows 管理ノードに配布されます。
- **パフォーマンス グラフの表示:** 収集されたパフォーマンス データに基づいたグラフを表示することで、パフォーマンス上の問題を診断し、傾向を検出できます。デフォルトのグラフをカスタマイズしたり、独自のグラフを作成することもできます。
- **Microsoft Windows サービスの管理:** 事前設定済みのデフォルトのポリシーを使い、その間に、メッセージ ブラウザに表示されたイベントから、ニーズに正確に適合させるためのポリシーの変更方法を判断します。
- **UNIX ノードの管理:** OVO には、UNIX ノードを管理するためのエージェントが付属しています。これらのエージェントをインストールしてアクティブ化すると、UNIX システムを管理するための事前定義済みデフォルト ポリシーとツールを配布できます。
- **Self Manager を使用した OVO の管理:** Self Manager は OVO サービスおよびエージェントを管理します。これは、管理サーバーに自動的に配布されます。エージェントを管理するには、管理ノードに Self Manager ポリシーを配布します。





## ドキュメント

OVO に関する情報は、いくつかの情報源から参照できます。環境設定の方法、日々の管理作業、およびコンソールでのメッセージ、マップを用いたイベントの監視や解決に関して、1,900 を超えるトピックを含むヘルプ システムが主要な情報源となります。

- OVO のインストール メディアには、広範な製品ドキュメントが用意されています。
- 各 OVO コンポーネントにはヘルプ システムも提供されています。
- Adobe Acrobat PDF 形式のマニュアルが、製品 CD の \Documentation ディレクトリに格納されています。
- OVO for Windows に関連する PDF ファイルは、管理サーバーの次のディレクトリにインストールされています。  
%OVInstallDir%\NLS\1041\Manuals\

この付録は、インストール、アップグレード、最新リリースに関する情報を参照できるドキュメントの一覧を示します。

- OVO for Windows
- SPI for Windows Operating System
- SPI for Unix Operating System
- SPI for WebServer

- エージェントのインストール
- Network Node Manager
- NNMA のインストール
- NDAOM のインストール
- OpenView Performance Agent
- OpenView Performance Manager
- Reporter

## HP OpenView Operations for Windows

ドキュメント名	ファイルと場所	目的
チュートリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インストール後に自動表示</li> <li>• ヘルプ システムの目次： 「チュートリアル」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本的な設定およびセットアップ作業に関するチュートリアル</li> <li>• このチュートリアルの参照を強くお勧めします</li> </ul>
OVO ヘルプ システム (すべての手順および作業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OVO コンソールの [ヘルプ] ドロップダウン メニュー</li> <li>• ショートカット メニュー</li> <li>• ダイアログ ボックスの [ヘルプ] ボタン</li> <li>• 管理サーバー上の %Ovinstalldir%\NLS\1041\Help\console.chm を開き、単独実行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設定作業 <ul style="list-style-type: none"> <li>— ノードの設定</li> <li>— サービスの設定</li> <li>— ツールの設定</li> <li>— ユーザー ロールの設定</li> <li>— サービス タイプの設定</li> </ul> </li> <li>• ポリシー関連作業 <ul style="list-style-type: none"> <li>— ポリシーの作成、編集、配布、削除、保存、有効化、無効化</li> <li>— エージェントのインストールと削除</li> <li>— ポリシーおよびポリシー グループ</li> </ul> </li> <li>• ポリシーの設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>— ソースの設定</li> <li>— コマンド ライン プログラム</li> <li>— ポリシー タイプ</li> </ul> </li> <li>• 提供される SPI <ul style="list-style-type: none"> <li>— Windows OS SPI</li> <li>— UNIX OS SPI</li> <li>— WebServer SPI</li> </ul> </li> <li>• 購入したその他の SPI</li> </ul>

## ドキュメント

ドキュメント名	ファイルと場所	目的
HP OpenView Operations インストールガイド バージョン 7.5	OVOW Install guide.pdf OV Operations 7.5 for Windows ディスク	インストール要件、インストール手 順、セキュリティ情報を説明
HP OpenView Operations アップグレードガイド バージョン 7.5	OVOW Upgrade guide.pdf OV Operations 7.5 for Windows ディスク	前のバージョンから HP OpenView Operations for Windows 7.5 へのアッ プグレード プロセスを説明
OVOReadMe	OVOReadMe.html OV Operations 7.5 for Windows ディスク	最新の変更内容とリリース ノート を収録

## Smart Plug-in for Windows Operating System

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
Windows OS SPI リリース ノート	新規および更新された SPI の CD の \Documentation\ReleaseNotes  WindowsOS ReleaseNotes.html  OVO スタートアップ CD の \Documentation\ReleaseNotes	Smart Plug-In for Microsoft Windows Operating System に関 する情報を収録

## Smart Plug-in for UNIX Operating System

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
UNIX OS SPI リリース ノート	新規および更新された SPI の CD の \Documentation\ReleaseNotes  UNIXOS ReleaseNotes.html  OVO スタートアップ CD の \Documentation\ReleaseNotes	Smart Plug-In for Unix Operating System に関する情報を収録

## Smart Plug-in for Web Server

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
Web Server リリース ノート	新規および更新された SPI の CD の \Documentation\ReleaseNotes  WebServer ReleaseNotes.html  OVO スタートアップ CD の \Documentation\ReleaseNotes	Smart Plug-in for Web Servers for OVO Windows に関する情 報を収録

## エージェントのインストール

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
Windows エージェントの手動インストール	オンライン ヘルプ: 「環境の管理」→ 「ポリシーの管理と配布」→ 「配布関連のタスク」→ 「Windows へのエージェントの手動インストール」	Windows へのエージェントのインストールに関する情報を提供
OVO エージェントの ReadMe	オンライン ヘルプ: 「環境の管理」→ 「ポリシーの管理と配布」→ 「配布関連のタスク」→ 「Windows コンピュータへのエージェントの手動インストール」	ソフトウェア要件とハードウェア要件、およびインストール手順を紹介
UNIX コンピュータへのエージェントのインストール	オンライン ヘルプ: 「環境の管理」→ 「ポリシーの管理と配布」→ 「配布関連のタスク」→ 「UNIX コンピュータへのエージェントのインストール」	UNIX へのエージェントのインストールに関する情報を提供
UNIX の OVO エージェントの ReadMe <ul style="list-style-type: none"> <li>• AIX へのエージェントのインストール</li> <li>• HP-UX へのエージェントのインストール</li> <li>• Linux へのエージェントのインストール</li> <li>• OpenVMS へのエージェントのインストール</li> <li>• Solaris へのエージェントのインストール</li> <li>• Tru64 へのエージェントのインストール</li> </ul>	オンライン ヘルプ: 「環境の管理」→ 「ポリシーの管理と配布」→ 「配布関連のタスク」→ 「UNIX コンピュータへのエージェントのインストール」	ソフトウェア要件とハードウェア要件、およびインストール手順を紹介



## Network Node Manager

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
Windows NT/2000 インストールガイド	Installation_Guide.pdf Network Node Manager ディスク	インストールの要件と手順を 紹介
HP OpenView ネットワーク ノード マネージャ ネットワーク 管理ガイド	Managing_Your_ Network.pdf Network Node Manager ディスク	ネットワーク管理に NNM 7.5 を使用する方法を説明
A Guide to Scalability and Distribution for HP OpenView Network Node Manager	Scalability_and_ Distribution.pdf Network Node Manager ディスク	HP OpenView ネットワーク ノード マネージャ 7.5 リリ ースに関する情報を収録

## NNMA のインストール

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
HP OpenView NNM Adapter for OVO for Windows	オンライン ヘルプの「NNM ア ダプタ」	更新機能とメッセージサービ ス機能、NNMA ユーティリ ティと問題解決機能など、製 品に関する情報を収録
NNM Adapter のインストール の概要と前提条件	オンライン ヘルプの「NNM Adapter」→「NNM Adapter の インストール」	インストールの要件と手順を 紹介

**NDAOM のインストール**

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
HP OpenView Network Diagnosis Add-On Module	オンライン ヘルプの「Network Diagnosis Add-on module」	インストール手順、統合機能 など、製品に関する情報を収録

**Performance Agent**

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
Performance Agent インストール、構成ガイド	mwainst.pdf Performance Agent ディスク	インストール手順と設定手順 を説明
Performance Agent ユーザー ガイド	mwausers.pdf Performance Agent ディスク	HP OpenView Performance Agent for UNIX 製品の概要と 使用に関する情報を提供
Performance Agent データソース統合ガイド	mwadsi.pdf Performance Agent ディスク	HP OpenView Performance Agent の Data Source Integration (DSI) の概要、情報、および使 用例を提供
Performance Agent Dictionary of OS Performance Metrics	MWA-metrics.pdf Performance Agent ディスク	使用できるオペレーティング システムのメトリックを示す リファレンス マニュアル
リリース ノート	mwa Performance Agent ディスク	HP OpenView Performance Agent リリースの情報を提供

## Performance Manager

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
インストール前に	ReadMeFirst.htm HP OpenView Performance Manager ディスク	HP OpenView Performance Manager をインストールする前の留意点
What's New	WhatsNewWithOVPM.pdf HP OpenView Performance Manager ディスク	HP OpenView Performance Manager 5.0 リリースの新機能の概要を紹介
OVPM リリース ノート	OVPMReleaseNotes.htm HP OpenView Performance Manager ディスク	HP OpenView Performance Manager 5.0 リリースの情報を提供
ユーザーガイド、チュートリアル	OVPMUserGuide.pdf HP OpenView Performance Manager ディスク	HP OpenView Performance Manager の製品概要と使用に関する情報を提供
管理者ガイド	OVPM_admin_guide.pdf HP OpenView Performance Manager ディスク	設定、セキュリティ、トラブルシューティングなど、管理者の作業を説明
PerfView から OVPM への移行	PVMigrate.pdf、 PVtoOVPM.pdf HP OpenView Performance Manager ディスク	HP PerfView の顧客情報の移行に関する情報を収録

**Reporter**

ドキュメント名	ファイルまたは場所	目的
コンセプト ガイド	ConceptsGuide.pdf Reporter ディスク	製品の概要および機能を説明
インストール、構成ガイド	Install_Config.pdf Reporter ディスク	インストール手順を説明
ReadMeFirst	ReadMeFirst.htm	最初の手順のガイド
Reporter リリース ノート	reporterreleasenotes.htm Reporter ディスク	HP OpenView Reporter 3.6 リリースの情報を提供
Reporter リリース ノート	OVO スタートアップ CD の \Documentation\ Release Notes\ Reporter3.6ReadMe	OVO の統合と設定に関する 情報を収録

注意 : Reporter の完全バージョンをインストールした場合、これらのドキュメントはハードディスクにインストールされます。

# システム要件のチェック

## 改善されたシステム要件チェック

FDR25430 - 必要条件の事前チェック (サーバーおよびコンソールのみを対象)

表 1 は、OVOW 7.5 サーバーおよびリモートコンソールのすべての必要条件チェックを示しています。「条件」列に対する回答が「はい」である場合は、チェックに合格しています。合格していない場合は、対応するエラーまたは警告メッセージが出力されます。

表 1 - 必要条件チェック

条件	エラー番号	エラー (E) 警告 (W)	メッセージ テキスト / 対応方法
<b>最初の列の質問に対する回答が「いいえ」の場合は必要条件チェックに不合格です。</b>			
<b>インストール開始時のチェック</b>			
管理者権限を持っていますか。	5001	E	この製品をインストールするには、少なくともローカル管理者権限が必要です。
MSI エンジンのバージョンは 2.0 以降ですか。	5002	E	インストール プログラムの起動には setup.exe を使用する必要があります。
インストール モードは「サイレント」ではありませんか。	5003	E	Windows インストーラのサイレント モードでインストールを行うことはできません。
Internet Explorer のバージョンは 5.0 以降ですか。	5004	E	このインストールを続けるには、Internet Explorer 5 以降がインストールされている必要があります。
必要条件リストに記載されているタイプの O/S を使用していますか。	5005	E	インストールを行うには、コンピュータで Windows 2000、Windows XP、または Windows 2003 Server を実行している必要があります。

## システム要件のチェック

VantagePoint for Windows はインストールされていませんか。	5006	E	このインストールを続けるには、VantagePoint for Windows を削除する必要があります。
system32 に VantagePoint for Windows のファイルは存在しませんか。	5007	E	この製品の動作を妨げる VanatagePoint for Windows ファイルが system32 フォルダに存在します。 注意: 原因となるファイルの削除を行うための「はい/いいえ」形式のダイアログが表示されます。「いいえ」を選択した場合、インストールは終了します。
OVOW がインストールされている場合、そのバージョンは 7.10 以降ですか。	5008	E	OpenView Operations for Windows バージョン A.7.0x が検出されました。自動的にアップグレードできるのは、バージョン A.07.10 以降のみです。詳細については、アップグレードガイドを参照してください。
OVOU エージェントは存在していませんか。	5009	E	OpenView Operations for UNIX がこのシステムを管理しています。OpenView Operations for Windows をインストールするには、事前にシステムを管理対象から外す必要があります。
OVOW エージェントがインストールされている場合、そのバージョンは 7.50 以降ですか。	5010	E	システムで検出された OpenView Operations for Windows エージェント (バージョン <DETECTED VALUE>) は、この製品と互換性がありません。セットアップを実行する前に、これをアップグレードするか、削除する必要があります。
互換性のある OV 製品だけがインストールされていますか。	5011	E	<a href="#">アクション項目 1</a> を参照してください。
<b>サーバーとリモートコンソールの両方に適用されるチェック</b>			
ターゲット O/S は 32 ビットですか。	5012	E	OpenView Operations for Windows をインストールできるのは、32 ビットアーキテクチャシステムのみです。
Windows Scripting Host のバージョンは 5.0 以降ですか。	5013	E	Windows Scripting Host バージョン X.X が検出されましたが、バージョン 5.0 以降が必要です。Windows Scripting Host ソフトウェアをアップグレードしてからセットアップを再実行してください。

%TMP% または %TEMP% は有効なディレクトリをポイントしていますか。	5014	E	環境変数 %TEMP% (または %TMP%) が設定されていない、または実在するディレクトリを参照していません。システムの環境設定にこの変数を設定してからセットアップを再実行してください。
システムの %Path% に Wbem ディレクトリがすでに存在していますか。	7001	W	%Path% に %windir%\system32\Wbem ディレクトリが存在しません。システムの Path 環境変数にこのディレクトリを追加してからセットアップを再実行してください。
<b>サーバーのみに適用されるチェック</b>			
検出された O/S は、Windows 2000 Server SP2 より前のバージョンです。	5015	E	検出されたオペレーティング システムのバージョンは <DETECTED VALUE> です。管理サーバーは、Windows 2000 Server (SP2 以降) または Windows 2003 のみで動作します。
検出された O/S は、Windows 2000 Server SP4 より後のバージョン、または Windows 2003 SP0 より後のバージョンです。	7012	W	検出されたオペレーティング システムのバージョンは <DETECTED VALUE> です。管理サーバーは Windows 2000 Server (SP2 から SP4) および Windows 2003 SP0 で正しく動作することが確認されています。
仮想メモリの容量は必要最小量の 512 MB 以上ですか。	5016	E	システムの仮想メモリの容量 (<DETECTED VALUE>) は、製品または選択しているオプションには不足しています。512 MB 以上が必要で、1,024 MB が推奨されます。
物理メモリの容量は必要最小量の 512 MB 以上ですか。	5017	E	システムの物理メモリの容量 (<DETECTED VALUE>) は、製品または選択しているオプションには不足しています。512 MB 以上が必要で、768 MB が推奨されます。
レジストリの空き容量は十分ですか。	5019	E	システムのレジストリの空き容量 (<DETECTED VALUE>) は、製品または選択しているオプションには不足しています。この容量は <a href="#">(アクション項目 2)</a> 以上である必要があります。

## システム要件のチェック

SNMP はインストールされていますか。	5020	E	管理サーバーが正しく機能するには、SNMP がインストールされている必要があります。SNMP を有効にしてからセットアップを再実行してください。
DHCP は無効化されていますか。	5021	E	管理サーバーが正しく機能するには、DHCP が無効化されている必要があります。DHCP を無効にしてからセットアップを再実行してください。
TCP/IP は有効化されていますか。	5022	E	管理サーバーが正しく機能するには、TCP/IP が有効化されている必要があります。TCP/IP を有効にしてからセットアップを再実行してください。
IIS は有効化されていますか。	5024	E	管理サーバーが正しく機能するには、IIS が有効化されている必要があります。IIS を有効にしてからセットアップを再実行してください。
仮想メモリの容量は推奨量の 1,024 MB 以上ですか。	7002	W	システムの仮想メモリの容量 (<DETECTED VALUE>) は、推奨値の 1,024 MB 未満です。
プライマリ DNS サフィックスは設定されていますか。	7003	W	このシステムの DNS サフィックスは設定されていません。クライアントシステムがサーバーのホスト名を解決できない場合、エージェントと管理サーバーの間の通信に問題が生じる可能性があります。
Internet Explorer のバージョンは 5.5 以降ですか。	7004	W	このシステムで検出された Internet Explorer のバージョンは <DETECTED VALUE> です。Web コンソールを使用するには、バージョン 5.5 以降をインストールする必要があります。
IIS サーバー サービスは開始されていますか。	7005	W	このシステムでは、IIS World Wide Web Publishing サービスが開始されていません。このサービスは、インストール時にセットアップ プログラムによって自動的に開始されます。
物理メモリの容量は推奨値の 768 MB 以上ですか。	7010	W	システムの物理メモリの容量 (<DETECTED VALUE>) は、推奨値の 768 MB 未満です。



MDAC のバージョンは、リモート データベース サーバーの選択に必要なバージョンですか。	7011	W	検出された MDAC (Microsoft Data Access Components) のバージョンは <DETECTED VALUE> です。MDAC のバージョンが %s 以降でない場合、この後のセットアップ ウィザードでリモート データベース サーバー オプションを選択できません。ローカル データベース サーバー オプションを使用してインストールを行う場合は、この警告を無視してください。
<b>リモート コンソールのみ適用されるチェック</b>			
検出された O/S は Windows XP SP0、または Windows 2000 SP0、または Windows 2003 SP0 より前のバージョンですか。	5025	E	検出されたオペレーティング システムのバージョンは <DETECTED VALUE> です。リモート コンソールは、Windows XP (SP0 以降)、Windows 2000 Server (SP2 以降)、または Windows 2003 のみで動作します。
検出された O/S は、Windows XP SP1、または Windows 2000 Server SP4、または Windows 2003 SP0 より後のバージョンです。	7013	W	検出されたオペレーティング システムのバージョンは <DETECTED VALUE> です。リモート コンソールは、Windows XP (SP0 および SP1)、Windows 2000 (SP0 から SP4)、および Windows 2003 SP0 で正しく動作することが確認されています。
仮想メモリの容量は必要最小量の 512 MB 以上ですか。	5026	E	システムの仮想メモリの容量 (<DETECTED VALUE>) は、製品または選択しているオプションには不足しています。512 MB 以上が必要で、768 MB が推奨されます。
物理メモリの容量は必要最小量の 256 MB 以上ですか。	5027	E	システムの物理メモリの容量 (<DETECTED VALUE>) は、製品または選択しているオプションには不足しています。256 MB 以上が必要で、512 MB が推奨されます。
レジストリの空き容量は十分ですか。	5028	E	システムのレジストリの空き容量 (<DETECTED VALUE>) は、製品または選択しているオプションには不足しています。この容量は <a href="#">(アクション項目 2)</a> 以上である必要があります。

仮想メモリの容量は推奨量の 768 MB 以上ですか。	7008	W	システムの仮想メモリの容量 (<DETECTED VALUE>) は、推奨値の 768 MB 未満です。
物理メモリの容量は推奨値の 512 MB 以上ですか。	7009	W	システムの物理メモリの容量 (<DETECTED VALUE>) は、推奨値の 512 MB 未満です。
<b>インストール先ディレクトリの選択後に製品に適用されるチェック</b>			
ターゲットドライブはローカルな固定ディスクですか。	5029	E	プログラムのインストール先として選択したディレクトリは、ローカルドライブに存在しません。ローカルドライブ上のディレクトリを指定する必要があります。
ターゲット ディレクトリは NTFS レベルで暗号化されていませんか。	5030	E	プログラムのインストール先として選択したディレクトリは、NTFS レベルで暗号化されています。暗号化を解除するか、別のディレクトリを選択する必要があります。
サーバー用のディスク容量として NNN 以上、リモートコンソール用として NN 以上が確保されていますか。	5031	E	プログラムのインストール先として選択したディレクトリは、指定した製品またはオプションをインストールするには空き容量が不十分なドライブに存在します。別のインストール先を指定する必要があります。

#### 必要条件チェック ダイアログ

選択しているオプション (サーバーまたはリモート コンソール) に対する、システムの必要条件チェックの結果は、エラー、警告、情報の 3 つのセクションから構成されるテキスト ウィンドウに表示されます。

- エラーとは、インストールの失敗を招く検出結果 (条件) を意味します。エラーがレポートされた場合、[次へ] ボタンが無効化されるため、インストールを続けられなくなります。このダイアログから進んでインストールを継続するには、すべてのエラー条件を解決する必要があります。
- 警告は、インストールの失敗を招くことはないが、製品の機能を影響したり、インストールを続ける前にユーザーがシステムの再設定を検討する必要がある検出結果 (条件) を意味します。
- 情報セクションには、警告またはエラー以外の情報が表示されます。

## 数字

7.5 後のサポート終了 , 4

7.5 でのサポート終了 , 4

## A

Active Directory, 13, 16, 23, 30, 34, 97

Autorun, 67

## D

DCE

Windows 管理ノードとの通信 , 31

DCE RPC, 31

DHCP, 33

DNS 検出 , 23

## H

HP ITO, 19, 37, 38

HP ITO Account, 39, 38

HP-OVE-GROUP, 35

ドメイン インストール , 79

変更不可能に関する警告 , 111

HP-OVE-GROUP アカウント , 35

## I

IIS, 26

Internet Information Services (IIS), 26

IP アドレス , 33

## L

LocalSystem アカウント , 37

## M

MMC

リモート コンソールのサポート条件 , 79

MSDE, 50, 96

## O

opc\_op アカウント , 40

opc\_op, 38

OpenView Performance Agent (OVPA), 32

OVO CD, 14

OVO for Windows

インタラクティブ チュートリアル , 140

コンソールの概要 , 141

主要コンポーネント , 143

設定タスク , 144

## 索引

- OVO for Windows の再インストール, 135
  - データの再利用, 138
  - データの再利用なし, 138
- OVPA, 32

## S

- Smart Plug-in
  - UNIX Operating System 対応, 13
  - Web Server 対応, 14
  - Windows Operating System 対応, 13

## SPI

- Smart Plug-in for Web Server, 14
- UNIX OS SPI, 13
- Windows OS SPI, 13

- SQL Server 2000 のサポート, 31

## U

- UNIX
  - エージェントの手動インストール, 19, 32
- UNIX OS SPI, 13

## W

- Web コンソール, 24, 142
- Windows NT, 33
- Windows OS SPI, 13
- Windows 管理ノード
  - ポリシーとパッケージのアンインストール, 127

## あ

- アカウント, 38
  - LocalSystem, 37
- アップグレード, 25

- アンインストール
  - Windows 管理ノードからのポリシーとパッケージのアンインストール, 127
  - 前提条件, 128

## い

- インストール
  - インストール ガイド 7.21 からの情報の転載, 12
  - インストール用メディアのファイルのコピー, 15
  - エージェント サービス, 28
  - エージェントのインストール, 19
  - エージェントの手動インストール, 32
  - 管理サーバー, 34, 64
  - クラスタ, 89
  - 計画用チェックリスト, 17
  - 結果, 85
  - 高度なセキュア Windows 環境, 86
  - コンソール, 34, 64
  - スタートアップ CD 内のドキュメント, 14
  - 前提条件, 25, 66
  - ターミナル サービスの使用, 65
  - 手順, 67
  - ネットワーク, 79
  - 標準、非クラスタ環境, 63
  - 前のバージョンからのアップグレード, 63
  - リモート データベース, 49
  - ログ ファイル, 85, 123

## え

- エージェント
  - CD, 14
  - インストール, 19
  - サポート マトリクス, 22
  - 手動インストール, 32
  - 必要サービス, 27

## か

- 管理サーバー
  - インストール, 34, 64
  - 他のドメインからのノードの追加, 36
- 管理ノード
  - 追加, 35

## く

- クラスタ
  - インストールの検証, 124
  - 管理サーバーとコンソールのインストール, 93
  - 構成データ, 92
  - 最初のクラスタ ノードへの OVO のインストール, 100
  - サポートされない構成, 96
  - すべてのクラスタ ノードのコア SPI, 126
  - 残りのクラスタ ノードへのインストール, 118
  - 要件, 95
- クラスタ インストール, 89
- クラスタ構成, 90

## こ

- 高度なセキュア環境, 86
- コンソール
  - Web コンソール, 24
  - インストール, 34, 64

## さ

- 再インストール計画用チェックリスト, 19
- サポートされない設定, 33

## し

- システム要件のチェックに関するメッセージ, 157

## せ

- セキュリティ, 38
  - 管理サーバーのインストール, 34
  - 管理ノードの追加, 35
  - コンソールのインストール, 34
  - 設定失敗, 36

## そ

- ソフトウェア要件, 33
  - 管理コンソール, 23
  - 管理コンソール / サーバー結合システム, 23

## た

- ターミナル サービス, 65

## て

- データベースのバックアップ, 15

## と

### ドキュメント

- NDAOM のインストール , 154
- Network Node Manager, 153
- NNMA のインストール , 153
- OVO for Windows, 149
- Performance Manager, 155
- Performance Agent, 154
- Reporter, 156
- Smart Plug-in for UNIX Operating System SPI, 151
- Smart Plug-in for Web Server, 151
- Smart Plug-in for Windows Operating System SPI, 151
- エージェントのインストール , 152

### ドメイン , 18, 19, 23, 24

- Net Logon サービス , 28
- 管理ノードとしてのプライマリドメイン  
コントローラ (PDC) の追加 , 36
- 構成データ , 92
- コントローラにはサーバーまたはコン  
ソールをインストールできない , 65
- サポートされない設定 , 33
- セキュリティ要件 , 34
- ドメイン インストール , 35, 79
- ドメイン ユーザー `opc_op` アカウント , 41
- ネットワーク要件とプロトコル , 30
- 他のドメインからの管理ノードの追加 , 36
- リモート コンソールのインストール , 64

## ね

ネットワーク プロトコル , 31

## は

バックアップ , 134

ハードウェア要件 , 33

OVO for Windows, 21

管理コンソール / サーバー結合システム ,  
22

### パスワード

- 各コンピュータで異なる HP ITO Account,  
40
- パスワードなしで実行できるように定義  
されたツール , 36
- 標準版ライセンスのパスワード , 66

### パッケージ

Windows ノードからのアンインストール ,  
127

## ふ

### ファイアウォール

- ICMP の有効化 , 43
- OVO Web コンソールとの通信 , 48
- 管理サーバーでの設定 , 42
- 管理サーバーとの通信 , 42
- ファイアウォール環境での OVO の使用 ,  
42
- リモート コンソールとの通信 , 44

### プライマリドメイン コントローラ

管理ノード , 36

## ほ

### ポリシー

Windows ノードからのアンインストール ,  
127

## め

メディア キット , 15

## ら

- ライセンス
  - OVO for Windows, 66
  - 使用許諾契約, 75
  - 前提条件, 84
  - ツールの起動, 84
  - 標準版ライセンスの取得, 82
- ライセンスレポート, 84

## り

- リモート コンソール
  - インストール, 65
  - 再インストール, 138
- リモート データベース, 49
  - アンインストール, 134
  - 設定ツール, 51
- リモート データ リポジトリ構成, 50
- ローカル データ リポジトリ構成, 49

